巽軒日記

―自明治三三年至明治三九年―

『巽軒日記―自明治三三年至明治三九年―』の刊行にあたって

このたび、東京大学史史料室が刊行する『巽軒日記―自明治三三年至明治三九年―』とは、明治期から昭和戦前期にかけて哲学者として活躍した井上哲次郎（一八五五～一九四四年）の日記の一部翻刻である。本解題にもあるとおり、東京大学創立百周年記念事業であった『東京大学百年史』編纂の折りに、井上家より本学に『巽軒日記』八四冊をご寄贈いただいたものである。日記とともに、雑記帳及びノート二冊も合せて本学に井上家より寄贈されている。百年史編纂以降も、それら貴重な井上哲次郎の関係史料は百年史編集室から受け継ぐかたちで、大学史史料室が現在保存している。

筑前大宰府の医家に生れた井上哲次郎は、東京開成学校予科を経て、東京大学文学部哲学科に進学し、一八八〇年七月同科の第一回卒業生となっている。東京大学助教授としてドイツへ留学し、帰国後の一八九〇年十月には邦人として初めての帝国大学哲学科教授に就任している。ドイツ哲学の論理を基盤としつつも、東洋思想の哲学的研究の道を模索探究した。『日本陽明学派之哲学』（一九〇〇年）、『日本古学派之哲学』（一九〇二年）、『日本朱子学派之哲学』（一九〇五年）などは、井上の代表的な研究業績である。初めの『巽軒日記』（自明治二六年至明治二九年）は日付が大きく飛ぶなどみられるが、今回翻刻対象とした『巽軒日記』七冊（自明治三三年至明治三九年）をはじめ、日記の全体としては基本的に纏まっている。井上哲次郎の日々の思索・行動に加え、人間関係なども克明に記録されていて、井上をとおして近代日本における学問の導入・普及の在り方なども多角的に考察研究が可能であると思われる。

当時の百年史編集室員であった酒井豊氏が、井上家より本学に寄贈された井上哲次郎史料を整理し、史料目録（「加藤弘之史料目録　井上哲次郎史料目録」『東京大学史史料目録』三、一九七七年）を作成している。しかし残念ながら、学内外でも一部研究者の利用を除けば、井上哲次郎史料の所在についてすら周知されていない。このたび、弊室から『巽軒日記―自明治三三年至明治三九年―』を刊行することによって、本学に残されている貴重な関係史料の活用を促進していきたいと考えている。将来的に編纂されるであろう『東京大学百五十年史』などの取り組みにも貢献できるものと思われる。刊行作業にあたっては、室員の大間敏行（教務補佐員）が担当従事し、専任室員の谷本宗生が指揮を行った。

二〇一二年三月

東京大学史史料室
室　長　吉見俊哉

目次

「巽軒日記 ―自明治三三年至明治三九年―」の刊行にあたって
史料「巽軒日記」について
凡例
日記本文
明治三十三年……一
明治三十四年……一四
明治三十五年……二九
明治三十六年……四五
明治三十七年……六一
明治三十八年……七七
明治三十九年……九六
写真……一二五

「巽軒日記」について

日記の概要を紹介するにあたって、まずは当史料室の前身にあたる東京大学百年史編集室の室員であった酒井豊執筆の「井上哲次郎史料目録について」（『東京大学史史料目録3　加藤弘之史料目録・井上哲次郎史料目録』一九七七年）より、一部抜粋し再掲しておこう。（縦書きへの体裁変更に合わせ、アラビア数字は漢数字に書き改めた）

巽軒井上哲次郎の日記（『巽軒日記』）は明治二六年七月二七日から昭和一九年一二月五日までを記述の日付として、現在八七冊が残されている。その所蔵については、大正一一年一月一日から同一二年六月三〇日までの三冊が文京区小石川図書館に寄贈・保管されているが、その他は昭和五一年に遺族の方の御芳志により東京大学に寄贈され、現在百年史編集室によって保管されている。

ここで百年史編集室保管の分について、その寄贈の経緯等を簡単に記せば、まず昭和五〇年秋に東京大学百年史編集委員会委員大久保利謙氏から、井上家への仲介の労をお取り戴いた香原一勢氏を通して、井上正勝氏（井上哲次郎の長男で当主．福岡県福岡市御在住）に拝見させて頂きたい旨の希望が伝えられた。一一月になって井上氏上京の際、同氏と大久保・香原の二氏が一席に会されることがあり、いろいろ話が交換された。その後井上氏より香原氏に対して、東京大学に寄贈する旨の御意思の表明があって、まず昭和五一年五月八日に同氏上京の際明治三三年から同四〇年までの分を御持参になり、湯島会館において、上記二氏列席の下に、百年史編集室員酒井豊に手渡された。同月二五日に明治二六年から同二九年までの分について郵送により御寄贈があり、更に明治四一年から昭和一九年までの分については、七月一四日に酒井が福岡市に参上のうえ頂戴するところとなり、これによって『巽軒日記』八四冊を寄贈して頂いたことになったのである。なお小石川図書館所蔵の三冊については、同図書館の御理解により複写物を作成してこれを百年史編集室に備付けることができた。

百年史編集室においては酒井を担当として直ぐに各冊について体裁、保存状態、丁数、記述の日付、その他の調査を行うとともに袋に詰め、仮目録を作成した。

体裁について。明治二六年から昭和八年上半期までの五五冊は縦約二四cmの一〇行青罫紙を束ねたもので墨筆によるものであるが、それ以降は和紙の不足もあってノートになりインク書となっている。ノートは昭和一七年一一月から翌年六月までは縦罫右開きのもので、それ以外は横罫左開きのものとなっており、ともにノートの右（横罫の場合は終り）の方から縦書で記されている。

保存状態について。明治二六年から同二九年までのものは、前小口から地にかけてやや大きな破損があるが、それ以外は破損、虫喰い、欠ページ等は非常に少ない。但し戦災による消失をみた部分もあるように、現存のものの中にも一部焼痕を留めているものや冠水によるシミを残しているもの、またそこからカビの生えかけているものなどがある。なお上記の破損の大きいものについては百年史編集室において裏打ち、製本を行った。

記述の日付について。明治二六年から同二九年までのものは日付が飛んでいるが、明治三三年以降のものは、初期の数年を除いてほとんど完全に記事が記されている。但しその記述の無い場合でも日付だけは記入されているので、日記としては完全に連続していると言ってよい。

内容その他について。内容は井上哲次郎自身と井上哲次郎をめぐる人々の動静を中心とするもので、その日井上と接触のあった（直接あるいは間接に）人名、家族の動向などが克明に記されている。またその日の読書内容、書籍の刊行、雑誌への論文掲載等も逐一記載されている。（後略）

日記受贈から保存の経緯については、当事者であった酒井の説明に付け加えることがない。ここでは、今回の活字化に関連するところを中心としつつ、簡単な紹介にとどめておく。

当史料室で所蔵する井上の日記は、明治二六年七月から二九年一一月までが断続的に記された一冊（「巽軒日記 第一」と表題）が最初であるが、まだ日記としては本腰の入っていない、むしろ雑記帳的色彩も強いこの一冊は今回活字化の対象から外した。井上死去の直前までほとんど途切れることなく続いた本格的な「巽軒日記」の始まりは、確認できる限りでは明治三三年からである。そこで今回の活字化は、明治三十年代という区切りを意識し、三三年から三九年までの七年間分（七冊）を対象としたが、これは当史料室が所蔵する「巽軒日記」八四冊からすればわずか一二分の一に過ぎない。諸機関において歴史資料のデジタル化が加速する傾向にある今日、残りの日記についても広く利用者の便を図るための方法が今後模索される必要があろう。

明治三三～三九年といえば、井上にとって四〇代後半から五〇代にさしかかる時期である。学者として円熟の境に入るのはもう少し先であろうが、体力的な兼ね合いを考えれば、人生で最も充実した時期であったかもしれない。まさにこの時期、井上は彼の三部作といわれる『日本陽明学派之哲学』（三三年）、『日本古学派之哲学』（三五年）、『日本朱子学派之哲学』（三九年）を著した。刊行に前後する時期の日記には、出版社とのやりとりや親交のあった人物に著書を寄贈した事実等が淡々と記されている。

今「淡々と」と述べたが、「巽軒日記」には井上の感情がほとんど表れない。例えば、長男宣光の死去（大正五年九月一四日）という悲劇に際しても、日記に記されたのは「宣光、病死す、享年二十二」（傍点原文のまま）、「夜、宣光入棺」、「宣光の死亡通知を親戚及び特別の関係者に発送す」等、事務的な内容のみである。このように、自身周辺の動静を中心とした客観的記述に止め、極力主観的・感傷的記述を排したことは、「巽軒日記」全体を通して不変の方針であり、この日記の最大の特徴といってよい。多くの研究者が日記という史料に期待するところからすれば物足りないともいえようが、一方でこれだけ長期にわたり自身の動静を観察的に記録していることは、学者井上哲次郎の日常を分析するにはこのうえなく貴重な資料であるともいえる。様々な方面からの活用を期待したい。

（大間敏行・大学史史料室教務補佐員）

凡　例

今回の活字化にあたっては、以下の諸事項を原則とした。

・本文に付された傍点、傍線、振り仮名、句読点は、その形も含めなるべく原文に忠実であるように努めた。

・明らかな誤字・脱字等の場合は、該当箇所右側にルビとして「ママ」を挿入した。また、作業者による注記を行う場合は、〔　〕（亀甲括弧）を使用した。本文にある（　）（丸括弧）で括られた箇所は原文のままである。

・原資料では、書き忘れ・修正等の理由によって後から加筆されたとみられる記述が頁欄外に現れる場合がある。これについては、本来挿入されるべき箇所に組み込んだ状態で翻刻を行い、そのことについての断り書きは一々していない。また、本文の一部を塗り潰し（あるいは棒線で消し）、横に正しく書き改められた箇所についても、修正後の状態のみを活字として反映した。

・原資料では、本文の内容に関連する新聞記事が貼付されていることがある。その場合は、記事に関連すると思われる日記本文の記述後に、新聞記事の貼付があることを記事の見出しあるいは概要とともに簡潔に注記した。

・旧字、異体字については新字体に改めることを基本としたが、人名等の固有名詞において、現今の使用状況等に鑑み、あえて旧字体や異体字を残した箇所もある。

巽軒日記

明治三十三年（西暦一九〇〇）

一月

一日、佐村八郎、浅井次之吉、野田義夫、姉崎正治、深作安次郎来訪す、
二日、中内義一来訪す、
三日、融道玄、田中酉熊、飯田御世吉郎来訪す、
四日、小林太郎治来訪す、○午後黒田侯爵邸に赴く、
五日、久世庸夫、高原操、坂巻登介来訪す、
六日、岡本監輔、小林太郎治来訪す、○夜、文学倶楽部に赴く、井上頼国、福井久蔵、田村幸充、松本愛重、丸山正彦、市村瓚次郎、今泉定介等来会す、○秋月胤永卒す、
七日、土井林吉、蟹江義丸来訪す、
八日、村上専精、山口正一郎、松永武雄来訪す、
九日、村川堅固、高橋龍雄来訪す、
十日、八杉貞利来訪す、○此日始めて倫理を高等師範の生徒の為めに大成殿に講ず、
十二日、和田六次郎来訪す、
十三日、高山林次郎、姉崎正治、矢板寛来訪す、
十四日、桑原騭蔵、加藤玄智、小笠原実成、西晋一郎、中島徳蔵、蟹江義丸、吉田賢龍、鳥海秀子来訪す、○晩景学士会院に赴く、○「言語学雑誌の発行を祝するの文」を藤岡勝二に送る、
十五日、
十六日、山本邦彦来訪す、
十七日、坂本健一来訪す、
十八日、石川栄司来訪す、○「菅公論」を作り、博文館に送る、
二十一日、夏秋亀一、小笠原実成、○午後斯文学会に於て「世に知られざる徳川時代の哲学者」を演述し、三河屋に会す、重野安繹、広瀬進一、南摩綱紀等来会す、
廿二日、夜井上円了に招かる、来会するもの、村上専精、前田慧雲、斎藤唯信、寺島光法の四人、
廿四日、姉崎正治来訪す、
廿六日、ショッペンハウエル氏の die grundlage der Moral を読了す、○高橋龍雄来訪す、
廿七日、前田慧雲、千田時次郎、田中秀穂、竹内楠三来る、
廿八日、島田蕃根、蟹江義丸、斎藤唯信、小笠原実成、芳賀矢一、岡倉覚三、波多野精一、岡田正美来訪す、
二十九日、飯泉乾太、酒井清造来訪す、○七里恒順寂す、年六十六、
三十日、鷲尾源次郎、赤堀又次郎、山路栄吉、竹内楠三来訪す、
三十一日、菊池大麓を訪ひ、尋いで文部省に至り、岡田良平を訪ふ、

二月

三日、津野慶太郎、広瀬玄鋹、飯田御世吉郎来訪す、○此日哲学談話会を開く、
四日、岡田正美、片岡英儀、熊谷五郎、笹倉新治、井原豊作、小笠原実成、与謝野幹、内田銀蔵来訪す、○税所敦子逝去す、時に年

七十五、
五日、杉浦重剛を訪ふ、
六日、興学会に赴く、
八日、木村鷹太郎来訪す、
九日、市村瓚次郎来訪す、
十日、藤岡勝二来訪す、○洗心洞詩文、大学問、宗教観念の研究等を読了す、
十一日、フェネロサ、熊谷五郎、森泰二郎、秦敏之、鷲尾順敬、小島一騰来訪す、
十二日、三給俸を受く、○夜、市川代治来訪す、
十三日、蟹江義丸、広瀬玄鋹来訪す、
十四日、岡崎遠光、狩野亨吉来訪す、
十六日、岩田宙造来訪す、
十八日、本荘太一郎、吉田賢龍、磯江潤、河合弘民、加藤玄智来訪す、○書を博多川端に送る、
十九日、織田得能来訪す、○修身倫理の検定試験を結了す、浦谷熊吉、朝井次之吉等及第す、
二十日、姉崎正治来訪す、
廿一日、川田鉄弥、朝井次之吉、酒井清造来訪す、
廿三日、洗心洞箚記を読了す、
廿五日、森山章之丞、橋本唯三郎、小林太郎治、斎藤基次郎、堀謙徳来訪す、
廿六日、高瀬武次郎、下條幸次郎（宮城県中学校長）、里村勝次郎（宮城県師範学校長）来訪す、○品川弥次郎薨す、
廿八日、遠藤隆吉来訪す、○真宗中学に於て演説す、

三月

一日、大学紀念日の会に赴く、○総長の招きに応じて宴会に赴く、○大立大我、高橋龍雄来訪す、○吉田松陰の照顔録を読む、
二日、二宮尊徳翁伝を読む、○加瀬ふみ母の病気の為め、房州に赴く、
三日、山辺知春、朝井次之吉、高山林次郎、円藤鎮来訪す、○三島中洲の賀宴に赴く、
四日、大立大我、斎藤木、高橋龍雄来訪す、○龍樹伝及び法然伝を読む、
五日、重野安繹を訪ふ、
六日、京華中学校を参観す、○姉崎正治、佐藤元三郎来訪す、
七日、真岡湛海、上村貞子来訪す、○夜八時廿五分外山正一永眠す、享年五十三、
九日、宮内黙蔵来訪す、○矢野文雄と柏木に会す、
十日、吉田熊次、姉崎正治、菊池大麓来訪す、○此日大日本協会の集会に赴く、
十一日、浜村蔵六、高田忠周、大立大我来訪す、○外山正一の葬式に赴き、吊詞を朗読す、
十四日、坂田厚胤歿す、
十六日、哲学会に臨み、尋いで姉崎子の送別会に赴く、
十七日、高山林次郎、姉崎正治、大橋又太郎を招燕す、○浪迹小藁を読了す、○東京地方裁判所に赴く、

十八日、波多野精一、三石賤夫、伊沢千代外一名来訪す、○石渡邦之丞英国に赴く、
二十日、高橋由蔵来訪す、
廿一日、三浦周行、山本東野来訪す、
廿二日、高橋龍雄来訪す、○夜、矢野文雄、徳冨猪一郎と日本倶楽部に会す、
廿三日、松平直亮、上田万年、田中萃一郎来訪す、○夜、文科大学懇親会に赴く、
廿四日、加藤玄智、田中秀穂来訪す、尋いで帝国文学会に赴き、又外国語学校の懇親会に赴く、和田垣謙三、加藤照麿、加藤恒忠、安藤謙介、山崎英夫、神田乃武、浅田栄次、宮嶋大八、尹知昨、劉雨田、速水一孔等来会す、
廿五日、蟹江義丸、大熊氏広、遠藤隆吉来訪す、
廿八日、山崎益、渡辺英一来訪す、
廿九日、山口正一郎、島地雷夢、松永武雄、岡田正美、上田万年、星野恒来訪す、
三十日、木村鷹太郎、高橋龍雄、小笠原実成、西晋一郎、大橋乙羽、姉崎正治、野田義夫来訪す、
卅一日、姉崎正治、大橋乙羽出発して欧洲に赴く、

四月

一日、大熊氏広、畠山報三、岡野知十、鳥居忱、前田慧雲、秋月胤継来訪す、○午後、躬行会に於て演説す、
二日、加藤玄智、村上龍英来訪す、○修身教科書調査委員に命ぜらる、
三日、中川忠順、坂田長之助、桜井一義、荒浪市平来訪す、○文学士大重斉没す、○晦処香月先生碑を作る、
四日、朝井次之吉、三浦周行来訪す、
五日、杉山冨槌、松永武雄来訪す、○齲歯を抜かしむ、疼痛去らず、因りて終日臥蓐、得能文来訪せしも遇はず、
六日、書状を岡野知十、森江佐七、井上頼国、萩野由之、酒井清造、村山次郎に送り、社会研究会を退会し、伊学協会の入会を辞す、○覚鍐、安然の伝を読む、
七日、金山尚志、坂本健一、高山林次郎、横矢重道、市村瓚次郎、白鳥庫吉、山田時之助来訪す、
八日、桑原騭蔵、大束重善、西島種美、遠藤隆吉、松山直蔵、高瀬武次郎、遠藤隆吉来訪す、
九日、蟹江義丸、桑木厳翼、市村瓚次郎来訪す、○午後、菅公会に臨み、菅公に関する事実を演述す、樺山大臣、奥田次官、菊池総長、黒田侯爵、金山尚志、小野隆助、肝付兼行等来会す、
十日、加瀬駒太郎、山口志げを携へて来る、得能文来訪す、姉崎袖子仝増子及び笹川夫人来る、
十一日、早朝姉崎袖子仝増子出発して京都に赴く、○牧瀬五一郎、草場季彦、高頭忠造、豊岡茂夫、三石賤夫、原田稔甫来訪す、○速記の校正を岡野知十に送る、
十二日、高木正義、川島庄一郎、近角常観来訪す、
十三日、新村出来訪す、
十四日、京都府教育会幹事根本吉太郎、僧天地来訪す、○黒田長成

を訪ふ、
十五日、辻善之助、平山勝治、田中萃一郎、斎藤木、川島庄一郎来訪す、○中村恭平を訪ふ、
十六日、山辺知春来訪す、○川島庄一郎に筆記を送り、田中萃一郎に序文を送る、
十七日、太田秀穂、飯田御世吉郎、有馬祐政、前島健次郎来訪す、○「道徳主義としての独立自尊」を草して之れを博文館に送る、
十八日、藤井健次郎来訪す、因て「修身要領」に関する批評を述ぶ、
十九日、午前十時廿分新橋出発、仝夜八時浜松着、大米屋に投宿、
二十日、午前七時十分出発、午后四時京都着、俵屋に投宿、得能文、中山再次郎、本荘太一郎、奥繁三郎、清水誠吉、池田保之助、土屋員安、並に姉崎母子来訪す、
廿一日、北野神社を訪ひ、菅公関係書類を調査す、○根本吉太郎、坂口昴、朝永三十郎、森内盛昌、金太仁策、得能文、中山再次郎、川井菊太郎、山内晋来訪す、
廿二日、旭野慧憲、池田豊三郎、村上勘兵衛、関根仁応、仁太金策、池田保之助、村上晋来訪す、○京都都府教育総会に於て「今後の道徳主義」を演述す、○千賀鶴太郎を訪ふ、○夜、教育懇親会に赴く、山本佐兵衛、森春吉、高橋邦三、鶴巻鶴一、松盛徳三郎、野口銈太郎等に邂逅す、
廿三日、島文次郎、朝永三十郎、姉崎母子来訪す、○午前東本願寺に於て学生を集め「宗教の本体に就て」を演説す、尋いで枳殻邸の宴に赴く、午后京都哲学会に臨み、「道徳と認識との関係」を講演す、夜、文科大学出身者の懇親会に列す、
廿四日、藤島了穏、中山再次郎、旭野慧憲、坂口昴来訪す、○午前京都大学を訪ひ、森春吉、中川元、大西祝、島文次郎に邂逅す、○午后高等学校に於て「宗教の話」を演述す、○不在中千賀鶴太郎、吉見資胤来訪す、○夜、姉崎母子来訪す、
廿五日、午前七時五十六分京都出発、島文次郎、坂口昴、朝永三十郎、得能文、金太仁策来送す、夜十一時頃帰宅す、
廿六日、中村清次郎長男中村種次郎来訪す、
廿七日、演説筆記を無盡燈編輯員に送る、
廿八日、藤岡勝二、野田義夫、仝信夫来訪す、○午后史学会に赴く、
廿九日、中川正信、川口申雄来訪す、○方谷遺稿を読む、
三十日、藤井健次郎、斎藤基次郎、大谷正信、英人ケムベル氏来訪す、

五月

一日、重野安繹を訪ふ、○序文の訂正を木村鷹太郎に送る、
二日、中尾教厳、広瀬進一、長谷川誠也来訪す、
三日、宇野哲人、高頭忠造来訪す、
四日、文科大学〃生と遠足会を催うし、午前九時廿五分新橋出発、羽田に赴き、懇親会を開き、午后五時過大森より乗車し帰る、星野恒、元良勇次郎、中島力造、根本通明、リース、フローレンツ、エック、三宅米吉、芳賀矢一、高楠順次郎、松本愛重、萩野由之、三上参次、黒川真道、岡田正美等来会す、○夜、市川源三来訪す、
五日、斯波淳六郎、木村きん子、豊岡茂夫来訪す、○夜、漢学科三年生の送別会に赴く、重野安繹、根本通明、那珂通世、塩谷時敏、

市村瓚次郎等来会す、
六日、植村武之助（雲邦と号す）保科孝一、成田衡夫、田中治六、加藤玄智来訪す、
七日、中村未亡人、大橋虎雄来訪す、○夜、興学会に赴く、
八日、夜、懇親会に学士会事務所に赴く、狩野亨吉、折田彦市、中川元、酒井佐保、北条時敏、松本源太郎、桜井房記に邂逅す、
九日、豊岡茂夫、川名庄吉来訪す、
十日、嘉仁親王、節子妃と合巹の典を挙げらる、午前参朝、式場に赴く、○午后五時前参朝拝賀す、石黒忠悳、三好退蔵、横田国臣、森林太郎、斯波淳六郎、辻新次、田中芳男、津田真道等に邂逅す、
十一日、浅野陽吉、中村勝麿、野田義夫来訪す、○野村政明に電報を送る、
十二日、高山林次郎、松木茂俊来訪す、
十三日、午前七時三十分上野出発、常磐線にて仙台に赴く、午後九時半頃仙台に着す、土井林吉、玉虫一郎一、渡辺又次郎、清水大樹来迎す、旅館針久に投ず、里村勝次郎、下條幸次郎、高橋磯八郎来訪す、
十四日、仙台中学校に於て演説す、生徒の来聴するもの、千二百人、尋いで師範学校に於演説す、来聴の生徒三百余人、午后奥羽六県北海道聯合教育会に於て演説す、題は「教育家の取るべき今後の道徳主義」にて来会は大凡そ千有数百人、尋いで教育懇親会に出で、又転じて文科大学出身者の懇親会に臨む、教育懇親会にては、Dening, Christopher Nosse, John Myde De Forest　加藤忠治、保田銓次郎、小早川潔、遠藤善夫、野村政明、里見良顕、林信等に邂逅す、文科大学懇親会にては、土井林吉、玉虫一郎一、渡辺又次郎、岡沢鉦三郎、猪狩幸之助、杉谷泰山、梶川栄吉、清水大樹、田川辰一、斎藤阿具、吉岡郷甫に遭逢す、○此日来訪せるものは、鈴木亀寿、山田邦彦、信原健三、矢野顕蔵、高橋磯八郎等なり、
十五日、午前七時二十分、常磐線にて出発す、土井林吉、渡辺又次郎、野村政明、デフォレスト、猪狩幸之助、清水大樹、斎藤阿具、玉虫一郎一、矢野顕蔵、遠藤善夫、里村勝次郎、下條幸次郎等送り来る、水戸より樺山大臣及び田口虎之助乗り来る、夜、八時頃帰宅す、
十六日、松平直亮来訪す、○晩景大学教員送迎会に赴く、松井直吉、高松豊吉、長岡半太郎、藤沢利喜太郎、リース、ヘルツ等欧洲に赴かんとし、穂積陳重欧洲より帰り来たれり、○書柬を大束重善、山田喜之助に送る、
十七日、大束重善、桜井一義、磯江潤来訪す、○山田喜之助に招燕せられたるも、微恙の為めに之れを辞す、
十八日、安原冨次、丸井圭次郎、広瀬進一、深作安文来訪す、
十九日、元田肇の欧洲に赴くを送る、○塚原常之助、長谷川誠也、蟹江義丸、法貴慶次郎来訪す、
二十日、上野教育会に赴き、師範学校に於て「当今の倫理問題」を演説す、来聴者約千人、黒田侯爵、金山尚志、古荘嘉門、三橋勝到、本間千代吉、広田文則、池田夏苗、斎藤惇、内田粂太郎、高野清雄、堤虎造、神保小虎等に邂逅す、○夜、中島力造来訪す、

廿一日、高等学校長会議に赴く、○午后修身教科書委員会に赴く、○夜、中川友次郎来訪す、
廿二日、登張信一郎、笹川種郎、山崎亀之助、高橋龍雄来訪す、○書を土井林吉、渡辺又次郎、木村鷹太郎、小金沢久吉等に送る、
廿三日、林甕臣、友枝高彦、桑木厳翼来訪す、○樺山文部大臣来たりて史料編纂掛員に諭告する所あり、
廿四日、大久保介寿来訪す、
廿五日、高山林次郎、長谷川誠也、里村勝次郎、上村貞子来訪す、
廿六日、原稿を桑木厳翼并に博文館に送る、
廿七日、紀平正美来訪す、○浴衣二反を中洲に送る、
廿八日、外山岑作、野口援太郎、中尾教厳来訪す、○反物二反を吉井に、一反を甘木に送る、
廿九日、弘田正郎来訪す、
三十日、村上龍英来訪す、○浴衣一反、山本秀雄に送る、○電報を峰是三郎に送る、○杉浦梅潭歿す、
卅一日、星野恒、松山直蔵来訪す、○端書を宮本正貫、内堀維文に送る、

六月

一日、横山徳次郎来訪す、○書状を上田万年、野口援太郎に送り、雑誌を川端及び隈本有尚に、雑誌及び画を加瀬駒太郎に送り、祝詞を佐賀日々新聞に送る、
二日、小金井良精、岡田良平の欧洲に赴くを送り、帰途女学館を訪ひ、岩上りうと会見す、○井上淳、蟹江義丸、早川新次、野田寛来訪す、
三日、遠藤隆吉、北畠竹之助、辻善之助、吉田熊次、中島徳蔵、野田義夫、加藤玄智来訪す、○書状を田中知邦に送る、
四日、野中久徴、津田純一来訪す、○修身書調査会に赴く、○書状をデニング、上岡市太郎、木村鷹太郎に送る、○文部省より慰労金五十円、大学より旅費三十円受取る、○金拾円を中洲に送る、○英兵、杜京プレトリアに入る、
五日、中村喜信、小田切良太郎来訪す、
六日、元良勇次郎、中島力造を招燕す、○小笠原実成来訪す、○坪井九馬三帰朝す、
七日、石田悟雄、松山直蔵来訪す、
八日、大野太衛、坪井久馬三、中村恭平、津田純一、山口斉、中島徳蔵来訪す、
九日、井上円了、山田栄造、桑原鷺蔵、村田五郎来訪す、
十日、箭内亘、小西重直、野中久徴、外山正一妹、大束重善、加藤玄智、法貴慶次郎、桑木厳翼来訪す、○夜磯辺弥一郎に招燕せられて、精養軒に赴く、
十一日、荘資親、河出静一郎来訪す、○夜、冨山房、図書会社、吉川半七の三書肆に招燕せられて八百膳に赴く、菊池大麓、三上参次等に会見す、
十二日、外山正一妹新体詩抄印税分配十八円九十銭を携へて来たる、小西重直、栗原諭、渡辺万介来訪す、
十三日、菅家小伝を草す、
十四日、中島徳蔵、栗原諭、円藤鎮来訪す、○書状を加藤弘之、田

所美治、津野慶太郎、坂本嘉治馬に送る、
十五日、酒井真、信夫粲、西晋一郎来訪す、○哲学雑誌を博多川端及び隈本有尚に送る、
十六日、蟹江義丸、中村和之雄、藤代禎輔来訪す、○此頃支那は義和団起りて内乱漸く甚し、○敬業社より廿円送り来る、
十七日、金国璞、永井源治、木村鷹太郎来訪す、
十八日、書状を津田純一に送る、○哲学の試験を施行す、
十九日、井上円了、芳賀矢一、村上俊蔵来訪す、
二十日、内田融、高島平三郎来訪す、○岩上りうを女学館に訪ふ、○不在中酒井真、上村貞子、神田乃武来訪す、
廿一日、星野恒、田山緑弥、広瀬進一来訪す、
廿二日、佐々木信綱、中村恭平来訪す、
廿三日、高山林次郎来訪す、○午後加藤弘之叙爵祝賀会に赴く、奥田義人、末延道成、有賀長雄、田中正平、濱尾新、関根正直、白鳥庫吉等と会見す、
廿四日、大野太衛、市村瓚次郎、津野慶太郎、酒井真、辻善之助、今福忍来訪す、○菅公小伝の草稿を富山房に渡す、
廿五日、井原豊作来訪す、○博士会にて大西祝、白鳥庫吉を文学博士に選定す、○佐々木弘綱の追悼会に赴く、末松謙澄、木村正辞、本居豊頴、落合直文等と会見す、
廿六日、中尾教厳来訪す、
廿七日、
廿八日、芳賀矢一、長谷川福平、松永武雄来訪す、○菊池総長のジョルダン氏歓迎会に赴く、○夜、リース坪井二氏の送迎会に精養軒に赴く、
廿九日、佐々木信綱、紀平正美来訪す、
三十日、静岡県教育会に三島町に赴き、「菅公の性行及び学問」を演説す、田中鳥雄、大村和吉郎、大川欣也、梶山延太郎、大川彦八郎、石川研二、田中太郎、渡辺健次、山口次郎、伊藤満蔵等と会見す、

七月

一日、宇野哲人、深作安文、川田鉄弥、加藤玄智、坂部行三郎、藤代禎輔、八杉貞利、畔柳都太郎来訪す、
二日、外山正一妹、宇野哲人、大橋次郎、川田鉄弥来訪す、
三日、春山作樹、水科善祐、星野恒、与謝野鉄幹来訪す、○夜、エミール、プローズト氏歓迎会に紅葉館に赴く、オールト チール二氏に邂逅す、
四日、友枝高彦、深作安文来訪す、○夜、大学洋行者の送迎会に植物園に赴く、
五日、波多野精一来訪す、○夜、興学会に赴く、
六日、伊勢留吉、石川岩吉来訪す、
七日、武内大造、八杉貞利、松本孝次郎、飯田御世吉郎、熊谷五郎、速水滉、小田切良太郎、吉田熊次、宇野哲人、相良益次郎、芳賀矢一来訪す、○演説筆記を佐々木信綱に送る、夜、文科大学懇親会に臨む、
八日、高等師範校研究科学生山村弥久馬外二名、中島徳蔵、小笠原

実成来訪す、○菊池大麓を訪ふ、
九日、隈本有尚、坂部行三郎及び春陽堂に書状を送る、
十日、帝国大学卒業式を挙行す、小松宮殿下臨場せらる、卒業生三百七十九人、文科七十八人、御下賜品を受領せるものは、吉田熊次、宇野哲人、八杉貞利、武内大造の四人、○本田弘、市村平、長連恒、加藤直久等来訪す、
十一日、渋谷啓蔵、深作安文、千葉良祐、小田切良太郎、春山作樹等来訪す、
十二日、高橋豊夫来訪す、
十三日、白鳥庫吉、臼井弘、磯江潤、菊池英也、吉田熊次、大橋虎雄、駒井徳太郎、成田衡夫、境野哲来訪す、○夜、冨尾木知佳結婚の宴に帝国ホテルに赴く、林友幸、園田孝吉等に会見す、
十四日、佐々木政直、元田龍佐、外山正一二男、菊池俊諦、日野厚信、久志野松三郎来訪す、
十五日、中城直正、村川堅固、石幡伊三郎、長沢淳吉、速水滉、武島又次郎、飯田御世吉郎、岡本幸実、小林太郎治、野田義夫来訪す、
十六日、内田融、岩谷季雄来訪す、○冨尾木知佳、蟹江義丸、北村松之助来訪せしも、微恙の為め遇はず、
十七日、織田得能来訪す、
十八日、中西牛郎、近藤鉱造来訪す、
十九日、高瀬武次郎、石田悟雄、村上俊蔵、中西牛郎、松村吉太郎、増野正兵衛、蟹江義丸来訪す、○聖学問要を読む、
二十日、桑木厳翼、赤井久四郎、井上蘇吉来訪す、
廿一日、酒井真、村上俊蔵来訪す、○写真を取る、
廿二日、牧瀬五一郎、青木宗太郎来訪す、
廿三日、中西牛郎、大西正太郎、鈴木力太郎、八田三喜、高山林次郎来訪す、
廿四日、森田鉄三郎、井上淳、笹川夫人来訪す、○菅公小伝成る、○大塚保次帰朝す、
廿五日、張延彦、登張信一郎、島田蕃根、井上蘇吉来訪す、○菅公小伝を加藤弘之、黒田長成、金山尚志、小野隆助、高山林次郎、白鳥庫吉、湯本武比古、隈本有尚、金子堅太郎に送る、○菊池大麓を訪ふ、
廿六日、大塚保次、丸山通一、土屋鉱蔵、村川堅固、辻善之助来訪す、
廿七日、水月哲英、芳賀矢一、高橋龍雄、大橋虎雄、依田喜一郎来訪す、
廿八日、白鳥庫吉より書柬来る、○微恙あり、
廿九日、酒井真、北畠貞顕、長谷川益次郎、新田徳、若林栄次郎、土井林吉、黒川真道来訪す、
三十日、坂垣政一来訪す、○土屋弘を訪ふ、
卅一日、秋月胤継、村上俊江、朝井次之吉、伊東邦彦来訪す、

八月

一日、武島又次郎、岩永五郎一、川口申雄、江崎誠、土屋鉱蔵来訪す、○菅公小伝を冨井政章、浦谷熊吉、加瀬駒太郎に送る、
二日、中西牛郎外二名、玉虫一郎一、長谷川誠也、松永武雄来訪す、
三日、中西牛郎、吾妻兵治来訪す、

四日、渡辺又次郎、酒井真、川田繁太郎、宗宮信行来訪す、○菅公小伝を太田峰三郎、木村鷹太郎、野田寛、片岡久太郎に送る、○陽明派哲学の草稿全く成る、
五日、田中萃一郎、小室龍之助、境野哲来訪す、○訂正せる征清記念碑を斎藤寿七に送る、
六日、清岡猛虎、石川岩吉、河出静一郎来訪す、○香月先生碑文の草稿を飯田御世吉郎に送る、
七日、川田繁太郎来訪す、○書を木村鷹太郎に送る、
八日、中村たか子、川田繁太郎来訪す、○宗教学原稿を姉崎正治に送る、○書を重野安繹に送る、
九日、浦谷熊吉来訪す、
十日、川田繁太郎、中山再次郎、野田義夫来訪す、
十一日、上村貞子、上田整次、井上蘇吉、土屋鉱蔵来訪す、
十二日、フローレンツ、大野太衛来訪す、
十三日、上田万年、三好愛吉、中目覚来訪す、○菊池大麓を訪ふ、
十四日、芝陵遺稿を読む、○我兵北京に侵入す、
十五日、芳賀矢一、織田得能来訪す、○夜不在中大里猪熊来訪す、
十六日、酒井真来訪す、
十七日、長屋順耳来訪す、
十八日、保科孝一来訪す、○野田、朝井、浦谷来会す、
十九日、岡崎遠光来訪す、○加藤翁に答ふる文を上村貞子に送る、
二十日、大塚保治、竹内楠三来訪す、○竹内氏に金二十円を貸附す、
廿一日、
廿二日、大里猪熊来訪す、
廿三日、市村瓚次郎来訪す、
廿四日、午前三時頃男子生誕、○中西牛郎、増野正兵衛、辻善之助、渡辺良来訪す、○生誕せる兒子を正勝と名づく、
廿五日、三宅米吉、岩永五郎一、吉田賢龍、早川新次来訪す、○黒田清隆薨す、○ニーチェ氏卒す、
廿六日、西村茂樹氏の自識録を読む、○此日暑気甚だし、摂氏三十三度に昇る、○飯田武卿卒す、
廿七日、摂氏三十四度に昇る、
廿八日、大塚保治来訪す、
廿九日、酒井真、依田喜一郎来訪す、
三十日、中山久四郎、円藤鎮来訪す、
卅一日、法貴慶次郎、枝吉鶴子、清岡猛虎、井上蘇吉来訪す、

九月

一日、深作安文、丸山熊男、井上蘇吉来訪す、
二日、上田敏、片岡久太郎来訪す、○書を北沢正誠、中上喜三郎二氏に送る、○夜、芳賀矢一の送別会に赴く、落合直文、大町芳衛、木村正辞、井上頼国等と会見す、
三日、書を島田蕃根、芳賀矢一に送る、
四日、橋本景岳の啓発録及び本川惟敬の鳴鼓録を読む、
五日、蟹江義丸、能与作、鷲尾源次郎、磯江潤、吉田熊次来訪す、
六日、芳賀矢一、浅井虎夫、堀川良雄、桜井一義、八杉貞利、登張信一郎来訪す、○菊池大麓を訪ふ、

七日、上田整次、井上蘇吉、藤岡作太郎、稲垣乙丙、外山正一妹、藤代禎輔、柏原文太郎、中島徳蔵来訪す、
八日、芳賀矢一、藤代禎輔、稲垣乙丙の独逸に赴くを送る、○深作安文来訪す、
九日、井上蘇吉、宮本正貫来訪す、○夜、冨士見軒に会す、近衛篤麿、冨井政章、戸水寛人、寺尾亨、松崎蔵之助等に会見す、
十日、長谷川誠也来訪す、
十一日、
十二日、田中森之助来訪す、
十三日、山口正一郎、山田二郎、酒井真、井上蘇吉来訪す、
十四日、服部宇之吉の帰朝を品川に迎ふ、○夜、小笠原実成来訪す、
十五日、萩野由之、渡辺信之介、生田徳太郎、阿部秀助、桑木厳翼、織田得能、田中森之助来訪す、
十六日、井上蘇吉、山内二郎、井上幸一来訪す、
十七日、岡田正美来訪す、
十八日、日野厚信来訪す、
廿一日、狩野直喜来訪す、○午後、服部狩野二氏の慰労会に赴く、
廿二日、白井練一、井上蘇吉、瀧精一、小笠原実成来訪す、○午後、史料編纂所に赴く、古城貞吉に逢ふ、
廿三日、速水滉、長沢淳吉、井上蘇吉、大森八十一郎来訪す、
廿四日、円藤鎮来訪す、
廿五日、内田融、大島直治来訪す、
廿六日
廿七日、服部宇之吉、エック、紀平正美来訪す、
廿八日、大風吹く、○井上蘇吉来訪す、
廿九日、武島又次郎来訪す、
三十日、フローレンツ、東敬治、西川政憲来訪す、

十月

一日、樋口秀雄来訪す、○橋本峨山寂す、
二日、甫守謹吾来訪す、○愛善舎及び秀英舎に赴く、
三日、
四日、小笠原実成、井上蘇吉来訪す、
五日、田中森之助、浦谷熊吉、野田義夫来訪す、
六日、宇野哲人来訪す、○書を上田万年、塩谷時敏等に送る、
七日、本居豊頴、亀谷馨、市村瓚次郎、西晋一郎、井上蘇吉来訪す、
八日、小野隆助、中尾教厳、野田義夫来訪す、○始めて哲学叢書を発行す、
九日、西晋一郎来訪す、
十日、
十一日、小杉榲邨、井上蘇吉、松永武雄、野田義夫来訪す、
十二日、
十三日、伊藤兼一、長谷川誠也、井上蘇吉来訪す、○文部省に赴く、○午后牛込榎町宗参寺に至り、山鹿素行の墓に謁す、○此日独逸留学より帰朝してより恰も十年に当る、
十四日、涵養社に於て「人間一生の計画」を宴述す、○浮田和民、西川政憲に遭遇す、

十五日、中島力造来訪す、
十六日、蟹江義丸、西川政憲来訪す、
十七日、午前荏原郡世田ヶ谷村に赴き、松陰神社に謁す、野村靖に逢ふ、○和田鉱蔵、井上蘇吉、横矢重道、石橋友次郎外一名来訪す、
十八日、
十九日、岡田正美、藤井宣正、小笠原実成来訪す、○書を坂本嘉治馬及び坂井真に送る、
二十日、飯田武郷の遺族を訪ひ、尋いて中村正修を訪ふ、○共益商社に哲学叢書の奥附千枚を与ふ、
廿一日、金山尚志、井上蘇吉、野田義夫来訪す、
廿二日、友枝高彦、藤田明、村上龍英来訪す、○哲学叢書をデニング氏及び川端に送る、
廿三日、松平直亮、浦谷熊吉、野田義夫、酒井真来訪す、
廿四日、井上蘇吉来訪す、○デニング氏に菅公小伝を送る、
廿五日、上田万年、宮内黙蔵、野田義夫来訪す、
廿六日、島田蕃根、麻生正雄、渡辺千春来訪す、○米人Swiftに大学に逢ふ、
廿七日、日本陽明学派之哲学成る、○アンデルソン氏卒す、
廿八日、麻生正蔵、須藤求馬、遠藤隆吉、成田衡夫来訪す、○「日本陽明学派之哲学」をデニング、坪内雄蔵及び川端に送る、
廿九日、宇野哲人、斎藤基次郎来訪す、○「日本陽明学派之哲学」を中島力造、三上参次に贈り、又一部を大学の図書館に献納す、○修身調査会に赴く、○マクスミュレル逝く、
三十日、「日本陽明学派之哲学」を加藤弘之、三宅雄次郎、磯部弥一郎、隈本有尚、杉浦重剛に贈る、○夜、弘道会四谷部会に於て「山鹿素行の話」を演述す、
廿一日、文科大学々生を集めて訓諭す、○黒田侯爵邸に赴く、○「日本陽明学派之哲学」を田口卯吉、元良勇次郎、黒田長成、野田義夫、伊沢修二に贈る、

十一月

一日、井上蘇吉、吾妻兵治来訪す、○「日本陽明学派之哲学」を高山林次郎に贈る、
二日、池上本門寺に至り、木下順庵の墓に謁し、尋いで大森八景園に文科大学懇親会を開く、○大西祝逝く、
三日、天長節、宮中に参賀す、○遠藤隆吉来訪す、
四日、水月哲英、酒井真、関如来、仁藤巨寛、石川倉次来訪す、○兒子を携へて上野及び浅草に遊歩す、
五日、井上蘇吉、野田義夫来訪す、
六日、鳥海秀子来訪す、○「日本陽明学派之哲学」を狩野亨吉、濱尾新、沢柳政太郎に送る、○書を小野藤太、木全多見に送る、
七日、「日本陽明学派之哲学」を伊藤博文、大隈重信、辻新次に送る、
八日、「日本陽明学派之哲学」を近衛公爵に送り、「仏教起源史」を高楠順次郎に送る、
九日、
十日、赤堀又次郎来訪す、
十一日、桑木厳翼、高瀬代次郎、豊田孫右衛門来訪す、○学士会院

に赴く、
十二日、井上蘇吉、島田蕃根、桜井一義、高瀬武次郎来訪す、○歯痛あり、休講す、
十三日、赤堀又次郎来訪す、
十四日、井上蘇吉来訪す、
十五日、斎藤庸一郎夫婦来訪す、
十六日、
十七日、大風雨あり、
十八日、幣原坦来訪す、○午後哲学会に赴き、「利己主義と功利主義とを論ず」を演述す、
十九日、服部宇之吉、星野恒、横井時雄来訪す、
二十日、下條幸次郎、井上蘇吉、麻生正蔵来訪す、
廿一日、斎藤庸一郎を訪ふ、在らず、転じて冨田春山を芝に訪ふ、○張滋昉逝去す、
廿二日、桜井一義、斎藤庸一郎、山本秀雄来訪す、
廿三日、蟹江義丸、原田稔甫、木村鷹太郎、手塚光貴来訪す、○冨田春山、斎藤庸一郎を招燕す、
廿四日、冨田春山、斎藤庸一郎、野田義夫来訪す、○フローレンツ氏に招燕せらる、○哲学叢書第一巻第二集成る
廿五日、服部宇之吉を招燕す、○深作安文、西晋一郎来訪す、○大西博士追悼会に赴き、追悼の意を述ぶ、徳富猪一郎、横井時雄、海老名弾正、小崎弘道、三宅雄次郎、浮田和民、岸本能武太、綱島佳吉、坪内雄蔵等と会見す、
廿七日、尾原亮太郎、磯村貞吉、井上蘇吉来訪す、
廿八日、哲学叢書第一巻第二集を元良勇次郎、中島力造、及び帝国大学図書館に贈る、
廿九日、哲学叢書第一巻第二集を田口卯吉に贈る、
三十日、冨田春山、斎藤庸一郎来訪す、○「日本陽明学派之哲学」を服部宇之吉に送る、

十二月

一日、哲学叢書第一巻第二集を坪内雄蔵、井上侃斎に送り、「日本陽明学派之哲学」を小野隆助に送る、○酒井真、渡辺千春来訪す、○夜、加藤高明栄転祝賀会に赴く、
二日、堀常次郎、東敬治、河出静一郎、牧瀬五一郎、大塚保治、長谷川誠也、遠藤隆吉来訪す、○哲学叢書第一巻第二集をデニング氏に送る、
三日、服部宇之吉欧洲に赴く、
四日、哲学叢書第一巻第一集及び第二集を伊藤博文に送り、「日本陽明学派之哲学」を浦谷熊吉に送る、○酒井真来訪す、
五日、哲学叢書第一巻第一集及び第二集を大隈重信、濱尾新、伊沢修二、磯辺弥一郎に送る、○磯江潤来訪す、
六日、長谷川福平、笹川種郎来訪す、
七日、小野隆助来訪す、
八日、松永武雄、相良某来訪す、
九日、陸実、池田謙蔵、松本亦太郎、斎藤庸一郎、鈴木倉之助、野田義夫来訪す、

十日、冨田春山、斎藤庸一郎等六人を三河屋に招燕す、
十一日、「日本陽明学派之哲学」の訂正を冨山房に送る、
十二日、中村清二、小林猪作、藤村作外一名来訪す、
十三日、
十四日、金山尚志、渡辺英一来訪す、
十五日、高等教育会議に赴く、
十六日、隈本有尚、広瀬進一、高橋龍雄、石川岩吉、長谷川福平、木全多見、白井練平、井上蘇吉来訪す、
十七日、遠藤佐久治、上原甚六、斎藤庸一郎来訪す、○高等教育会議に赴く、
十八日、「日本陽明学派之哲学」を津野慶太郎に送る、○高等教育会議に赴く、
十九日、高等教育会議に赴く、○夜、文科大学懇親会に赴く、
二十日、中山久四郎来訪す、○高等教育会議に赴く、○夜、松田文部大臣に帝国ホテルに招燕せらる、
廿一日、高等教育会議に赴く、○「利己主義と功利主義とを論ず」を友枝高彦に送る、○斎藤庸一郎来訪す、
廿二日、金子法相の招燕に赴く、徳富猪一郎、多田作兵衛、野田卯太郎に会見す、○藤岡作太郎来訪す、
廿三日、反物一反を中洲老母へ、鴨三羽を塩谷時敏に送る、○梅園集を広江万次郎に返送す、○遠藤隆吉来訪す、
廿四日、「フラ子ル」一反を中洲老母に送る、○高山林次郎来訪す、
廿五日、武島又次郎、宇野哲人、蟹江義丸、中島力造、桑原騭蔵、本多浅次郎、金子銓太郎来訪す、
廿六日、市村瓚次郎来訪す、○書を高楠順次郎、酒井真等に送る、○金子を姉崎留守宅に送る、
廿七日、笹川種郎、加藤玄智来訪す、○堅魚節一箱を重野安繹に送る、
廿八日、三浦周行、山田敬三、林平次郎、竹内楠三来訪す、○海苔二箱を博多川端及び京都姉崎氏に送る、
廿九日、川口申雄、冨尾木知佳来訪す、○エミール、エック氏に招燕せらる、○午後、中島力造氏を招燕す、
三十日、
三十一日、野田義夫来訪す、○哲学叢書第一巻第三集成る、

巽軒日記

明治三十四年（西暦一九〇一）

一月

一日、斎藤基次郎、野田義夫、佐村八郎来訪す、
二日、津野慶太郎、石沢発身来訪す、○哲学叢書第一巻第三集を加藤弘之、濱尾新、沢柳政太郎に送る、
三日、哲学叢書第一巻第三集を菊池大麓へ、仝第二集第三集を黒田侯へ、仝第一集乃至第三集松田文相へ贈る、○「人工の美と自然の美」を笹川種郎に送る、
四日、松崎覚本、田中秀穂来訪す、○哲学叢書第三集を加藤弘之、坪内雄蔵、デニング三氏に送る、○新渡戸氏のBushidoを讀む、
五日、宮中の新年宴会に陪す、○吉田松陰の武教講録を読む、
六日、児女の為めに骨牌会を催す、
七日、宇野哲人来訪す、○グリーン ミユルヘツド二氏の倫理学を読む、
八日、グリーン ミユルヘツド二氏の倫理学を読む、
九日、哲学叢書第一巻第三集を田口卯吉に送る、
十日、蟹江義丸、吉田熊次来訪す、○検定試験問題を文部省に送る、○ミユルヘツド氏の倫理学を読む、
十一日、哲学叢書第一巻第三集を大学に寄附す、
十二日、哲学字彙会を開く、○内野九十九来訪す、
十三日、桑木厳翼、小野藤太、波多野精一、相良益次郎、小林猪作、片岡久太郎来訪す、○夜、井上円了に富士見軒に招燕せらる、土屋弘、内田周平、鈴木券太郎、三宅雄次郎、斎藤唯信等と会見す、
十四日、野田義夫来訪す、○女子教育談筆記を上原甚六に付与す、
十五日、哲学叢書第一巻第二集及び第三集を三宅雄次郎及び徳冨猪一郎に送る、○日本陽明学派之哲学を朝井次之吉に送る、○冨田春山来訪す、
十六日、松田文相と大学に会食す、○内田周平来訪す、
十七日、冨田春山郷里に帰る、○哲学叢書第一巻第一集乃至第三集を坪井九馬三に贈る、
十八日、磯辺武者五郎来訪す、
十九日、蟹江義丸来訪す、
二十日、法貴慶次郎、石川栄司、野田義夫、斎藤基次郎来訪す、○午後、栗野公使の歓迎会に赴く、
廿一日、野田義夫来訪す、○古学先生詩集を読了す、○伊藤圭介卒す、
廿二日、三石賤夫、蟹江義丸来訪す、○伊藤仁斎の大学定本を読了し、グリーン ミユルヘツド二氏の倫理学を読む、○英国女皇ヴヰクトリア崩ず、八十三歳、在位六十四年、
廿三日、日本詩史を読む、○哲学叢書第一巻第三集を教育博物館に寄贈す、○検定試験を行ふ、
廿四日、石川栄司、飯田御世吉郎来訪す、
廿五日、哲学叢書第一巻第一集及び第二集を桑木厳翼に送り、書状を陸実に送る、
廿六日、中島力造来訪す、○夜、言文一致会に於て演述す、
廿七日、原田稔甫、竹内楠三、河出静一郎来訪す、○書を川端に送る、

廿八日、鍵谷徳三郎来訪す、
廿九日、蟹江義丸、中島徳蔵、リース来訪す、○日本陽明学派之哲学をフローレンツ及び木村鷹太郎に送る、○大学第二医院焼失し、死する者二十余名、
三十日、竹内楠三、井上蘇吉、白井練平、荒浪市平来訪す、○第二医院の焼迹に至り、青山胤通を訪ふ、○李鴻章逝く〔※朱線にて消し〕
卅一日、中島力造来訪す、○不在中深田藤次来訪す、

二月

一日、文部省に於て検定試験を行ふ、○大塚保治来訪す、
二日、第二医院跡に於ける罹災者追吊法会に赴く、
三日、山中家斉、岡原尭鉄、竹内楠三、宮本正貫来訪す、○福沢諭吉逝去す、
四日、鍵谷徳三郎、中村たか子来訪す、
五日、「我邦徳育の前途」を竹内楠三に送る、
六日、梅沢精一来訪す、○中庸発揮を読了す、
七日、桜井一義来訪す
八日、本多浅次郎、野田義夫来訪す、○ミュルヘッドを読了す、
九日、木村鷹太郎、宮内黙蔵、吾妻兵治、遠藤隆吉、酒井真、松平直亮来訪す、
十一日、参賀の為め宮中に赴く、○野田義夫来訪す、○ショッペンハウエル氏の Ueber die Freiheit des menschlichen Willens を読了す、○池辺義象帰朝す、
十二日、深田康算、小林一郎来訪す、
十六日、蟹江義丸来訪す、○「武士道を論じ、併せて『瘠我慢説』に及ぶ」を草す、
十七日、遠藤隆吉、上田敏、古城貞吉来訪す、
十八日、文学士高城万助逝去す、
十九日、巽軒論文二集の草稿を酒井真に渡す、
二十日、新渡戸稲造氏の小話会に赴く、徳冨猪一郎、三好退蔵、小崎弘道、内村鑑三、木村介石、横井時雄、戸川安宅、巌本善治等と会見す、
廿一日、
廿二日、萩野由之来訪す、
廿三日、高津武人来訪す、○「日本陽明学派之哲学」を徳冨猪一郎に送る、
廿四日、
廿五日、
廿六日、
廿七日、芳野世経、野田義夫、内田銀蔵来訪す、
廿八日、栗原英之助来訪す、

三月

一日、尾田信直、橋本唯三郎来訪す、○帝国大学紀念日祝賀式に赴く、○パウルゼン氏の倫理学を読む、
二日、大槻文彦、生田徳太郎、坂巻善辰、長谷川誠也来訪す、○白鳥庫吉の送別会に赴く、

三日、深作安文、吉田熊次、本保義太郎、冨尾木知佳、成田衡夫来訪す、
四日、木村正辞来訪す、
五日、William R.Bishop、加藤玄智来訪す、
六日、
七日、大槻文彦、蟹江義丸来訪す、
八日、久保田鼎来訪す、○蒲生重章、江馬天江長逝す、
九日、美術学校に於て「美の観念」を演説す、島村抱月と会見す、
十日、麻生正蔵、冨尾木知佳、井上清一、小野藤太、石川栄司、松平直亮、飯田御世吉郎来訪す、○児子を携へて、上野絵画展覧会、丹青会及び金工会に赴く、
十一日、市村瓚次郎来訪す、
十二日、井上幸一来訪す、
十三日、
十四日、
十五日、野中久徴来訪す、○童子問を読了す、
十六日、野田義夫、今西龍来訪す、○中島幹事逝く、
十七日、松平直亮、金子銓太郎、有馬龍秀来訪す、○山川健次郎就職廿五年の祝賀会に赴く、
十八日、川田鉄弥来訪す、
十九日、蟹江義丸、大橋次郎、原田稔甫、瀧精一、金子銓太郎来訪す、
二十日、文学倶楽部を退会す、其益なきが為めなり、○文科大学懇親会に赴く、
廿一日、津野慶太郎来訪す、○パウルゼン氏の倫理学を読む、
廿二日、永廻藤一郎来訪す、
廿三日、幼年学校に赴き、「武士道の話」てふ題にて演説す、野津大将、大久保中将、高木少将、伊崎大佐等来会す、○酒井清造逝く、
廿四日、高杉瀧蔵、遠藤隆吉来訪す、○帝国教育会に赴き、「武士道と将来の道徳」てふ題にて演説す、
廿五日、三宅米吉来訪す、○修身調査会に赴く、
廿六日、
廿七日、鈴木力太郎、宇野哲人来訪す、
廿八日、金子銓太郎、白鳥庫吉、友枝高彦来訪す、○巽軒論文二集序を秀英舎に送る、
廿九日、「教育雑話」を東京市教育会に送る、○書状を山鹿旗之進、島文次郎等に送る、
三十日、高山林次郎、佐藤政次郎、佐藤熊次郎来訪す、○文学博士会に赴く、西村茂樹、木村正辞、小杉榲邨、那珂通世、萩野由之、松本愛重、三宅雄次郎、三宅米吉、博士となる、
卅一日、八王子の弘道会に赴き、「夫婦の関係」に就き、演説す、原田稔甫、大久保普行等と会見す、

四月

一日、岩田僊太郎、茂木福太郎、磯江潤、内山守太郎、柏原文太郎来訪す、
二日、吉田熊次、井上俊雄、野田義夫来訪す、○道東学校に之き、生徒に教ふる所あり、

三日、中村鄧次郎、中村茂、陸軍中将大久保春野来訪す、
四日、木本倉二、工藤一記、加藤玄智、保科孝一、野田義夫、永松茂来訪す、
五日、岩田僊太郎、西晋一郎、望月信亨来訪す、
六日、深作安文、桑木厳翼来訪す、
七日、京華中学に赴き、卒業式に莅む、○午後、伝通院に於て「宗教の話」をなす、
八日、原亮三郎、湯浅義一、市村瓚次郎、西川政憲、遠藤隆吉来訪す、○午後、興学会に赴く、
九日、望月信亨、大塚保治、山村弥久馬、桑木厳翼来訪す、○書生永松茂来たる、○巽軒論文二集五百部の奥附を冨山房に渡す、
十日、朝井次之吉、嘉納治五郎来訪す、
十一日、西川政憲、瀧精一、足立栗園来訪す、
十二日、横山徳次郎来訪す、
十三日、田中森之助、高畠政之助、本保義太郎来訪す、
十四日、渡辺千春、土井林吉、村川堅固、笹倉新治、小杉榲邨、牧瀬五一郎、磯江潤、八田三喜来訪す、○足立栗園に武士道発達史を送る、
十五日、飯田御世吉郎来訪す、
十六日、
十七日、土井林吉、深田康算来訪す、○宇田淵逝く、
十八日、高山林次郎、鈴木治太郎、川田鉄弥来訪す、
十九日、勝浦鞆雄、鈴木光愛来訪す、○「宗教変動の徴」を博文館に送る、
二十日、佐藤政次郎、永廻藤一郎来訪す、○「教育学術界の革張を祝す」を永廻氏に送る、○勅語衍義の奥附二百枚を林平次郎に渡す、
廿一日、根本通明の祝賀会に赴く、伊沢修二、有賀長雄等と会見す、○造士会に於て「公徴と私徴の話」を演説す、○巽軒論文二集成る、○巽軒論文二集を三宅雄次郎、坪田雄蔵、徳冨猪一郎、加藤弘之に送る、○野田義夫、斎藤基次郎、井上俊雄、仝精一、亘理章三郎来訪す、
廿二日、小谷重、中村鄧次郎、横山多喜治来訪す、○巽軒論文二集を井上円了、桑木厳翼に送る、
廿三日、木幡忠来訪す、
廿四日、午前高等学校長会議に赴き、午後大学教授送迎会に赴く、
廿五日、岩田僊太郎来訪す、
廿六日、松本愛重来訪す、○巽軒論文二集を高山林次郎、横井時雄二氏に送る、
廿七日、巽軒論文二集をデニング、上田万年、井上侃斎、斎藤庸一郎、甫守謹吾、田口卯吉、沢柳政太郎に送る、○遠藤隆吉来訪す、
廿八日、埼玉県教育総会に赴き、「夫婦の関係に就いて」を演説す、山田新三、横山三郎、国友次郎、町田則文、豊岡俊一郎、高橋重蔵等に邂逅す、○深田康算、林平次郎、河田静一郎来訪す、○巽軒論文二集を冨田春山に送る、
廿九日、巽軒論文二集を大隈重信、近衛篤麿、黒田長成に送る、○

皇孫御降誕、
三十日、各高等学校長と星岡茶寮に会す、

五月

一日、御所及び青山御所に参賀す、○巽軒論文二集を星亨、金山尚志、有賀長雄、戸水寛人、田中萃一郎に送る、○書を酒井真、津野慶太郎に送る、
二日、五二会に赴く、加藤高明、岡野修蔵、坂谷芳郎、日下部弁次郎、古市公威、中川元、荘清次郎、田中正平等に邂逅す、○松平直亮来訪す、
三日、津野学士の母堂及び夫人来訪す、○哲学科予餞会に植物園に赴く、
四日、湯浅義一来訪す、
五日、菊池大麓来訪す、○皇孫の御命名式あり、迪宮裕仁(ミチミヤヒロヒト)と命名せらる、〔本文左に関連新聞記事切抜貼付〕
六日、亘理章三郎、長谷川誠也来訪す、
七日、冨塚恂来訪す、○池田草庵の遺稿を土屋弘に返す、○伝通院に於ける演説筆記を浄土宗高等学院に送る、
八日、松平直亮、南正次、吉木竹次郎来訪す、
九日、巽軒論文二集を伊藤博文、渡辺国武、金子堅太郎、末松謙澄、加藤高明に送る、○書を土屋弘及び土井七郎兵衛に送る、○永廻藤一郎来訪す、
十日、三島豊三郎来訪す、
十一日、法貴慶次郎、三輪田元道、石橋則隆、斎藤木、野田義夫来訪す、
十二日、書を土屋弘に送る、
十三日、本保義太郎来訪す、
十四日、小倉博、鷲尾順敬、吉木竹次郎、広江万次郎、田村安太郎、柏原文太郎来訪す、
十五日、友枝高彦来訪す、
十六日、渡辺英一、善波功来訪す、○塩谷青山、森泰次郎二氏に書状を送る、
十七日、西山清澄、長野遐来訪す、○永廻藤一郎に談話筆記の校正を送る、
十八日、沢柳政太郎、中島徳蔵来訪す、○書を土屋弘に送る、
十九日、遠藤隆吉、伊藤朝往来訪す、○横浜教育会に赴く、梅謙次郎、添田寿一、古谷嘉兵衛、根本正等に逢ふ、○夜、国民英学会の祝筵に招待せらる、井上十吉、ウード、大江敬香、村井知至等に逢ふ、
二十日、松平直亮、原田稔甫来訪す、
廿一日、「公徳と私徳」の演説筆記を造士会に送る、
廿二日、
廿三日、中島徳蔵来訪す、○中江岷山の理気弁論を読了す、
廿四日、坪井久馬三、飯田御世吉郎来訪す、○渡辺洪基逝く、
廿五日、弘田正郎、春日仲淵来訪す、○談話筆記を松平直亮に送る、○中村久一郎の送別会に赴く、
廿六日、栃木県教育会に宇都宮に赴く、溝部惟幾、鈴木光愛、小堀源、神保小虎、本多浅次郎と会見す、

廿七日、大西正太郎、河出静一郎来訪す、
廿八日、村上龍英、久本為蔵、蟹江義丸来訪す、
廿九日、柏原文太郎、石川栄司、蟹江義丸来訪す、
三十日、中尾教厳、桑原鷹蔵来訪す、
卅一日、辻新次、千田時次郎、松山直蔵、善波功来訪す、

六月

一日、山内素行、尾上八郎、沼波武夫、八木光貫、横山達三来訪す、○香月先生の碑文を飯田御世吉郎に送る、○大橋乙羽逝く、
二日、名児耶六都、高崎行一、冨尾木知佳、中村久四郎、三成慶太郎、前田慧雲、西晋一郎、加藤玄智来訪す、○菊池大麓、文部大臣に任ぜらる、
三日、山口志げ中之条に還る、
四日、「武士道と将来の道徳」を帝国教育会に送る、○千田時次郎来訪す、○女子美術学校に赴き、藤田校長と面談す、
五日、金子銓太郎、白石正邦、宇野哲人、紀平正美来訪す、○山川健次郎、東京帝国大学総長となる、
六日、横矢重道、御園生卯七、永廻藤一郎来訪す、○「武士道の話」を金子銓太郎に送る、
七日、楠原知恵、戸野周次郎、堤葦狭穂、野田義夫来訪す、○夜、興学会に赴く、
八日、土井林吉来訪す、○夜、永楽会に赴き、生徒の為めに一場の演説をなす、
九日、千葉県教育会に赴き「人生の三大事件」を演述す、赤司鷹一郎、針塚長太郎、由比質、原庫二、岡巌、西谷虎二、弘田正郎等と会見す、
十日、小笠原実成来訪す、○真宗本派の仏教中学に赴き「人生に就きて」を演説す、島地黙雷、村上専精、堀謙徳、酒生慧眼、原山太吉、渡辺仁兵衛等と会見す、○「孔門之徳育序」を亘理章三郎に送る、
十一日、境野哲来訪す、○勅語衍義の奥附五百部を敬業社に渡す、
十二日、安藤正次来訪す、○中村桐香に詩二首を送る、
十三日、土井林吉の送別会に精養軒に赴く、落合直文、佐々木信綱等と会見す、
十四日、法貴慶次郎来訪す、○スクリッバの独逸に赴くを送る、
十五日、信州長野に赴く、深田藤治、深井弘、矢沢米三郎、山田文太郎、浜幸次郎、井田竹治、下平末蔵、戸野周次郎、水科善祐等と会見す、○土井林吉西洋に赴く、
十六日、長野県教育会に於て「人生に関する話」を演説す、聴衆凡そ一千人、押川則吉、横田太一郎等と会見す、此日帰京す、
十七日、哲学の試験を行ふ、
十八日、小倉博、小田切良太郎、野田義夫来訪す、
十九日、平山晋、小谷重、松永武雄、斎藤木、吉田熊次、柏原文太郎来訪す、○東亜商業学校に於て梁啓超と会見す、○粟屋雪城に其著書を返す、
二十日、中村秋香、辻善之助、松平直亮来訪す、
廿一日、津野慶太郎来訪す、○新旧総長送迎会に植物園に赴く、○

星亨氏東京市役所に暗殺せらる、〔本文左に新聞記事切抜貼付、「明治年間遭害一覧」〕
廿二日、躬行会に於て「宗教と道徳の話」をなす、○菊池文相栄転祝賀会に植物園に赴く、〔頁下部に新聞記事切抜貼付、「躬行会」〕
廿三日、野口四郎来たる、
廿四日、笹川種郎、中島益吉来訪す、○小西重直の「倫理上の自我観念」を読む、○書状を興津の加藤孫平に送る、
廿五日、菅窪平来訪す、
廿六日、中村久四郎、花沢浮州、西河龍治、深沢伊三郎、中尾卯兵衛来訪す、
廿七日、田中昌蔵来訪す、
廿八日、佐藤孝一郎、中村久四郎、小笠原実成、吉田賢龍来訪す、○菊池文相に帝国ホテルに招待せらる、嘉納治五郎、寺尾寿、寺田勇吉、狩野亨吉、岡田良平、久保田鼎等と会見す、
廿九日、中村たつ子、石井直、宇野哲人来訪す、○夜、深沢伊三郎、中尾卯兵衛を上野精養軒に招待し、俊雄、精一、勃爾及び家族と共に会食す、
三十日、斎藤木、深作安文、成田衡夫、八田三喜来訪す、○書状を松井知時に送る、

七月

一日、村上龍英、倉山栄、石橋友次郎、友枝高彦来訪す、
二日、友枝高彦、住田昇、榎本勝多、田中治六、酒井真来訪す、○山階宮令詞を榎本勝多に送る、
三日、西河龍治、友枝高彦来訪す、
四日、島文次郎、野田義夫、斎藤基次郎、星野恒来訪す、
五日、野中久徴、萩野由之、大倉書店来訪す、
六日、内ケ崎作三郎、野々村戒三来訪す、○菅公頌徳大講談会に赴き、菅公の事蹟を講述す、大隈伯爵、黒田侯爵、前島密、星松三郎、吉田宇之助、小池民次等と会見す、
七日、岡倉覚蔵、小西重直、酒井真、沼波武夫、北村沢吉、石川岩吉来訪す、
八日、尾上八郎、山内素行、半田正身来訪す、○夜、文科大学懇親会に植物園に赴く、
九日、長谷川福平、広田孝吉、紀平正美来訪す、○不在中中島徳蔵来訪す、○福田常三郎、加藤孫平に書状を送る、
十日、大学卒業式を挙行す、卒業生凡そ三百四十五人、就中文科七十一人、桂総理大臣、芳川逓信大臣、菊池文部大臣、寺内参謀長、濱尾新、田口卯吉、等と会見す、此日小西重直及び森清に御下賜品を賜はる、○塩谷時敏、福来友吉、松井等、藤田良平、花沢浮州、伊藤兼一、西河龍治、野田義夫、友枝高彦来訪す、○博多川端に書状、甘木に東洋哲学一冊を送る、
十一日、矢嶋碩山来訪す、
十二日、住田昇、小倉博、倉橋文介、福原徳三、箭内亘、牧野田彦松、長江有一、蟹江義丸来訪す、戸水寛人の「文明時代之道徳」を読む、○叙勲御礼の為め宮中に赴く、
十三日、村上龍英、遠藤隆吉、吉田熊次、桑原鷺蔵来訪す、○雑誌

「東洋」をデニング及び川端に送る、
十四日、塩谷温、斎藤清太郎、中村茂来訪す、○午后学士会院に赴く、
十五日、西崎憲英、高原操、八波則吉、住田昇来訪す、○隈本有尚に端書を送る、
十六日、五島陸三郎、三輪田元道、西川政憲、中山文雄、野々村戒三、笹倉新二、樋口秀雄、八木光貫来訪す、
十七日、ロッツェの哲学書類を読む、
十八日、伊沢修二、巳野義郎、手塚光貫、上松又男来訪す、
十九日、有馬祐政、友枝高彦来訪す、○大橋乙羽の追悼会に赴く、末松謙澄、石黒忠悳、柳沢保恵、高田早苗、落合直文等と会見す、
二十日、本多辰次郎、西川政憲、中島力造、中島徳蔵、遠藤隆吉、花沢浮州、野田義夫、木村鷹太郎来訪す、○書を井上侃斎に送る、
廿一日、高木正義、青木倉蔵、大島直治、尾張捨吉郎、デニング、内山正居来訪す、○「青年日常訓」を西川政憲に送る、
廿二日、村田勤、西晋一郎、上松又男、石井直、藤岡継平、飯田御世吉郎来訪す、○菅家文草を読む、
廿三日、小林一郎、佐伯利磨来訪す、○菅家文草を読む、○此日衂血あり、因りて安静に起臥す、
廿四日、伊沢千世子、仝夏子、内田銀蔵、野田義夫、高橋完介来訪す、○菅家文草を読了す、○「現今の教育問題」の筆記訂正を木村鷹太郎に送る、
廿五日、大塚保治、高橋完介来訪す、○パウルゼン氏の倫理学を読む、
廿六日、柏原文太郎、友枝高彦、西川政憲来訪す、○パウルゼン氏の倫理学を読む、
廿七日、鈴木力太郎来訪す、○パウルゼン氏の倫理学を読む、
廿八日、桑木厳翼、蟹江義丸、伊藤芳松来訪す、○「武士道」を松平直亮、木下広次に送る、
廿九日、秋月胤継、遠藤隆吉、済川良光、朝夷六郎、グラマーツキー来訪す、○狩野亨吉を訪ひ、又嘉納治五郎を訪ふ、
三十日、松本愛重、川口申雄、池田久米次郎、山本大善来訪す、○遠藤隆吉結婚の式に赴く、伊沢修二、朝夷六郎、稲畑勝太郎等と会見す、
卅一日、金子銓太郎、大藪好太郎、鍵谷徳三郎、伊沢夫人、グラマーツキー、野田義夫来訪す、

八月

一日、午前六時三十分、雪子清子の二女子を携へ、東京新橋を出発し、午后九時、京都に到着し、柊屋に宿す、
二日、午前六時、京都を出発し、午後九時、馬関に着し、川卯に宿す、
三日、午前九時、馬関を出発し、十二時廿三分、博多に到着す、白川次郎、宮川武行、筑紫本吉来訪す、
四日、東林寺祖先の墳墓に謁し、更に箱崎に赴き、海水に浴す、隈本有尚、野田静雄来訪す、
五日、原台東、広辻信次郎来訪す、○此日福博有志者の招待を受け、一方亭に赴く、来会者は伯兄の外有吉七郎、大山与四郎、深沢伊三郎、佐伯武平、中尾伊作、仝卯作、仝卯兵衛、石蔵利平、波多江嘉兵衛、下沢善右衛門、

六日、古川勝隆、吉田豊、斎藤基次郎、坂田和十郎、中尾伊作、深沢伊三郎、中村清次郎、松田敏足、長倉雄平、倉成久米吉来訪す、
○晩景、西公園に遊ぶ、
七日、午前、貝原寛一を博多丸町に訪ひ、益軒の遺書を見る、尋いで寛一と同行、福岡西町金龍寺に赴き、益軒の墓に謁す、○此日、林養直、園田定太郎、金沢来蔵来訪す、○午后八時八分、博多を出発し、九時頃、太宰府に着す、高杉義彦、吉嗣拝山、斎藤庸一郎等と会見す、
八日、萱島秀山、田中種光、小野隆助、広辻信次郎、高杉義彦、西高辻信稚、安恒篤二郎、古川勝隆、鹿児島徳兵衛来訪す、○此日、菅廟に謁し、宝物を見る、尋いで観世音寺及び都府楼の古址を訪ひ、又祖先の墓に謁す、夜、菅公会に招待せらる、小野隆助、田中種光、広辻信次郎と会見す、
九日、午前、太宰府神社事務所に於て演説す、午后、高原健次郎と共に榎寺及び隈若麿（又隈麿とも云ふ）の墓を訪ひ、又横嶽を経て醍醐を見て帰る、夜、太宰府町有志者を受く、久保に移りて宿す、
十日、小野隆助、宮小路康文、大木谷桂樵、萱島秀山等来訪す、午前、博多に帰り、午后、共進館に於て「今後の教育」を演説す、夜、博渉会員等の招待を受け、一方亭に赴く、隈本有尚、熊谷玄旦、倉成久米吉、津田利夫、白河次郎、高橋光威、小寺甲子二等と会見す、
十一日、午后、熊本市に赴き、研屋支店に投ず、住田昇、井芹経平、鈴木重持、内藤儀十郎、野田寛、赤星為已、岡原尭鉄来訪す、
十二日、共進会場に「徳育の大方針」を講演す、尋いで本妙寺を訪ひ、水前寺に遊ぶ、
十三日、共進会場に講演し、尋いで城内を見る、第六師団副官陸軍歩兵大尉羽生俊助案内をなす、午后公衆に向ひて演説し、夜、教育家の招待を受く、
十四日、共進会場に講演し、畢りて観集館を見る、十時二十六分熊本を出発し、午后、二時二十六分博多に到着す、夜、学士会の招待を受く、大森治豊、熊谷玄旦、榎本与四郎、谷口留五郎、片田豊太郎、八坂半六等と会見す、
十五日、辻本卯蔵、津崎伊平、筑紫本吉来訪す、○午后、門司に至り、石田屋に投ず、
十六日、門司を出発し、夜、京都の柊屋に投ず、
十七日、姉崎氏の家族を訪ふ、尋いで又伊藤仁斎の第六世の孫伊藤重光を「東堀川下立売上ル」に訪ひ、仁斎の祠堂に謁す、○此日、島文次郎、宮崎幸麿、青山清吉と会見す、
十八日、午前七時五十五分、京都を出発し、夜、十時三十一分、新橋に到着し、十一時過小石川の自宅に還る、
十九日、深作安文、宮田脩、野田義夫、白石正邦来訪す、
二十日、真田良来訪す、
廿一日、宮田脩来訪す、○黒田侯の「菅相公」及び津軽政方の「聖学問答」を読む、
廿二日、深作安文来訪す、○伊藤東涯の学問関鍵及び古今学変を読む、○小野隆助、白河次郎、中垣安太郎等に書状を送る、

廿三日、市村瓚次郎来訪す、○パウルゼン氏の倫理学を読む、
廿四日、桑木厳翼来訪す、○育成会所属講習会に於て「今後の教育の方針」に就いて演説す、
廿五日、時田未亡人、笹川種郎、野田義夫、津野慶太郎来訪す、○伊藤東涯の「復性弁」を読む、
廿六日、石川栄司、平山卯之助来訪す、○住田昇、倉成久米吉、古川勝隆等に書状を送る、
廿七日、小島武雄来訪す、○井上成美に五円の為換を送る、○与謝野寛に書状を送る、
廿八日、石川岩吉、内山正居、野田義夫、朝井次之吉夫婦、浦谷熊吉夫婦、坂部行三郎来訪す、○ヘーゲルの法理哲学を読む、
廿九日、石川岩吉、宇野哲人、斎田耕陽、冨田順吉来訪す、○ヘーゲルの法理哲学、パウルゼンの倫理学及び華厳経を読む、
三十日、児玉実徳来訪す、○パウルゼンの倫理学及び華厳経を読む、
○尾原亮太郎、瀧本誠一等に書状を送る、
卅一日、小林一郎、川田鉄弥、荒浪市平来訪す、○尾原亮太郎、野中久徴、浅野陽吉等に書状を送る、○塩谷時敏に鶏卵一箱を送る、
○華厳経及びパウルゼンの倫理学を読む、

九月

一日、三井米松来訪す、○鳩山和夫の送別会に帝国ホテルに赴く、三好退蔵、山田喜之助、関直彦、鈴木充美、坪内雄蔵、高田早苗、石渡敏一、藤田四郎、都築馨六、清浦奎吾、柳沢保恵、重岡薫五郎等と会見す、○松本源太郎、木村鷹太郎等に書状を送る、
二日、岡野久胤、石川倉次来訪す、○三井銀行に行き、次いで黒田侯爵邸に赴く、○久本為蔵及び山中立木に書状を送る、
三日、吉木竹次郎、古城貞吉、野口貞一、千秋季隆来訪す、○理趣経及び大日経住心品を読む、○感化院に十五円を寄附す、
四日、小杉榲邨、村上専精、上田万年、萩野由之、鈴木力太郎、尾原亮太郎、井上俊雄、仝精一来訪す、○鳩山和夫米国に向って出発す、
五日、保科孝一、松平直亮、渡辺千春、野田義夫来訪す、○聖徳太子の「十七憲法」及び「日本国未来記」并に伊藤東涯の「間居筆録」を読む、
六日、内山正居、花沢浮州、友枝高彦、田中唯一郎、保科孝一来訪す、
七日、津野慶太郎の欧洲に赴くを送る、○岡田正美、西河龍治、藤井健治郎来訪す、○東涯の「天命或問」及び小柳司気多の「道徳の革新」を読む、
八日、平山卯之助、小野藤太、熊谷五郎来訪す、○和歌八首を作り、本居豊穎に送る、
九日、法貴慶次郎、斎藤延、清原徳次郎、井上成美、仝健次、吉冨某、中島徳蔵、中島茂一、石橋友次郎、円藤鎮、蟹江義丸、伊藤六蔵、野田義夫、松山直蔵来訪す、○「益軒先生年譜」を読む、
十日、西晋一郎、重田友介、曽根松太郎、三輪田元道、小笠原実成、井上成美、野田義夫来訪す、○山川健次郎を訪ふ、
十一日、小西重直来訪す、
十二日、円藤鎮、友枝高彦来訪す、○談話筆記を永廻藤一郎に送る、

十三日、友枝高彦、速水滉、伊藤朝往、長谷川篤来訪す、○関根正直に書状を送る、
十四日、辰巳小次郎、小林吉人、宮森冨岐雄、遠藤隆吉、成田衡夫、河出静一郎、井上成美来訪す、
十五日、ヴントの倫理学を読む、○此日歯痛あり、
十六日、石橋五郎、フローレンツ来訪す、○中江篤介の「一年有半」を読む、
十七日、中尾教厳、古城貞吉、長谷川福平、有馬祐政来訪す、○書を斎藤儀八に、談話筆記を日報社に送る、
十八日、小島武雄、野田義夫来訪す、○書を松本源太郎に送る、○伊藤博文欧米に向って出発す、○ロッツエの「ミクロコズムス」を読む、
十九日、大橋次郎、村上勘兵衛、高瀬武次郎、岡部精一来訪す、
二十日、関根正直来訪す、
廿一日、手塚光貴、井上蘇吉、速水滉、石塚龍学、井上成美来訪す、
廿二日、松井知時、宮内黙蔵、津田純一、三井米松、樋口秀雄、菊池広来訪す、
廿三日、中村勝麿、坂根友敬、元良勇次郎、吾妻兵治来訪す、
廿四日、平山卯之助、吉田熊次、蟹江義丸、石橋友次郎来訪す
廿五日、高原操、樋口秀雄、藤野三郎来訪す、○書を坂本嘉治馬に送る、
廿六日、島田蕃根、小林一郎、津田純一、速水滉来訪す、書を哲学書院に送る、
廿八日、辻本卯蔵来訪す、
廿九日、吉田賢龍、徳谷豊之助、小谷重、伊沢夫人、落合貞三郎、中村寅松、三沢糾、塚原政治、斎藤基次郎来訪す、
三十日、井上成美来訪す、

十月

一日、大橋次郎、大藪好太郎、石橋五郎、建部遯吾来訪す、
二日、不在中徳田浩司来訪す、○東涯の経史論苑及び経史博論を読む、
三日、八杉貞利、野田義夫来訪す、○ロッツエの「ミクロコズムス」を読む、
五日、紀平正美、野田義夫、建部遯吾、加藤玄智、飯田御世吉郎、蟹江義丸来訪す、
六日、平山卯之助、斎藤基次郎来訪す、○ヴントの倫理学を読む、
七日、
八日、吉田賢龍来訪す、○午后、興学会に赴く、
九日、中尾教厳、徳谷豊之助来訪す、○吉田熊次に倫理を目的とせる学生の団体を組織することを説く、○勅語衍義の奥附五百枚を敬業社に付与す、○夜、横浜中華会館に於ける「孔聖生誕祭」に赴く、犬養毅、福本誠、関直彦、梁啓超、鈴木充美等と会見す、祭主は鄭席儒、
十日、小林一郎、村上龍英、村木維夫、田村もよ子、永廻藤一郎来訪す、
十一日、徳谷豊之助、佐々木菊若来訪す、

十二日、三石賤夫、曽根松太郎、高畠政之助、佐々木政直、五島陸三郎、林甕臣来訪す、
十三日、午前真宗大学開校式に赴き、演説をなす、○午后、学士会院に赴く、
十四日、田沼駒江、中野寅次郎、岡島某、建部遯吾来訪す、○天民遺言を読む、○勅語衍義奥附五百枚を敬業社に付与す、
十五日、有馬祐政、雛田作楽来訪す、
十六日、復性弁天命或問の二書を育成舎に貸与す、○木村鷹太郎、竹内楠三来訪す、
十七日、蟹江義丸、西川政憲来訪す、○「教育の過去及び将来」の筆記を金港堂に送る、○道徳新論序を小柳司気太に送る、○書を佐々木信綱に送る、
十八日、新保寅次、村上専精来訪す、○書を教育学術界記者に送る、○倫理彙編第五巻の序説を育成会に送る、○倫理教科書奥附八百枚を金港堂に付与す、
十九日、高橋正熊来訪す、○倫理教科書総説奥附百枚を金港堂に付与す、○徳冨猪一郎及び安藤弘に書状を送る、
二十日、長尾槙太郎、法貴慶次郎、五島陸三郎、畔柳都太郎、蠣瀬彦蔵来訪す、○夜、建部遯吾、熊谷五郎、塚原政次、小西重直、岡倉由三郎、八杉貞利、藤岡勝二の送迎会に上野精養軒に赴く、
廿一日、日置健太郎、呉秀三、井上成美来訪す、○ノルサ氏と大学に会見す、○書を有馬祐政、畔柳都太郎二氏に送る、
廿二日、大野太衛、有馬祐政、岡島誘、西川政憲来訪す、
廿三日、内田銀蔵来訪す、
廿四日、徳田浩司、小林一郎、田中晋来訪す、○書を伊藤重光に送り、借本二種を河毛三郎に返す、○微恙(ママ)の為め休講す、
廿五日、水谷弓彦、辻善之助、水島慎次郎、境野哲来訪す、○「日本陽明学派之哲学」を木下広次に送る、○中江篤介の「続一年有半」を読む、
廿六日、岡島誘来訪す、
廿七日、桑木厳翼、藤井健次郎、長谷川福平、山川健次郎、上田整次、西晋一郎来訪す、○午后、哲学館孔子誕生会に赴き、儒教の欠点を論ず、
廿八日、
廿九日、中山文雄来訪す、
三十日、加藤玄智、井伏太郎、新保寅次来訪す、○儒者捨場保存会に出席す、
卅一日、金沢庄三郎、野田義夫来訪す、

十一月

一日、
二日、上野春平、蟹江義丸来訪す、
三日、宮中に参賀す、○加藤玄智来訪す、
四日、佐藤政次郎来訪す、
五日、冨田道生、長尾槙太郎来訪す、○書を伊藤重光及び井上蘇吉に送る、○倫理彙編四巻の序説を育成会に送る、
六日、書を伊藤重及び辻本卯蔵に送る、○赤沼金三郎歿す、

七日、文科大学懇親会を絵の島の金亀楼に催ふし、尋いで鎌倉を経て帰る、途に雨に逢ふ、○李鴻章逝く〔頁下部に李鴻章の経歴に関する新聞記事切抜貼付〕、
八日、村上専精、石川栄司来訪す、○日本倫理彙編第三巻成る、○書を上野春平に送る、
九日、日本倫理彙編第三巻を松平直亮に送る、○酒井真来訪す、○教育実験指針の祝文を佐藤政次郎に送る、
十日、学士会院に於て「倫理と宗教との関係」を講演す、
十一日、藤井健治郎来訪す、
十二日、根本通明、石川栄司来訪す、
十三日、Miss E.P.Hughes、徳田浩司、雛田作楽来訪す、○国旗序を石川栄司に送る、
十四日、佃与次郎来訪す、
十五日、「普通道徳新論序」を安藤弘に送る、○雛田作楽来訪す、
十五日(ママ)、写真を中洲、川端及び甘木に送る、○長谷川誠也、野田義夫、松田孫治郎来訪す、
十六日、遠藤隆吉、山川健次郎代理棚木悦太郎、内田貢(号三魯)、小西重直、東敬治、西河龍治来訪す、○談話筆記を徳田浩司に送る、
十七日、大庭雄貴、育成会の筆記者高橋完介来訪す、○海苔一箱を野田義夫に託して姉崎留守宅に送る、
十八日、井伏太郎、蟹江義丸来訪す、
十九日、徂徠集を読む、○「青年に必要なる信念」と題する談話筆記を高橋完介に送る、
二十日、文科大学々生に説諭する所あり、○午后陶森甲を厚生館に訪ふ、○岡倉覚三西洋に赴く、
廿一日、樋口秀雄来訪す、○「教育上の宗教道徳問題」教育公報に出づ、
廿二日、佐々木信綱来訪す、○午后ベルツ氏就職二十五年の祝賀会に赴く、石黒忠悳、宇野朗、呉秀三、田中館愛橘、穂積陳重、菊池大麓等と会見す、
廿三日、隈本有尚、大島義脩、工藤一記、藤井専随、金沢庄三郎、山内素行来訪す、
廿四日、境野哲、田中治六、市村瓚次郎、内田銀蔵来訪す、
廿五日、桑木厳翼、藤井健治郎来訪す、○午后、高等教育会議に赴く、
廿六日、冨塚恂来訪す、○濱尾新を訪ふ、○午后、高等教育会議に赴く、
廿七日、石川岩吉、三上参次来訪す、○山川健次郎を訪ふ、
廿八日、吉田賢龍来訪す、○リース氏と会見す、
廿九日、午后、教育会議に赴く、
三十日、工藤一記来訪す、○午后、教育会議に赴く、

十二月

一日、中村勝麿、建部遯吾、有馬純臣、遠藤夏子、住田昇、深作安文、石川岩吉、佃与次郎、大西雋次郎来訪す、○此日、大塚先儒墓地保存会に赴く、
二日、小林一郎来訪す、○井上円了の「余が所謂宗教」を読む、○

デニング氏に書状を送る、
三日、談話筆記の訂正を石川岩吉に送る、○山中立木に黒田家教育に関する返事を送る、○大塚先儒墓所改築趣旨書を島田鈞一に送る、○夜、野田義夫来訪す、
四日、古城貞吉来訪す、
五日、修身草案を大島義脩に送る、
六日、岡百世、波多野精一来訪す、○「裸体画論」の筆記を佐々木信綱に送る、
七日、大庭雄貴、平川泉吉来訪す、○書を工藤一記、津田純一、伊藤重光に送る、○価原を津田純一に返す、○午后、丁酉倫理会に赴く、
八日、高瀬武次郎、西ヶ谷可吉（衆議院議員 報徳会々長）、石幡伊三郎、酒井真来訪す、○音楽学校に行き、尋いで学士会院に赴く、○「青年に必要なる信念」学生倶楽部第二巻第三号に出づ、○夜、野田義夫来訪す、
九日、宮田脩、野田義夫来訪す、○大学に於て冨尾木知佳、高山林次郎等と会見す、○木村芥舟逝く、
十日、興学会に赴く、○松田孫治郎来訪す、○書状を内田貢に送る、○「宗教に対する態度」中学世界に出づ、
十一日、工藤一記、佃与四郎、桜井義肇来訪す、○倫理教科書総説千枚の奥附を金港堂に渡す、
十二日、高橋正熊来訪す、○巽軒論文初集の奥附百枚を冨山房に付与す、
十三日、花田衆甫来訪す、○中江篤介逝く、
十四日、松田孫治郎、斎藤基次郎来訪す、○「日本社会目下の弊害」と題する談話筆記を反省社に送る、
十五日、有馬純臣来訪す、○「教育上に於ける党派心の弊害」の談話筆記を日報社に送る、
十六日、「無神無霊鬼説の是非如何」の原稿を博文館に送る、○高橋完介来訪す、
十七日、「青年は何を理想とすべきや」の談話筆記を育成会に送る、○十時弥来訪す、
十八日、東京市教育会を退会す、○「裸体画に就いて」てふ一篇の文を畔柳都太郎に送る、○文科大学懇親会に赴く、
十九日、
二十日、博文館に赴き、詹々録を渡し、尋いで三井銀行に往いて還る、○有尾守善来訪す、
廿一日、平川泉吉、加藤玄智、法貴慶次郎、高橋其三来訪す、
廿二日、大倉書店手代原平吉、柴田勝文、野田義夫、八木光貫、布施知足来訪す、
廿三日、松平直亮、藤岡作太郎、高頭忠造、工藤一記来訪す、
廿四日、友枝高彦、原平吉来訪す、○日蓮の「種々御振舞抄」を読む、○午后修身調査会に赴く、
廿五日、箕作元八、井上円了、有尾守善来訪す、○大塚先儒墓地修築会に赴く、○「人工の美と自然の美」日本美術に出づ、
廿六日、明義社より速記者来る、○高頭忠造来訪せしも故ありて遇

はず、○加藤弘之の「所謂将来の宗教に就て」を読む、
廿七日、金沢庄三郎、長尾槙太郎、松平直亮、高瀬武次郎、斎藤基次郎妻来訪す、
廿八日、小林一郎、加瀬駒太郎来訪す、○「法律と道徳との関係」の筆記訂正を明義雑誌社に送る、○午后、黒田邸内勤学所に之き、講話をなす、○中洲老母、甘木老母及び久子萩野に菓子箱を送る、○川端に林檎一箱を送る、
廿九日、平出鏗二郎、横山徳次郎、三輪弘、冨尾木知佳来訪す、
三十日、吉田賢龍来訪す、○「余が宗教論に関する批評を読む」を吉田賢龍に送る、
三十一日、「楊墨哲学序」を高瀬武次郎に、「山崎闇斎及び其学派序」を法貴慶次郎に送る、○夜、雪子と共に銀座に之き、額三箇を求む、

明治三十五年（西暦一九〇二）

一月

一日、井上成美、斎藤延、斎藤基次郎、井上健児、仝俊雄、仝精一、野田義夫、佐村八郎来賀す、○面会せざる来賀者一百七十一人、賀状を送り来れるもの、一百四十五人、

二日、永松、朝井外一人来賀す、○面会せざる来賀者七十九人、賀状を送り来たれるもの、九十二人、

三日、小島一騰来訪す、○石川栄司、日本倫理彙編を携へて来たる、○「倫理と宗教との関係」を榎本勝多に送る、○「日本社会目下の病弊」中央公論に出づ、○面会せざる来賀者二十人、賀状を送り来たれるもの、九十二人、

四日、坂本嘉治馬、酒井真、藤田顕、青木倉蔵、大庭雄貴来賀す、○賀状を送り来たれるもの、八十四人、

五日、斎藤木、吉村寅太郎、須藤求馬、金井精一来訪す、○賀状を送り来たれるもの、六十人、○須藤求馬に鑑草を貸付す、○一日発行の日々新聞来たる、「教育上に於ける党派心の弊害」を掲載す、○「教育雑感」教育時論に出づ、

六日、宮中の新年宴会に赴く、○樋口秀雄来訪す、○賀状を送り来たれるもの、七十二人、○黒田長知薨す、

七日、黒田真洞、酒井真、山本大善来訪す、○賀状を送り来たれるもの、二十四人、○「こゝろの花」五の一を見る、「裸体画論」を掲載せり、

八日、松本道別、新保寅次来訪す、○賀状を送り来たれるもの、十五人、○学習院に赴き、近衛公爵と会見す、○此日、樹木皆氷柱を着けて水晶世界を現出す、

九日、山辺知春来訪す、○黒田邸に赴く、○賀状を送り来たれるもの、十三人、

十日、安倍徳太郎、西川政憲、小杉榲邨、赤堀又次郎、湯本武比古、吉田熊次来訪す、○賀状を送り来たれるもの、八人、〔頁上部に「来賀 二百七十人　賀状 六百〇四」と書込み〕

十一日、五島陸三郎、長谷川誠也、松永武雄、井上成美外一人来訪す、○巽軒講話第一集の原稿を長谷川誠也に渡す、○宮中の盃、鶴等を川端に送る、

十二日、加藤玄智来訪す、○学士会院に赴く、

十三日、菊池文相に招待せられ、其官邸に赴く、○津野慶太郎、松本文三郎、芳賀矢一、姉崎正治より賀状来たる、○土肥慶蔵来訪す、

十四日、修身調査会に赴く、

十五日、黒田長知の葬式に青山に赴く、○上田万年来訪す、○始めて学習院に於て倫理を講ず〔傍点朱筆〕、

十六日、菅公頌徳談、世に出づ、○高瀬武次郎来訪す、

十七日、清沢満之来賀す、○夜、石川教張（芝二本榎町日蓮宗大檀林生徒）来訪す、

十八日、佐々政一、松平直亮、長谷川誠也、有馬純臣、吉丸一昌、蟹江義丸来訪す、

十九日、「菅公頌徳談」を井上侃斎に送る、○吉田まき、西晋一郎、

大窪実、菊池俊諦、大塚保治、成田衡夫、三成慶太郎、石川教張、村上孝俊、布施知足来訪す、○「教育上に於ける党派心の弊害」教育公報に出づ、

二十日、「教育上の宗教道徳問題」仏教に出づ、○桑木厳翼、広瀬進一、吉丸一昌、野田義夫来訪す、○「余が宗教論に関する批評を読む」哲学雑誌に出づ、○高山林次郎、建部遯吾、桑木厳翼、姉崎正治文学博士となる、○「日本現今の新聞を評す」太平洋に出づ、

廿一日、吉田牧子、桑木厳翼来訪す、○修身調査会に赴く、

廿二日、黒板勝美来訪す、

廿三日、金沢庄三郎来訪す、

廿四日、「人格の価値」筆記の訂正を松平直亮に送る、○倫理教科書の奥附七千枚を金港堂に付与す、

廿五日、桑木厳翼、杉浦鋼太郎来訪す、○徂徠の学則を読む、○太平洋及び哲学雑誌を川端に、哲学雑誌を甘木に送る、

廿六日、熊谷五郎、坂井末雄、大窪実来訪す、○修養塾の講談会に錦輝館に赴き、「哲学者の進境及び一貫の精神」を演説す、○滴居童問を松平直亮の使者村上栄に渡す、

廿七日、飯田御世吉郎、石橋則隆来訪す、○「倫理と宗教との関係」東洋学芸雑誌に出づ、

廿八日、手島重三郎、吉田賢龍来訪す、

廿九日、谷中天王寺に赴く、

三十日、和田覚二、田中了恵、宮城坎一、建部遯吾、井上成美、中島力造、蟹江義丸、有尾守善、石橋則隆来訪す、○「中江藤樹の倫理思想」の訂正を松平直亮に送る、○敷田年治没す、年八十七、

卅一日、黒田邸内勧学所に赴く、○茨木清次郎来訪す、

二月

一日、正学指掌を読む、

二日、加藤孫平、宮城坎一、遠藤隆吉、野田義夫来訪す、○書状を嘉納治五郎及び狩野亨吉に送る、

三日、

四日、検定試験を行ふ、

五日、金沢庄三郎来訪す、

六日、小西重直来訪す、○弁道弁名を読む、

七日、高田早苗来訪す、

八日、金港堂の石川某来訪す、○佃与次郎、宮城坎一来訪す、○「社会教育策序」を高橋正熊に送る、○笹川婦人来訪す、

九日、斎藤木、河出静一郎、西崎憲英来訪す、○加藤玄智の結婚披露の宴に赴く、○滝沢馬琴の墓に謁す、

十日、田房政雄、菊池敏彦来訪す、

十一日、宮中に参賀す、○中尾教厳来訪す、○夜、佃与次郎をして談話を速記せしむ、

十二日、今泉六郎、金沢庄三郎、菊池敏彦来訪す、

十三日、雪ふる、○日英同盟成るの翌日なり、

十四日、境野哲、佃与次郎、八重野範三郎来訪す、

十五日、隈本有尚、蟹江義丸、宇野哲人来訪す、○中尾教厳結婚披露の宴に赴く、
十六日、上田敏、磯野貞子来訪す、○芝の承教寺（日蓮宗大檀林）に赴き、「人生の二方面」を演説す、大檀林長小林日董及び脇田尭惇と会見す、帰途辻新次還暦の祝賀会に水交社に赴く、
十七日、「文芸界の発行を祝す」を金港堂に送る、○中尾教厳来訪す、○夜、佃与次郎速記の為めに来る、
十八日、兵藤為三郎、平川泉吉、辻新次来訪す、
十九日、西川政憲、佐藤政治郎来訪す、○磯野貞子等数人を招燕す、
二十日、熊谷五郎来訪す、○巽軒講話集成る、○巽軒講話集奥附千五枚を博文館に付与す、
廿一日、勅語衍義の奥附二百五十枚を敬業社に付与す、○夜、佃与次郎、速記の為めに来たる、
廿二日、熊谷五郎、塚原政次、小西重直、堀謙徳等の洋行を送る、○慶応義塾レクチューア倶楽部に於て「人格の価値及び自我の発展」を演述す、了はりて宮森麻太郎と会見す、○井芹経平来訪す、○勅語衍義の奥附二百五十枚を敬業社に付与す、○修身調査会に赴く、
廿三日、辻新次を訪ふ、○高桑駒吉、大倉書店手代来訪す、○夜、丁酉倫理会に赴く、
廿四日、佐々木祐太郎来訪す、○本化別頭高祖伝を読む、
廿五日、橋本唯三郎、柏原文太郎、円藤鎮来訪す、
廿六日、
廿七日、長谷川福平来訪す、○磯野七平寄寓す、
廿八日、金田楢太郎来訪す、

三月

一日、本化高祖伝を読了す、○此日雷鳴あり、
二日、原久吉来訪す、○ゆにてりあん協会に赴き、「日本目下の宗教問題」を演述す、佐治実然、神田佐一郎、安部磯雄、黒岩周六等と会見す、帰途帝国教育会内国字改良会に赴き、意見を述ぶ、
三日、中島晋治、西崎憲英来訪す、
四日、中村勝麿、野田義夫来訪す、
五日、帝国教育会美術部に赴く、辻新次、正木直彦、大塚保治、渡辺龍聖、久保田鼎、高村光雲、岡倉秋水、福地又一、荒木真弓、湯本武比古、上田万年、藤井祐政、望月金風、執行弘道、高山甚太郎、杉原忠吉、関岩次郎来会す、
六日、
七日、加藤玄智、岡田正之、西ヶ谷可吉、田山某、鳥海秀子来訪す、
八日、田中喜一、中島徳蔵、猿渡末熊、深川清太郎、永廻藤一郎、松平直亮、渡辺幾治、戸川安宅、佐々木信綱、佐々木祐太郎来訪す、○夜、帝国文学会に赴く、尾崎紅葉と会見す、○巽軒講話集を博多川端及び海老那弾正に送る、
九日、蟹江義丸、宮本正貫、石橋愛太郎、西晋一郎来訪す、○川端玉章還暦の展覧会に赴き、尋いで学士会院に赴く、
十日、巽軒講話集を濱尾新、山川健次郎及び冨田春山、斎藤庸一郎に送る、○内田銀蔵、石川景蔵来たる、○「西洋美術の傾向」の

訂正を石橋愛太郎に送る、
十一日、中城直正来訪す、○「教育雑感」の訂正を金港堂に送る、
○勅語衍義の奥附千枚を林平次郎に付与す、
十二日、菅公事蹟成る、○エミリオ、ビンダ逝く、
十三日、支那公使館に赴く、
十四日、西川政憲来訪す、
十五日、蟹江義丸、田中昴、山本英範、津村慶雄来訪す、○菊池文相の招待により東京音楽学校に赴く、不在中高島平三郎、吉田寿三郎来訪す、○文芸界を博多川端に送る、
十六日、渡辺幾治、酒井真、蟹江義丸、釈快祐来訪す、○狩野友信の還暦の絵画展覧会に赴き、尋いで絵画共進会に赴く、○「人間の行為及び目的」を西川政憲に送る、
十七日、望月信亨、矢野仁一来訪す、
十八日、修身調査会に赴き、尋いで美術部会に赴く、
十九日、高橋完介来訪す、
二十日、斎藤基次郎、多胡貞三郎、西川政憲、瀧精一来訪す、○文部省より金百五拾円受取る、
廿一日、田中喜一、建部遯吾、萩野由之、岡田正之来訪す、○ヴントの倫理学及びロッツェの宗教哲学を読む、
廿二日、佐藤梅三郎、大倉書店手代来訪す、
廿三日、美術部会に赴く、○午后、武士時代会に華族会館に赴く、長岡護美、片岡兼吉、海老那弾正、外崎覚、松村介石、石川安次郎等と会見す、○北村沢吉来訪す、
廿四日、片山正雄、北村沢吉、蟹江義丸、三石賤夫来訪す、
廿五日、岡田正之、井上成美来訪す、○中洲老母に金弐拾円を送る、
○午后、文科大学懇親会に赴く、
廿六日、上田敏、蟹江義丸来訪す、○午后、菊池小村二氏授爵祝賀会に赴く、山田喜之助、三崎亀之助、樋山資之、団琢磨、巨智部忠承、横山又次郎、鈴木充美、坂谷芳郎、金井延、北尾次郎等と会見す、
廿七日、石川岩吉、森津倫雄、桑波田景堯、大倉書店手代来訪す、
廿八日、横田養一、伊藤六蔵、石橋則隆来訪す、○午后、教育会美術部に赴く、小山正太郎、小山作之助、望月金鳳等と会見す、
廿九日、北村沢吉、鍵谷徳三郎、法貴慶次郎、高橋正熊来訪す、○午后、丁酉倫理会に赴き、「道徳的理想に関する人格の観念」を講演す、田中喜一、高島平三郎等と会見す、
三十日、須藤求馬、木造高俊来訪す、○「余が宗教論に関する批評を読む」の続稿を吉田賢龍に送る、
三十一日、岩瀬三治、高桑駒吉来訪す、○川端玉章を訪ふ、

四月

一日、三井銀行に赴き、岩崎一と会見す、○哲学館卒業生一名来訪す、
二日、南茂樹、山本英範来訪す、
三日、「教育雑感」教育界に出づ、○書状を安永哲造、光平勘市等に送る、
四日、書状を中島吉郎、山本秀雄、河出静一郎、永山卯三郎、林釈蔵、石川定治に送る、○鳥海秀子、伊藤六蔵、小笠原実成、田中守、

大塚保治、柏原文太郎来訪す、
五日、金子銓太郎、佐々政一、大川茂雄、野田義夫、伊藤六蔵来訪す、○書状を桜井美に送る、○午后、美術部会に赴く、
六日、大川茂雄、伊藤三郎、岩瀬三治来訪す、○午后、女子文学会に鳥海女学校に赴き、「女子道徳」を演述す、井上頼国、木村正辞、依田百川等と会見す、○勅語衍義の奥附五百枚を敬業社に付与す、
七日、「菅公評論」教育時論に出づ、○高原操、西崎憲英来訪す、○伝通院に於て「偉人の感化」を演述す、
八日、曽根松太郎、光岡正影、小谷重、桜井房記来訪す、○弁名を読む、○夜、興学会に赴く、
九日、松本亦太郎、辻善之助、蟹江義丸来訪す、
十日、佐藤政治郎来訪す、
十一日、田房政雄、金沢庄三郎来訪す、国語調査委員会委員被仰付、
十二日、小山正太郎、松本亦太郎来訪す、○上野梅川楼に古典科出身者懇親会に赴く、
十三日、今泉誠至、阿部峰子来訪す、○礫川小学校三十年祝賀会に赴き、祝詞を述ぶ、○午后、竹柏会に赴き、「女子と文芸」を講演す、○鷲尾順敬来訪す、
十四日、蟹江義丸、山本英範、法貴慶次郎、桜井義肇来訪す、
十五日、西崎憲英、秋山悟庵、有馬祐政、坪井鹿次郎来訪す、○徂徠の太平策を読む、
十六日、渡辺千春、伊藤朝往来訪す、○午后、北尾大沢等の諸教授送迎会に植物園に赴く、
十七日、松井夫人、吉田熊次、土肥慶蔵来訪す、
十八日、無声会、太平洋画会、絵画展覧会等を見る、○菊池文相の招燕に精養軒に赴く、
十九日、小林一郎、磯辺武者五郎来訪す、○徂徠の答問書を読む、○建部遯吾結婚披露の宴に精養軒に赴く、○博物館を覧る、
二十日、島田蕃根、外崎覚、児玉実徳、冨田順吉来訪す、○「日本徳育の大方針」の訂正を熊本教育会に送る、○グリーンの倫理学を読む、
廿一日、川田繁太郎、丹羽瀧男、坪井鹿次郎来訪す、○不在中今泉一介来訪す、○午后、令久会に梅川楼に赴く、三浦梧楼、河瀬秀治、森清右衛門、浜田篤三郎、木山定生等と会見す、○「実行と理論」教育科講義に出づ、
廿二日、萩野由之来訪す、○高等学校長会議に赴く、○徂徠の政談及びグリーンの倫理学を読む、
廿三日、川田鉄弥、岩瀬三治来訪す、○グリーンの倫理学を読む、
廿四日、山本大善来訪す、○午后、国語調査会の開会に赴く、○「晩成の基礎」を光岡正影に送る、○グリーンの倫理学を読む、
廿五日、豊原清作、時田夫人来訪す、○三井銀行に赴き、川口藤吉と面晤し、尋いで黒田邸に赴き、勧学所に講演す、○ニーチェのAlso sprach Zarathustraを読む、
廿六日、増子喜一郎来訪す、○ニーチェのAlso sprach Zarathustraを読む、○国語調査会に赴く、

廿七日、乃木希典、吉田庫三、村上俊江、広井辰太郎、笹倉新治、笹川種郎、遠藤隆吉、羽鳥又次郎、手塚光貫来訪す、○午后、丁酉倫理会に赴く、

廿八日、三井銀行に赴き、地所売買の契約をなす、

宅地百七拾八坪七合八勺
私道敷拾三坪○六勺
崖地三拾六坪壱合六勺
合地坪弐百弐拾八坪
此代金弐千弐百九拾参円○弐銭
市街宅地租　〃八六
仝　付加税　〃八〇

此日、国語漢文教員養成所の授業を創む、

廿九日、望月信亨、瀧村斐男、中村寅松来訪す、

三十日、草村松雄、新海竹太郎、高木亥三郎、渡辺英一来訪す、

五月

一日、辻新次に上野精養軒に招燕せらる、大隈重信、黒田長成、菊池大麓、濱尾新、三宅秀、肝付兼行、金山尚志、福島少将等と会見す、

二日、青木兼雄、中島晋治、木田吉勝、小林恵祐来訪す、○国語調査会に赴く、

三日、岡田正之、小林恵祐、八重野範三郎、藤本勝太郎、矢野太郎来訪す、○勅語衍義奥附千枚を林平次郎に付与す、○「教育憤慨録」の訂正を佐藤政次郎に送る、

四日、Cl.E.Maitre, Professeur Agrégé de L'Université, Membee de l'Ecole Francaise d'Extrême Orient 五島陸三郎、蟹江義丸、秋山悟庵、遠藤隆吉来訪す、○午后、漢学科学生の予餞会に赴く、

五日、「社会に於ける神社の地位」を中島晋治に送る、

六日、「偉人の感化」を高等学院に、倫理彙編第七冊の序説を育成会に送る、○夜、興学会に赴く、

七日、住田昇、平川泉吉、斎藤基次郎来訪す、

八日、乃木希典来訪す、○「女子と文芸」こゝろの花第五巻の第五号に出づ、

九日、原秀四郎、柳沼弥衛門、清水金右衛門（文明堂）、神田喜代太朗来訪す、○午后、国語調査会に赴く、

十日、山本大善来訪す、○「徳育小言」を育成会に送る、哲学科第三年生の予餞会に赴く、

十一日、成田衡夫、鷲尾順敬来訪す、○美術界大懇親会に赴き、尋いで学士会院に赴く、

十二日、大沢天仙来訪す、

十三日、野辺保蔵、中城直正来訪す、○午后、修身調査会に赴く、

十四日、中村善太郎来訪す、

十五日、吉田賢龍来訪す、○書を宇野哲人に送る、

十六日、「社会に於ける神社の地位」神社協会雑誌に出づ、

十七日、長谷川福平、小幡儼太郎、樋口秀雄、野田義夫来訪す、○「晩成の基礎」書生新聞に出づ、

十八日、西晋一郎、秋山悟庵、宮川大寿来訪す、○午后、史学科第

三年生の予餞会に赴く、
十九日、松永武雄、中城直正、大橋次郎来訪す、○「教育憤慨録」実験教授指針に出づ、
二十日、山本秀雄、蟹江義丸来訪す、○午后、修身調査会に赴く、
廿一日、「青年の理想」を金港堂に送る、
廿二日、午前六時新橋出発、社中ベルツ氏の日本人種論を読む、蘭人A.W.Masselmansと談話す、午后四時半頃名護屋に着し、名護屋ホテルに投じ、市街を観る、
廿三日、午前八時五十分、名護屋を出発し、車中太田政徳（愛知県第二師範学校長）大田義弼（仝第一師範学校長）H.Perrin（missionnaire apostolique）と会見す、午后四時五十四分神戸に着し、西村に投ず、○夜、七時、辻新次、嘉納治五郎、肝付兼行、と共に船に駕して通宵談話す、大久保大分県知事と会見す、
廿四日、午前一時高松に着す、八重範三郎来たり迎ふ、乃ち可祝に投ず、黒木安雄の案内により琴平神社に詣り、尋いで善通寺に至り、宝物を観て帰り、公園地に赴く、
廿五日、午前、「理想と進歩」を演説す、来聴者大約四千人、（或は云ふ五千人）午后、博物館を観、尋いで園遊会に赴く、
廿六日、屋島に赴き、屋島寺を訪ひ、尋いで志度町志度寺に抵り、宝物を観、転じて平賀源内の旧宅を尋ね、又松岡氏を訪ひ、弘法伝教の真筆を観る、○夜、九時頃出発、
廿七日、午前四時頃神戸に着し、西村に投じ、六時肝付兼行と共に出発、車中菊池武夫、望月小太郎二氏と会見す、○午后、十一時半家に帰る、○此行や会見するもの、小野田元熙（香川県知事）、八重野範三郎（香川県視学官）、黒木安雄、石井四郎八郎、岡田辰次郎（香川県視学）、黒河内良（香川県警部長）、福家梅太郎、前橋孝義、沼沢七郎（香川県参事官）、渡辺英司（屋島保勝会事務長）、神矢粛一、橋本唯三郎、有森新吉、正木直太郎（香川県師範学校長）、河野通章（香川県立高松中学校長）、長尾時春、亀井義弘、岡内清太、野田一、近藤九一郎、渡辺千治郎、松崎次郎（郡長）、神本国臣（金比羅宮主典）、天羽兵二、加藤伝吉、嘉納徳三郎、池田守吉等、
廿八日、鷲尾順敬、野田義夫、大倉書店手代来訪す、
廿九日、小野隆助、田中種光、金沢庄三郎、小林一郎、冨田順吉来訪す、○勅語衍義の奥附五百枚を敬業社に付与す、
三十日、国語調査会に赴く、○沢野祖天、秋山悟庵来訪す、○此日三井銀行に赴き、地所の代金二千二百九十三円二銭を払込み了はる、
卅一日、磯野貞子及び七平来訪す、○地所売買の登記結了す、○「徳育小言」教育実験界に出で、「裸体画論」日本美術に出づ、

六月

一日、五島陸三郎、高瀬武次郎、長谷川福平、中野礼四郎、大村恕三郎、内田旭、斎藤木、原秀四郎来訪す、
二日、北条時敬、岩瀬三治、真崎誠来訪す、○書を内田銀蔵に送る、
三日、子女の誕生を考定するに、雪子は明治十五年六月十一日、スガ子は明治廿五年九月廿九日、宣光は明治廿八年二月八日、春枝

は明治三十一年二月十二日、正勝は明治三十三年八月廿四日生まる、○春日仲淵、大倉書店手代来訪す、
四日、美術大懇親会に於ける演説筆記の訂正を帝国教育会に送る、○松永武雄、内田銀蔵、赤堀又次郎来訪す、○此日、雪子、吉田熊次と植物園に会見す、○スガ子上野教育品展覧会に至る、
五日、書を高山林次郎に送る、○五島陸三郎来訪す、
六日、小林一郎来訪す、○キヨベル フローレンツ リースと会見す、○国語調査会に赴き、尋いで興学会に赴く、
七日、日本倫理彙編（古学派上）一巻を徳冨猪一郎に送る、○菅家伝の謄本を小野隆助に送る、○手塚光貴、笹倉新治来訪す、
八日、瀬川秀雄、岩本武知、鳥海秀子、正木直太郎、酒井真、深田康算、フローレンツ来訪す、○午后、東京学士会院に於て「再び倫理と宗教とに就いて」を講演す、
九日、小野隆助、工藤茂三郎、鷹田其石、大塚保治来訪す、○太宰春台の聖学問答を読む、
十日、野田義夫来訪す、
十一日、国分直紀来訪す、○画工山名貫義逝く、○空気を流動体となす試験を見る、○金沢庄三郎文学博士となる、
十二日、金沢庄三郎、秋山悟庵、鷲尾順敬来訪す、
十三日、学習院に赴き、生徒と同じく撮影す、○青年会館に赴き、「良心と理想」を演説す、○福島四郎来訪す、○太宰春台の弁道書を読む、
十四日、長谷川誠也、春日仲淵、吉田宇之助、長谷川篤、尾上八郎来訪す、○雪子清子二人を拉して上野に赴き、絵画展覧会を見る、
十五日、蟹江義丸来訪す、○「理想と進歩」を同文館に「女子と文芸」を佐々木信綱に送る、○縫子雪子の二人明治音楽会に赴く、
十六日、哲学の試験をなす、○吉田まき子来訪す、○「女子自然の任務」筆記の一部分を福島四郎に送る、
十七日、「支那文明の欠陥」を徳冨猪一郎に送る、○横矢重道、浅野陽吉来訪す、
十八日、「美術界大懇親会の演説」教育公報に出づ、○倉部信成、小谷重来訪す、
十九日、「東洋哲学」の試験をなす、○原龍豊、野田義夫来訪す、
二十日、国語調査会に赴く、○秋山悟庵来訪す、
廿一日、広江万次郎、阿部荘二、元浪冨平、大倉書店手代、蟹江義丸、渡辺幾治来訪す、
廿二日、坂本健一、尾田信直、酒井真、大橋春崖、川上孤山来訪す、○「日本古学派の哲学」の原稿を酒井真に付与す、○八重野範三郎、外崎覚に書状を送る、○「海の日本」を川端に送る、○「支那文明の欠陥」国民新聞に出づ、
廿三日、松永武雄、北村沢吉来訪す、○「女子自然の任務」婦女新聞に出づ、
廿四日、巽軒講話集の奥附七百枚を博文館に付与す、○内藤恥叟を訪ふ、○呉汝綸来朝す、汝綸、字は摯、甫、安徽省桐城県の人、
廿五日、雪子と吉田熊次と結婚の約成り、此結納を成す、○箕作元八、箭内亘、藤岡継平、中村寅松来訪す、○此日、皇孫誕生せらる、

廿六日、小笠原実成来訪す、○倫理教科書上巻の奥附五百枚を金港堂に付与す、
廿七日、国語調査会に赴き、尋いで斯文学会に赴く、○「日本古学派之哲学」の校正初めて来る、
廿八日、谷干城、福島四郎、吉田賢龍等に書状を送る、
廿九日、宇野哲人、田中唯一郎、経元善（号一蓮山）来訪す、○夜、石橋則隆来訪す、
三十日、井上健児、仝成美、吉富某、野田義夫来訪す、

七月

一日、西川政憲来訪す、○此日皇孫を雍仁（ヤスヒト）と命ぜられ、淳宮（アツノミヤ）と称せらる、
二日、杉浦重剛、鷲尾順敬、野田義夫来訪す、
三日、点数会議をなし、午前に結了す、○夜、植物園に赴き、ベルツリース ヤンソン三氏の送別会に莅む、
五日、松崎豊一郎、佐々木菊若、小山東助来訪す、○「晩成の基礎」中学文芸に出づ、○「理想と進歩」教育学術界臨時増刊に出づ、○中島力造、蟹江義丸二氏と検定試験問題を定む、
六日、池田護彦、古川義夫、大川茂雄、葉山万次郎、横矢重道来訪す、
七日、大沢天仙、栗原基、佐々木菊若、北村教厳来訪す、○夜、文科大学懇親会に赴く、○樫村清徳逝く、
八日、勝木奇熊、小笠原実成来訪す、○午后、修身調査会に赴き、尋いで興学会に赴く、
九日、黒木安雄、勝木奇熊来訪す、○午后、西晋一郎の送別会に精養軒に赴く、
十日、小林一郎、磯江潤来訪す、○夜、菊池文相の招燕に官邸に赴く、ベルツリース ヤンソン諸氏と会見す、
十一日、井上成美、鈴木暢幸、塩谷時敏来訪す、○此日、大学卒業式あり、卒業生四百五十一人、文科六十七人、優等生三人、
十二日、紀平正美、塩谷温、境野哲、鈴木暢幸、浅井虎夫来訪す、○山川健次郎を訪ふ、○此日、沢柳政太郎、三上参次二氏出発、独逸に赴く、
十三日、星野恒、酒井真、春日重泰、深田藤治来訪す、○大田実、加藤秀一に書状を送る、○「清韓二国に於ける教育の弊害及び其改革の方針」経済叢書に出づ、
十四日、新島源介、片山正雄、杉原忠吉、石川栄司、松永武雄、佐々政一、高梨悌三来訪す、○午后、呉汝綸及び鎮国将軍毓朗の歓迎会に華族会館に赴く、近衛篤麿、三浦安、辻新次、伊沢修二、松井茂、松波仁一郎、高田早苗、山川健次郎等と会見す、
十五日、坂本健一、深作安文、清水彦五郎来訪す、
十六日、池田菊苗、根井久吾、鈴木暢幸、沢辺復正来訪す、○午后黒田邸に赴く、
十七日、境野哲来訪す、○野田義夫、井上俊雄、冨田まさきを招燕す、○大槻文彦及び冨田春山に書状を送る、○侯爵西郷従道薨す、
十八日、芝葛盛、酒井真来訪す、
十九日、上松又男来訪す、○書状を嘉納治五郎に送る、
二十日、納谷直次郎、青木儀太郎、遠藤隆吉、白仁三郎、林端、金

子幹太、阿部伝、吉田熊次、中島徳蔵、伊沢修二来訪す、○貝原益軒の慎思録を読む、
廿一日、岡野義三郎来訪す、○独逸公使Graf Alco-Valleyの招燕に独逸公使館に赴く、ベルツ スクリッバ キヨーベル リース ヤンソン レオヴ レーマン等と会見す、
廿二日、田中義成、増田乙四郎、秋山悟庵、小谷重、小林一郎、小林郁、大倉書店手代来訪す、
廿三日、長谷川誠也来訪す、
廿四日、桑木厳翼、高橋格、冨田順吉来訪す、
廿五日、清水彦五郎、香月梅外、竹村規矩夫来訪す、
廿六日、高津鍬三郎、秋月胤継、黒田茂次郎、友枝高彦、村上龍英、中島徳蔵来訪す、
廿七日、村川堅固、満田新造、西晋一郎、朝井正親、光岡正彰来訪す、○「ラ、ルビュー」の哲学雑誌批評を読む」を遠藤隆吉に送る、
廿八日、佐々木嘉哉、野田義夫、小林義則来訪す、○冨田順吉及び吉田熊次を招燕す、
廿九日、高橋格、岩城準太郎、桜井虎太郎来訪す、
三十日、重野安繹、小杉熙、田中義夫、笹川種郎、深田康算来訪す、○高等学校に赴く、
卅一日、小林一郎、高橋格、姉山清、深田康算、八木光貫来訪す、○書状を高賀詵三郎、池田夏苗、大塚保治、吉村寅太郎に送る、

八月

一日、笹倉新治、矢野仁一、川口申雄、猿渡末熊、野田義夫、大島義脩、高橋格、小林義則来訪す、
二日、高橋格来訪す、○午前九時二十五分上野を出発し、北海道に向ふ、納谷直次郎同行す、
三日、午前八時頃青森鍵屋に着す、○仝十時陸奥丸に駕して出発す、
四日、午前四時頃、室蘭蛯子（エビ）（丸一）に着し、吉田元利（札幌創成高等小学校長）斎藤親広（北海道庁支庁長）下村武光と会見す、午前七時、吉田元利と同車出発す、午后二時、札幌に着す、大窪実、鈴木源二郎、尾原亮太郎、安達常正（師範学校長）、鈴木又衛、小林到（高等女学校長）来訪す、○夜、尾原亮太郎再び来る、
五日、午前十時、講習会を創成小学校内に開く、講習員凡そ三百余人、○武田三重郎来訪す、
六日、午后、遊園地に至る、○夜、榎本半重（視学）来訪す、○電報を五島陸三郎に送る、
七日、佐藤昌介、川田繁太郎来訪す、○書状を酒井真に送る、
八日、大窪実と共に小樽港に赴く、古代文字及び築港事業を見、尋いで公園地に遊ぶ、
九日、早天小樽港より帰る、○講習会の講義を結了す、○午后、農学校及び中学校を見、尋いで豊平館に赴く、大窪実、佐藤昌介、安達常正、尾原亮太郎来会す、○和田綱紀、尾原亮太郎、佐藤昌介来訪す、○此日、英国戴冠式あり、
十日、大窪実、小林到、吉田元利来訪す、○午前、吉田元利と共に製麻会社及び麦酒会社を見る、○堀江淳太郎（製麻会社）、植村澄三郎（麦酒会社）、平野他喜松（札幌農学校教授）、渡辺水哉（陸

軍歩兵中佐)、米津逸三(仝歩兵少佐)と会見す、○午后、教育会に於て「日本国民の天職を論じ、併せて北海道の将来に及ぶ」を演述す、○夜、豊平館に招燕せらる、○「ラ、ルビュー」の哲学雑誌批評を読むの文、哲学雑誌に出づ、

十一日、午前八時五十分出発、室蘭に向ふ、吉田元利送り来る、車中堀基と会見す、○午后四時半、室蘭に着し、小学校内に於て「北海道に於ける教育家の任務」を演述す、○午后十時、尾張丸に駕して出発す、吉田元利及び小林董吉送り来る、○和田綱紀七絶一首を贈る、云く、

学元是劣敗優勝、理想東洋多友朋、傾耳先生民族説、国民誰得不振興、

十二日、午后四時青森に着し、仝七時出発す、

十三日、午后六時、家に帰る、車中軍人村木某に逢ふ、

十四日、小林義則、高橋正熊、金沢庄三郎、佐々木哲哉、斎藤木、北村沢吉、五島陸三郎、佐伯俊二、西河龍治来訪す、

十五日、北郷二郎、堀竹雄、北里闌(タケシ)来訪す、

十六日、小花貞三、冨尾木知佳、北郷二郎、服部宇之吉、高梨悌三、増田乙四郎来訪す、

十七日、春日仲淵、東敬治、高梨悌三、鷲尾順敬来訪す、

十八日、北郷二郎、大島義脩来訪す、○大窪実に電報を送る、○西村茂樹逝く、享年七十五、

辞世

生固常事、死亦常事、以常身自処常事、晴空無雲、潭水無波、

又

逍遥人間七十五年、孜々求道、聊有得焉、魂也何之、無有定所、上天下地、自在闊歩、

十九日、鷲尾順敬、岩間岩太郎来訪す、○書状を大窪実、佐藤昌介、吉田元利に送る、

二十日、内田銀蔵、吉田賢龍、小林義直来訪す、○「日本古学派之哲学序」を秀英舎に送る、

廿一日、「孔子之学説序」を育成会に送る、○酒井真来訪す、○山口志げ去りて岩間氏に赴く、

廿二日、森山章之丞、村上俊蔵来訪す、

廿三日、小林義直、小野寺晤明、加瀬駒太郎来訪す、

廿四日、内田貢、堀竹雄、長沢市蔵、井上左太郎来訪す、

廿五日、高津鍬三郎、荒浪市平、日向治之助来訪す、

廿六日、佐々木菊若、内田貢来訪す、

廿七日、小林一郎、野田義夫来訪す、

廿八日、芳賀矢一、古渓俊雄来訪す、

廿九日、古渓俊雄、加納恒三郎、金子幹太、五島陸三郎、文学社手代、田中瑞穂来訪す、

三十日、新田覚二、小林一郎、野田義夫、円藤鎮来訪す、○服部宇之吉支那に赴く、

卅一日、酒井真来訪す、乃ち「倫理と宗教との関係」草稿を付与す、○「日本陽明学派之哲学」奥附二百枚を冨山房に付与す、○村上俊蔵来訪す、

九月

一日、三井誠之進、羽鳥又次郎、吉田熊次、十時弥来訪す、○書状を山川健次郎、石川栄司に送る、○清国皇族（貝子）載振来朝す、
二日、文明堂囚人来訪す、
三日、加藤玄智、吉川貞次郎、坂井末雄、有馬純臣来訪す、
四日、藤岡作太郎、恒吉雄七、小笠原実成、笹倉新治来訪す、
五日、須藤求馬、小林一郎、中島万次郎、片野猛雄来訪す、○フヒルヒョー逝く、
六日、杉浦剛太郎、酒井真、蠣瀬彦蔵、鳥海秀子来訪す、
七日、市村瓚次郎、宇野哲人来訪す、
八日、阿部荘二、沢野祖天、阿部伝来訪す、○長与専斎逝く、
九日、呉汝綸、小村俊三郎、新保徳寿、古川義夫来訪す、
十日、松本愛重、桑原騭蔵、文明堂主人、森強吉、滋賀貞、新田覚二、大島義脩、島田蕃根来訪す、○釈迦牟尼伝の草稿を文明堂主人に付与す、○グリーン氏の倫理学を読む、
十一日、佐々木哲哉、村上専精、小野藤太、勝木奇熊、本多辰次郎、秋山悟庵、吉田牧子来訪す、
十二日、Emile Heck、塩谷温、秋月胤継、鷹野勇雄、大塚保治、友枝高彦、藤木某来訪す、
十三日、土肥慶蔵、豊原清作来訪す、
十四日、坪井九馬三、小林郁、小川廉三郎、亀谷馨、斎藤木、渡辺龍聖、深作安文、蟹江義丸来訪す、
十五日、平沢均治来訪す、○「教育雑感」教育時論に出づ、
十六日、古渓俊雄来訪す、
十七日、瀧精一、小谷重、上松又男来訪す、
十八日、「日本古学派之哲学」成る、○井上成美来訪す、
十九日、鷹田其石、小林一郎来訪す、○「日本古学派之哲学」を山川健次郎に送る、○正岡子規逝く、
二十日、小川廉三郎、西河龍治、岡部為吉来訪す、
廿一日、茅原廉太郎、春日仲淵、松平直亮、鈴木暢幸、児玉成夫来訪す、○「日本古学派之哲学」を杉浦重剛、星野恒、濱尾新、デニング、徳冨猪一郎、松平直亮、吉田熊次に贈与す、○「聖者馬鳴」序を亀谷馨に送る、○「日本古学派之哲学」広告出づ、
廿二日、「日本古学派之哲学」を上田万年、坪井久馬三、中島力造、元良勇次郎に贈与す、
廿三日、「再び倫理と宗教に就きて」の原稿を訂正す、
廿四日、北里闌、荒浪市平、内田魯庵来訪す、
廿五日、小谷重来訪す、○「国体と理想との関係」の訂正を同文館に送る、
廿六日、「倫理と宗教」東洋学芸雑誌に出づ、
廿七日、沢野祖天、蟹江義丸来訪す、
廿八日、暴風雨、○蟹江義丸、中村勝麿来訪す、
廿九日、石橋則隆来訪す、○「釈迦牟尼伝」の校正始めて来る、
三十日、「日本古学派之哲学」を陸実、坪内雄蔵、亀谷馨、内田貢、外崎覚、戸川安宅、佐々木信綱、加藤弘之、磯部弥一郎に送る、○小谷重、磯野七平来訪す、

十月

一日、堀竹雄来訪す、
二日、冨尾木知佳、上松又男来訪す、
三日、「日本古学派之哲学」を穂積陳重、穂積八束、宮崎道三郎、梅謙次郎に送る、○国語調査会に赴く、
四日、「日本古学派之哲学」を古城貞吉に送る、○藤野三郎来訪す、○後藤牧太二十五年在職の祝賀会に植物園に赴く、
五日、佐倉孫三、沢野祖天、境野哲、坂本健一、津村善之丞、笹原卯一郎来訪す、
六日、「倫理と宗教との関係」成る、○「倫理と宗教との関係」を穂積陳重、仝八束、中島力造、元良勇次郎、山川健次郎、加藤弘之、徳冨猪一郎、甫森謹吾、田口卯吉、デニング諸氏に送る、○劉坤一逝く、
七日、「倫理と宗教との関係」を濱尾新に送る、○石川岩吉、荒浪市平来る、○「教育雑感」の訂正を開発社に送る、○横井時雄来訪す、
八日、大原京蔵来訪す、○「国民教育と宗教教育」の訂正を中島益吉に送る、
九日、山本和吉、須田直太郎来訪す、
十日、「倫理と宗教との関係」広告出づ、○「倫理と宗教との関係」を白河次郎、海老名弾正に送る、○山本和吉来訪す、○「青年将来の希望」中学世界に出づ、
十一日、大橋次郎、エック、ボエフ来訪す、○横井時雄の送別会に冨士見に赴く、田口卯吉、三好退蔵、尾崎行雄、島田三郎、成瀬仁蔵、小崎弘道、徳冨猪一郎、松村介石、戸川安宅、麻生正蔵等と会見す、
十二日、高橋龍雄、中村久弘、西河龍治来訪す、○午后、学士会に赴く、
十三日、原勝郎、内田銀蔵来訪す、
十四日、小林義則、瀬川秀雄来訪す、
十五日、「倫理と宗教の関係」を甘木川端及び磯部弥一郎、佐治実然、岡野義三郎に送る、勅語衍義の奥附五百枚を敬業社に付与す、
十六日、須田直太郎、石橋政二来訪す、
十七日、建部遯吾、山本秀雄来訪す、
十八日、「倫理と宗教との関係」を黒田長成、金子堅太郎、高島平三郎、嘉納治五郎、斎藤庸一郎、遠藤隆吉に送る、○学生三宅某、鷲尾順敬来訪す、
十九日、遠藤隆吉、蟹江義丸、阿部荘二、石川岩吉来訪す、○午后東京市教育会の為めに帝国教育会に於て「良心の話」として演説す、山田久作、岸豊寿郎等と会見す、○早稲田大学開校式を挙行す、○「日本古学派之哲学」の奥附三百枚を冨山房に付与す、
二十日、小谷重、原平吉来訪す、○倫理教科書上巻之奥附五百枚、下巻之奥附一千枚を金港堂に付与す、○松永武雄の妻来訪す、
廿一日、新井田次郎来訪す、
廿二日、増田乙四郎来訪す、
廿三日、津村慶雄、蟹江義丸、森田実、上田敏、須田直太郎来訪す、

廿四日、原平吉、冨田順吉、野田静雄来訪す、
廿五日、酒井真、野田義夫、友枝高彦来訪す、○夜、野田義夫の結婚に万金に赴く、石幡貞に会見す、○「教育雑感」教育時論に出づ、
廿六日、奈知安五郎、外崎覚、高橋作衛、笹川夫人、松永武雄、坂根栄吉来訪す、○塩谷温結婚披露の宴に上野精養軒に赴く、
廿七日、勅語衍義の奥附五百枚を敬業社に付与す、○松永武雄、上村貞子、笹川夫人来訪す、○「日本古学派之哲学」を近衛篤麿、黒田長成、金子堅太郎、井上侃斎、冨田春山に、「倫理と宗教との関係」を近衛篤麿、笹倉新治、境野哲に送る、
廿八日、石川岩吉、野田義夫来訪す、
廿九日、石川岩吉、高橋格来訪す、○「寄読売新聞書」読売新聞に出づ、○速記の訂正を東京市教育会に送る、
三十日、小野藤太、小塚斉、岡本宣美、Jacob Jouséfovitch来訪す、○夜、フローレンツに招燕せらる、
卅一日、酒井真、中島徳蔵来訪す、○Jacob Jouséfovitchと大学に会見す、○書状を松村正一に送る、

十一月

一日、吉田熊次、文明堂主人来訪す、
二日、市村瓚次郎、川田繁太郎来訪す、○「天心遺稿序」を高橋作衛に送る、
三日、「釈迦牟尼伝序」を三秀舎に、「新独和辞典序」を大倉書店に送る、○宮中に参賀す、○夜、「実践倫理学講義」第一回の訂正を北海道教育会に送る、〔頁下部に新聞記事切抜貼付。「皇室の栄え」〕
四日、山高文周来訪す、
五日、酒井真、原平吉来訪す、
六日、元良夫人、松永武雄、吉田静致、高橋亨来訪す、○「教育雑感」教育時論に出づ、
七日、雪子嫁入の荷物を吉田熊次宅へ送る、○伊沢夫人来訪す、○笹川義潔、石川巌逝く、
八日、熊次雪子の結婚式を挙行す、○蟹江義丸、石川松渓来訪す、
九日、井上円了、松平円次郎、清水金右衛門来訪す、○「日本古学派之哲学」の奥附二百枚を冨山房に渡す、○午后、学士会院に赴く、○荒浪市平をして速記せしむ、
十日、小塚斉をして速記せしむ、○吉田夫婦新婚旅行を企て日光に赴く、
十一日、冨尾木春子来訪す、○縫子をして元良、笹川、松永三氏を訪はしむ、○夜、「再寄読売新聞書」を日就社に送る、
十二日、「倫理と宗教との関係」を北海道教育会及び尾原亮太郎に送る、○嘉納治五郎、尾上八郎来訪す、○「日本陽明学派之哲学」の奥附九十八枚を冨山房に付与す、○「青年の良心に対する用意」を博文館に「初等教員に対する希望」を金港堂に送る、
十三日、小林一郎来訪す、
十四日、吉田夫婦来訪す、○国語調査会に赴く、
十五日、検定試験を行ふ、○「再寄読売新聞書」出づ、

十六日、遠藤隆吉、勝田吉次郎、中島徳蔵来訪す、
十七日、「日本古学派之哲学」を白河次郎、斎藤庸一郎に送る、○大橋次郎来訪す、○午后、文部大臣官邸に赴く、
十八日、「釈迦牟尼伝」の奥附千枚を文明堂に付与す、
十九日、「釈迦牟尼伝」の広告出づ、
二十日、「釈迦牟尼伝」成る、
廿一日、佐々木信綱来訪す、
廿二日、「釈迦牟尼伝」を徳冨猪一郎及び亀谷馨に送る、○海老那弾正、白井幸三郎来訪す、○東京女子美術学校に赴き、祝辞を述ぶ、
廿三日、高橋龍雄、手塚光貴、大島義脩、岩瀬三治、鷹田其石来訪す、
廿四日、高等教育会議に赴く、
廿五日、高橋格、磯江潤来訪す、○高等教育会議に赴く、
廿六日、長谷川誠也、石田弘吉、高橋龍雄来訪す、○高等教育会議に赴く、
廿七日、「釈迦牟尼伝」を山川健次郎、高嶺秀夫、伊沢修二、森林太郎、黒田長成、金子堅太郎、横山又次郎、陸実、白河次郎、岡田良平及び博多、甘木、宰府に送る、○夜、岡倉覚三慰労会に上野精養軒に赴く、○吉田熊次来訪す、○川崎千虎逝く、
廿八日、「釈迦牟尼伝」を横井時雄、長谷川誠也、片山国嘉、吉田熊次、田口卯吉、上田万年に送る、○菊池文相の招燕に帝国ホテルに赴く、○夜、本郷会堂に於て「我邦の徳教に就いて所感を述ぶ」を演説す、
廿九日、「釈迦牟尼伝」を近衛篤麿、土肥慶蔵、小藤文次郎、内田貢、福地源一郎、箕作佳吉に送り、「釈迦牟尼伝」及び「日本古学派之哲学」を戸水寛人に送る、○高等教育会議に赴く、
三十日、小林壮蔵、豊島毅来訪す、

十二月

一日、「文学者の修養」の訂正を佐々木信綱に、「良心の話」の訂正を東京市教育会に送る、
二日、土屋禎二、松井等来訪す、○高等教育会議了る、
三日、「日本古学派之哲学」を福地源一郎に送り、東京女子美術学校に於ける演説筆記の訂正を金港堂に送る、○佐伯利麿、佃与次郎来訪す、
四日、吉丸一昌来訪す、
五日、「日本古学派之哲学」の奥附二百枚を冨山房に付与す、○「宗教革新の前途」太陽に出づ、○国語調査会に赴く、○広井辰太郎、円藤鎮来訪す、
六日、「良心の話」の訂正を東京市教育会に「予が好める人物」を博文館に送る、○「徳育に就いての所感」教育時論に出づ、○内ヶ崎作三郎来訪す、○片岡謙吉衆議院議長となり、元田肇副議長となる、
七日、蟹江義丸、内田周平、本城貫、丹後直平、秋山悟庵、豊原清作来訪す、○吉田熊次結婚披露の宴を開く、
八日、古城貞吉来訪す、
九日、帝国議会開院式を行ふ、○「倫理と宗教との関係」の奥附

三百枚を冨山房に付与す、○修身調査会に赴く、
十日、鷹田其石来訪す、
十一日、「真美の鑑序」を鷹田其石に送る、○古賀毅、名児耶六都、豊原清作、荒浪市平来訪す、
十二日、新保巽、佃与次郎来訪す、○国語調査会に赴く、
十三日、三上参次、市村瓚次郎、石川岩吉来訪す、
十四日、村上龍英、田中萃一郎、清水金右衛門来訪す、○「釈迦牟尼伝」をデニングに送る、○金拾五円を博多中洲に送る、○学士会院に赴く、
十五日、「所懐を述ぶ」を新人社に付与す、
十六日、「維新以後之哲学書類」を同文館に、「画題の選択に就いて」を尾上八郎に、「実践倫理学講義」第二回分を北海教育会に送る、○「釈迦牟尼伝」の奥附五百枚を文明堂に付与す、○鷹田其石来訪す、
十七日、内ヶ崎作三郎来訪す、
十八日、島地黙雷、織田得能来訪す、
十九日、「巽軒博士宗教論批評集」出づ、○「教育上に於ける個人主義」の訂正を開発社に送る、○鳥海秀子来訪す、○国語調査会に赴く、
二十日、辰井梅吉、間端吾、冨田順吉来訪す、○書状を織田得能、古川勝隆、安達常正に送る、○冨田千代、間端吾の結婚式を魚十に挙ぐ、
廿一日、「我邦今後の文学に対する希望」を日報社に送る、○「釈迦牟尼伝」の再版成る、○内田銀蔵、金沢庄三郎、島地雷夢、冨田順吉、間夫婦来訪す、○「倫理と宗教との関係」の奥附三百枚を冨山房に付与す、○大坂市歌を閲了す、
廿二日、市村瓚次郎、蟹江義丸来訪す、○修身調査会に赴く、
廿三日、修身調査会に赴き、尋いで文科大学懇親会に赴く、
廿四日、建部遯吾、宇野哲人、朝井正親、斎藤木来訪す、○高山林次郎逝く、
廿五日、島地黙雷、野田義夫来訪す、○夜、吉田夫婦を招燕す、
廿六日、市村瓚次郎、冨尾木知佳来訪す、○黒田邸に赴く、○夜、辰井梅吉来訪す、
廿七日、納谷直次郎、井上健児、斎藤基次郎来訪す、
廿八日、衆議院解散となり、貴族院停会となる、○敬業社及び哲学書院に書状を送る、○井上成美、吉田熊次来訪す、
廿九日、平川泉吉、村上直次郎来訪す、
三十日、中島徳蔵、藤代禎輔、小笠原実成来訪す、
三十一日、清水金右衛門来訪す、○山川健次郎を訪ひ、尋いで菊池文相を訪ふ、

明治三十六年（西暦一九〇三）

一月

一日、宮中に拝賀に赴く、○井上成美、佐村八郎、吉田熊次、井上俊雄、仝精一来訪す、○面会せざる来賀者凡そ一百六十人、

二日、佐々木信綱、尾原亮太郎来訪す、

三日、松平直亮来訪す、○「教育上に於ける個人主義」教育時論に出で、「文学者の修養」心の花に出づ、

四日、藤代禎輔来訪す、○加藤弘之、菊池大麓、黒田長成諸氏に年賀に赴く、

五日、新年宴会に宮中に赴く、近衛公爵、黒田侯爵、林権助、石黒忠悳、重野安繹等と会見す、○井上成美来訪す、

六日、長谷川福平、境野哲、高橋格、蟹江義丸、浦谷熊吉来訪す、○実践倫理学講義の第四回分を北海道教育会に送る、

七日、伊沢夫人千世子及び曹洞宗青年会代表者来訪す、○井上俊雄、精一、勃爾来る、○一日より此日迄の来賀の統計を挙げんに、

端書……四七〇

封書……六七

名刺封書…六三

名刺……二七八

合計　八七六（其後の来賀状五十七　合計九百三十三）

八日、「東語易解序」を伊沢修二に送る、○書状を三上参次、小杉熙、広田一乗等に送る、○倫理教科書（上巻）の奥附千枚、中等修身書の奥附四百枚を金港堂に付与す、

九日、亀谷馨、高瀬武次郎来訪す、○「公徳養成之実例序」を中島益吉に送る、○夜、興学会に赴く、

十日、芳賀矢一、菊池武雄、田村茂与来訪す、○グリーン氏の倫理学を読む、○「中等修身教科書序」を文学社に付与す、○金港堂の「中等修身教科書」成る、

十一日、午后、児女を携へて市村座に之き、浦島の劇を観る、

十二日、文部大臣に新年宴会に招かる、手島精一、隈本有尚、中村精男、岡田良平、嘉納治五郎、岡五郎等と会見す、

十三日、中島益吉来訪す、○午后、修身調査会に赴く、○「釈迦牟尼伝」三版の奥附五百枚を文明堂に付与す、

十四日、関野貞と会見す、

十五日、麻生正蔵来訪す、

十六日、国語調査会に赴く、○大谷光尊逝く、

十七日、松平直亮、吉木竹次郎、石川栄司来訪す、○倫理彙編第十巻の叙説を育成会に送る、○書状を福井彦次郎に送る、

十八日、遠藤隆吉来訪す、

十九日、常盤大定来訪す、○修身調査会に赴く、○倫理教科書総説の奥付千枚を金港堂に付与す、

二十日、近角常観、大町芳衛、荻野仲三郎、真岡湛海、酒生慧眼に書状を送る、

廿一日、貸費返納催促状を三好愛吉、佐々政一、本多辰次郎、有馬祐政、久保得二に送る、

廿二日、村川堅固来訪す、○書状を高山栄一、広江万次郎、山県

五十雄、畔柳都太郎、杉敏介、塩井正男、宮本正貫、白石真に送る、○夜、高瀬代次郎来訪す、

廿三日、木下四郎一、内田銀蔵、本多辰次郎来訪す、○倫理教科書上巻の奥附千枚を金港堂に付与す、

廿四日、村川堅固、内田銀蔵、斎藤阿具出発して欧洲に赴く、○祥雲晩成来訪す、○高山林次郎の追悼会を催す、

廿五日、島田蕃根、幸田露伴、内田貢、秋山悟庵来訪す、○神宮奉斎に於ける和歌奨励会に赴く、鍋島直大、千家尊福、長岡護美、佐々木信綱等と会見す、○曹洞宗大学林に赴き、「所感を述ぶ」を演舌す、森田悟由、弘津説三等と会見す、○勅語衍義の奥附五百枚を敬業社に付与す、

廿六日、谷本冨、酒井真、高見憲治来訪す、○書状を清水大樹、高宮乾一、荘田茂三郎、朝永三十郎、村上辰午郎、赤木通弘、高桑駒吉に送る、

廿七日、「東語真伝序」を伊沢修二に送る、○修身調査会に赴く、

廿八日、「倫理と宗教の関係序」を冨山房に送る、

廿九日、曹洞宗大学林の僧来訪す、○午后、帝国文学会に赴く、○下田次郎に大学に邂逅す、

三十日、麻生正蔵、松本文三郎、藤代禎輔、谷干城、田中守、野田義夫、井上健児、西川政憲、伊沢修二来訪す、

卅一日、大塚保治来訪す、○此日、雪降る、

二月

一日、平川泉吉、菊池敏彦来訪す、

二日、「釈迦牟尼伝」四版の奥附五百枚を文明堂に付与す、

三日、夏目金之助来訪す、○大に雪降る、

四日、上田敏、フローレンツと大学に会見す、

五日、修身教科書第一巻の奥附千枚を文学社に付与す、

六日、国語調査会に赴く、○夜、英文科の生徒五名来訪す、

七日、安井小太郎、鷹田其石、蟹江義丸来訪す、

八日、市村瓚次郎、島文次郎来訪す、○学士会院に於て「過去の宗教と将来の道徳」を講演す、

九日、溝淵進馬来訪す、以二所労中一故不レ遇、

十日、中谷正巳来訪す、

十一日、芳賀矢一、大塚保治、斎藤清太郎、円藤鎮、西川政憲来訪す、

十二日、橋本吾作来訪す、

十三日、市村瓚次郎清国に赴く、○国語調査会に赴く、○高橋泥舟逝く、享年六十九、

十四日、山川健次郎を訪ふ、○夏目金之助、菊池俊諦、蟹江義丸来訪す、

十五日、日本女子大学に之いて「倫理学上の一問題」を講述す、○松田湛堂、神谷篤倫、高橋格、高瀬代次郎来訪す、○小松宮彰仁親王薨去、○呉汝綸逝く、(是れ巷説)享年六十四、

十六日、井上俊雄来訪す、

十七日、後藤義雄に返書を送る、○蟹江義丸、桜井一義来訪す、○グリーン氏の倫理学を読む、

十八日、グリーンの倫理学及びキッド氏の社会進化論を読む、○勅

語衍義の奥付千枚を精美堂に付与す、○小松宮彰仁親王薨去、享年五十八、○尾上菊五郎死去す、享年六十、
十九日、桜井義肇来訪す、○キッド氏の社会進化論を読了す、○グリーン氏の倫理学、ヘッケル氏の世界謎語、及びベルゲマン氏の社会教育学を読む、
二十日、国語調査会に赴く、
廿一日、高等師範学校に於て「動機論と結果論との調和」を演述す、○丁酉倫理会に赴く、
廿三日、曹洞宗高等学林に於て「動機論と結果論とを論じ、併せて宗教に及ぶ」を講演し、午后、軍人講学会に於て「精神上の武士道」を講演す、○藤代禎輔来訪す、○栂仙英と高等学林に会見す、
廿三日、三沢糾、瀧村斐男、松田湛堂、甲山玄道、田中義成、吉田熊次、荒浪市平来訪す、
廿四日、内田貢来訪す、○書状を大島義脩、岩田僊太郎等に送る、○中村達太郎を工科大学に訪ふ、
廿五日、「注意すべき刻下の問題」を反省社に送る、
廿六日、小松宮の葬式に赴く、○佐々木信綱来訪す、○書状を林吾一に送る、○「倫理と宗教との関係」の奥附三百枚、「日本古学派之哲学」の奥附二百枚を冨山房に付与す、
廿七日、小塚斉来訪す、○国語調査会に赴く、
廿八日、中村達太郎、小塚斉来訪す、○グリーン氏の倫理学を読む、

三月

一日、麻生正蔵、岩瀬三治、堀鉞之丞、武藤長蔵、小野竹三、斎藤木来訪す、
二日、小塚斉来訪す、
三日、修身調査会に赴く、○英文科学生六名、尾上八郎、隈本有尚、原林之助来訪す、
四日、岡野久胤、長谷川誠也来訪す、
五日、宗像逸郎、石川岩吉来訪す、
六日、国語調査会に赴く、○ヘッケル氏のWelträthselを読む、
七日、建部遯吾の社会学研究室の開室式に赴き、祝詞を述ぶ、是日は外山正一の三週忌に当る、○桑木厳翼、野田義夫、三好退蔵、北田保次郎、高島円、木下四郎一来訪す、
八日、手塚光貫、阿部荘二、長尾助三郎、小塚斉来訪す、○学士会院に赴く、○「青年と宗教心」の訂正を金港堂に送る、○書状を日出国新聞社に送る、
九日、夏目金之助来訪す、○「日本古学派之哲学」の奥附二百枚を冨山房に付与す、
十日、書状を桜井房記に送る、○不在中丹羽雄九郎、高橋正熊来訪す、○興学会に赴く、
十一日、長谷川福平、中島徳蔵来訪す、○小泉八雲と大学に会見す、
十二日、丹羽雄九郎来訪す、
十三日、明治音楽会に赴く、
十四日、高等商業学校に赴き「動機と結果との関係」を演説す、
十五日、本田幸之助、西川政憲、高橋正熊、丹羽雄九郎、新井田次郎、浅川是勝来訪す、

十六日、独立評論を読む、
十七日、「釈迦尼牟伝六版序」を文明堂に送る、○大原孫三郎、新見吉治来訪す、○少しく腹痛を患ふ、○「動機論と結果論」の訂正を博文館に送る、
十八日、「中等修身教科書」の奥附二百枚を付与す、○弥吉くに逝く、
十九日、佐久間信恭、村松治作来訪す、
二十日、国語調査会に赴く、
廿一日、尾上八郎、村松治作来訪す、○「演劇に就いての考察」を帝国文学に送る、
廿二日、金沢庄三郎、冨田順吉、宮田脩、野守広来訪す、○妻子三人歌舞技座に赴く、○書状を鈴木常次に送る、
廿三日、小泉八雲を西大久保に訪ふ、○井上成美来訪す、
廿四日、蔭山与八郎来訪す、
廿五日、結城礼一郎、栗原基、北村教厳来訪す、
廿六日、弥吉為三郎に為換三円を送る、○書状を東京高等師範学校会計係、山本秀雄、青野くにに送る、○辻新次に美術部長辞任の書状を送る、
廿七日、鷹田其石、中谷正巳、長尾永五郎、佃与次郎来訪す、○「釈迦牟尼伝」六版の奥附五百枚を文明堂に付与す、
廿八日、書状を日出国新聞に送る、○夏目金之助、望月信亨来訪す、○「新聞に対する希望」の訂正を民友社に送る、
廿九日、尾上八郎、樋口秀雄、伊沢修二、法貴慶次郎、野村寛一来訪す、○「釈迦牟尼伝」七版の奥附五百枚を文明堂に、「中等修身教科書」の奥附三千枚を金港堂に付与す、○間千代来たる、
三十日、グリーン氏の倫理学を読了す、○坂本健一来訪す、○倫理教科書上巻の奥附五百枚及び中等修身教科書の奥附六千枚を金港堂に付与す、
廿一日、藤田安蔵、田沼駒江、安井小太郎、斎藤基次郎来訪す、○修身調査会に赴く、○中等修身書の奥附四千枚を金港堂に付与す、

四月

一日、上田敏、菊池俊諦、増田乙四郎、山内玄龍来訪す、○真美会、日本絵画展覧会等を観る、
二日、麻生正蔵、横矢重道、フローレンツ、石川岩吉来訪す、
三日、成女学校の卒業式に赴いて演説す、○夏目金之助来訪す、○夜、安井小太郎の送別会に上野精養軒に赴く、
四日、罹二微恙一、蓋流行性感冒也、
五日、臥床、
六日、仝、
七日、仝、
八日、仝、
九日、磯江潤、深川清太郎、西沢之助来訪す、
十日、少しく癒ゆ、○磯江潤、安藤勝一郎、桜井一義来訪す、
十一日、高島円、長谷川誠也、小野竹三来訪す、
十二日、増田乙四郎来訪す、○文学社に奥附八百枚を金港堂に五千四百枚を付与す、

十三日、蟹江義丸、論文を携へて来る、丸山通一、磯野貞子来訪す、以二病気故一不レ遇、
十四日、入沢達吉来診す、○此日より快癒す、
十五日、駿台雑話を読む、
十六日、駿台雑話及び慎思録を読む、○真船民伊（青年革新協会々員）来訪す、
十七日、Benjamin Kidd, Principles of western Civilisation 及び慎思録を読む、
十八日、高橋亨、上田敏来訪す、○Franz Brentano, Das Schlechte als Gegenstand dichterischer Darstellung を読了し、Benjamin Kidd, Principles of western Civilisation を読む、
十九日、三島毅、柳沼弥衛門、高嶺秀夫、清水友次郎、杉山冨槌、三沢糾、坂根栄吉、深作安文来訪す、○Kidd, Principles of western Civilisation を読む、
二十日、横井時雄、酒井真、西川政憲、真船民伊、十時弥来訪す、○駿台雑話を読む、○書状を竹添進一郎及び藤樹書院に送る、
廿一日、Benjamin Kidd, Principles of western civilization を読む、○修身調査会に赴く、
廿二日、Benjamin kidd, Principles of western civilization を読む、○菊池文相の招燕に上野精養軒に赴く、
廿三日、樋口秀雄、吉村寅太郎、勝家貞文来訪す、
廿四日、増田乙四郎、斎藤基次郎来訪す、○国語調査会に赴く、○青山、北尾、三浦、小藤、下村、三輪六氏の送迎会に植物園に赴く、
廿五日、藤樹書院より写真五枚送り来たる、○書状を甲元清右衛門に送る、○高橋格、鈴木信太郎来訪す、○夜、雪子を拉して外国語学校講演に赴く、
廿六日、遠藤隆吉、高橋亨、酒井真、古城貞吉、長尾助三郎、福岡元治郎、鈴木暢幸、豊原清作、勝家貞文、須藤求馬来訪す、○「日本改良文字序」を増田乙四郎に送り、「演劇に就いての考察」の正誤を尾上八郎に送る、○「教育雑感」教育時論に出づ、
廿七日、中等修身教科書の奥附千枚を金港堂に中学修身教科書の奥附千五百枚を文学社に付与す、○不在中矢野太郎来訪す、○夜、慎思録を読む、
廿八日、書状を北島斉孝、幸田成友、西沢之助、加藤秀一及び藤樹書院に送る、○修身調査会に赴く、
廿九日、文科大学々科改正案を議す、
三十日、「青年に対する希望」の訂正を勝家貞文に送る、○横山時彦来訪す、

五月

一日、石黒直豊、吉田熊次来訪す、○国語調査会に赴く、○慎思録を読む、
二日、書状を丸山通一、岩崎行親、加藤秀一、中川成太郎、三好愛吉、川田鉄弥に送る、○原平吉来訪す、
三日、丸山通一、蟹江義丸、清水金右衛門、桑原鷺蔵、福岡元治郎来訪す、○午后、漢学科三年生の予餞会に赴く、
四日、原平吉来訪す、

五日、倫理教科書［上巻］の奥附五百枚を金港堂に付与す、○修身調査会に赴く、○書庫始めて成り棟上式を行ふ、○不在中横地清次郎、平川泉吉来訪す、○夜、横地清次郎再び来訪す、
六日、高岩安太郎、山内契順来訪す、○文科大学々科改正案を議す、○妻子大久保村に遊ぶ、
七日、フローレンツ来訪す、
八日、高岩安太郎来訪す、○国語調査会に赴き、尋いで興学会に赴く、
九日、高崎行一来訪す、○文学博士会に赴く、南條文雄、三島毅、那珂通世等と会見す、
十日、古川義夫、水野繁太郎、守屋荒美雄、小野藤太、井上成美、高橋龍雄、平川泉吉来訪す、○不在中佐々木政直来訪す、○中洲株券の為め金百四拾円を成美に付与す、
十一日、井上成美、吉田熊次来訪す、
十二日、須藤求馬、山越慈船来訪す、○夜、波多野精一来訪す、故ありて遇はず、○荒浪市平をして速記せしむ、○夜、慎思録を読む、
十三日、不在中、Arthur Lloyd来訪す、○石川松渓をして速記せしむ、
十四日、書状を岩崎行親、高崎行一、井上侃斎、古川義夫、甲元清右衛門、中山成太郎、小林常善、得能文、森篤次郎に送る、○夜、新井田次郎をして速記せしむ、○加藤玄智来訪す、
十五日、横山徳次郎来訪す、○国語調査会に赴く、
十六日、文学博士会に赴く、田中義成当選す、○「哲学館事件の収結」の訂正を金港堂に送る、
十七日、児玉実徳、波多野精一、本多辰次郎、浅川是勝、常盤大定、中村敬宇未亡人、及び成功の記者来訪す、○夜、哲学科三年生の予餞会に赴く、
十八日、「近時の倫理問題に対する意見」を博文館に送る、
十九日、福岡元治郎来訪す、○修身調査会に赴く、
二十日、学科改正案を議す、
廿一日、「倫理に関する教育上の二問題」の訂正を同文館に送る、○田中義能来訪す、
廿二日、岡吉寿（崩号不）来訪す、
廿三日、村上専精、鷲尾順敬、浅野陽吉来訪す、
廿四日、遠藤隆吉、藤岡作太郎、石川栄司来訪す、○栃木県教育会に赴き、「近時の倫理問題に就いて所感を述ぶ」を演説す、沖守固、小田切磐太郎、鈴木光愛、高崎行一等と会見す、○汽車中佐野善作と会見す、○不在中坂本嘉治馬、林高美、古城貞吉、及び成功記者村松某来訪す、
廿五日、宮崎求馬、成功記者村松某来訪す、
廿六日、高岩安太郎、岡上梁、野田夫婦、室松岩雄来訪す、○姉崎正治神戸に着す、○中黒に赴き、写真を取る、
廿七日、学科改正案を議す、○不在中須藤求馬来訪す、
廿八日、石川岩吉、村松治作、高橋亨来訪す、○夜、「教育雑感」の訂正を開発社に付与す、
廿九日、「巽軒講話集」二編の草稿を長谷川誠也に付与す、○国語

調査会に赴く、
三十日、金千円を清水組手代伊藤某に付与す、○佐藤利兵衛来訪す、
○姉崎正治に書状を送る、
卅一日、木川又吉郎来訪す、○愛国女学校に赴き、祝辞を述ぶ、○
夜、帝国文学委員会に赴く、

六月

一日、「今時の倫理問題」太陽に出づ、○小笠原実成来訪す、
二日、小野藤太来訪す、○修身調査会に赴く、○姉崎正治に書状を
送る、○前田慧雲の論文を読む、
三日、石川栄司来訪す、○学科改正案を議す、○「哲学館事件の収
結」教育界に出づ、
四日、前田慧雲の論文を読む、
五日、須藤求馬、平川泉吉、黒金泰信、清水友次郎、手塚光貴来訪
す、○国語調査会に赴く、○「教育雑感」教育時論に出で、「倫
理に関する教育上の二問題」教育学術界に出づ、○女子修身教科
書揃二百枚の奥附を金港堂に付与す、
六日、故中村敬宇十三回忌日に江戸川町に赴く、内藤恥叟、清沢満
之没す、藤井宣正亦巴里に没す、〔頁下部に「清沢満之師逝く」
の新聞記事切抜貼付〕
七日、古川義夫、高橋亨、宇野哲人、小野隆助、横川回天、萩野由
之、森山章之丞来訪す、○久松座に赴く、坪内雄蔵、岩谷季雄、
北里闌等と会見す、
八日、塩谷温来訪す、○書状を姉崎正治に送る、夜、清国留学生総
監督汪大燮の招燕に清国公使館に赴く、
九日、丸山通一来訪す、○修身調査会に赴く、
十日、林博太郎、フローレンツ来訪す、○不在中物集高見、美濃部
久成来訪す、○学科改正案を議す、「井上哲次郎君立志談」成功
雑誌に出づ、
十一日、大藪好太郎来訪す、故ありて逢はず、○小野藤太、小林常
善来訪す、○前田慧雲の論文を読む、船越壽人逝く、○ゼルビヤ
国アレキサンドル及び王妃ドラガ弑虐せらる、
十二日、「吉備公伝序」を須藤求馬に送る、○前田慧雲の論文及び
小学修身書を閲読す、○露国陸相 Kouropatkin 来朝す、
十三日、高瀬代次郎、市村瓚次郎、中島徳蔵来訪す、
十四日、豊原清作、桜井義肇、遠藤隆吉来訪す、○弘法大師降誕会
に赴いて所感を述ぶ、○性霊集及び即身成仏義を読む、
十五日、姉崎夫婦来たる、○実践哲学の試験を行ふ、○学科改正案
を議す、
十六日、上村貞子、石橋政二、茅原茂、メートル来訪す、○不在中
大沢天仙の使者、加藤由太郎来訪す、○修身調査会に赴く、
十七日、吉田熊次来訪す、
十八日、藤代禎輔、加藤由太郎、横川回天、石川栄司、小林法樹、
佃与次郎、三沢糾、榎本勝多来訪す、○「教育上の二問題」の訂
正を同文館に送る、
十九日、東洋哲学の試験を行ふ、○森山章之丞来訪す、○国語調査
会に赴く、○姉崎の宴会に上野精養軒に赴く、

二十日、「青年の精神的危機」の訂正を独立評論社に、「青年と小説」の訂正を中学文芸社に送る、○前田慧雲の論文を読了す、○夜、石井波平来訪す、

廿一日、小野竹三、足立栗園、坂本嘉治馬、釈霊澄、堀川三四郎、岩瀬三治、古川義夫来訪す、○帝国教育会に於て「教育上注意すべき近時の問題」を演述す、○夜、姉崎正治の為めに富士見軒に於て歓迎会を開く、来会者十有五人、

廿二日、岩田僊太郎、高橋正熊、建部遯吾来訪す、○学科改正案を議す、

廿三日、「精神的危機に対する青年の警戒」の訂正を博文館に送る、○勅語衍義の奥附二百五十枚を敬業社に付与す、

廿四日、高岩安太郎、田中重策来訪す、○姉崎夫婦出発、鎌倉に赴く、○勅語衍義の奥附二百五十枚を敬業社に付与す、

廿五日、試験の答案を検す、

廿六日、遠藤隆吉の宅を訪ひ、「宗教と倫理との異同いかん」を付与す、○酒井真、高瀬代次郎、安藤勝一郎来訪す、○蟹江義丸の論文を読む、○試験の答案を検す、○書状を田中重策に送る、

廿七日、文明堂より印税金百八円、金港堂より印税金四百七円五拾銭を領収す、○蟹江義丸の論文を読む、○間端吾、小林法樹来訪す、

廿八日、「倫理学上の一問題」の訂正を女子大学に送る、○夏目金之助来訪す、

廿九日、岡上梁、小笠原実成、白石正邦、島地雷夢、祥雲碓悟、小山東助来訪す、○点数会議を開く、○蟹江義丸の論文を読む、

三十日、中村春二、小野藤太、高岩安太郎、石井波平、坪根清治来訪す、

七月

一日、石井波平、村田勤、高橋格来訪す、○点数会議を開く、

二日、中村寅松、小山東助、平川泉吉、小野竹三、高橋格来訪す、○夜、史学科卒業生の送別会に大学の集会所に赴く、

三日、田中義能、手塚光貴、芝田徹心、橋本忠夫、岡島誘来訪す、○修身教科書の草稿を悉皆文学社に付与す、○「青年の精神的危機」独立評論に出づ、

四日、臨時教授会を開く、○中学修身書壱巻の奥附三百枚を金港堂に付与す、○始めて「巽軒講話集」の校正を送来たる、

五日、古城貞吉、桑木厳翼、森山章之丞、相良益次郎、深作安文、加藤秀一、藤岡作太郎、泉道雄、小笠原実成、紀平正美来訪す、

六日、磯江潤、長尾景尭、泉道雄、井上成美来訪す、

七日、有二微恙一、○内田貢来訪す、

八日、平川泉吉、石井波平来訪す、

九日、蟹江義丸、森山章之丞、横市重直、酒井真、松平直亮、高橋正熊来訪す、

十日、中島徳蔵、平川泉吉、相良益次郎、白神修平、副島松一来訪す、○「日本陽明学派之哲学」の奥附一百枚を冨山房に付与す、○「倫理と宗教との異同いかん」哲学雑誌に出づ、○「青年自殺に就いての所感」中学世界に出づ、

十一日、午前帝国大学行二卒業式一、卒業生総計四百七十人、文科大学八十三人、優等生一名、特待生五名、○島地雷夢、芝田徹心、斎藤信策、伊藤六蔵来訪す、
十二日、松崎求巳、芝葛盛、陶山康次郎、塚田節、高橋正熊、岩瀬三治、冨田順吉、中村寅松来訪す、
十三日、今西龍、須藤求馬、安藤勝一郎、小日向定次郎、伊藤兼一、中野力人来訪す、○伊藤博文枢密院議長に任ぜらる、○書状を吉村寅太郎に送る、○長松幹逝く、○坪井次郎逝く、
十四日、書状を桜井房記、磯江潤、一木喜徳郎、酒井佐保に送る、
十五日、小野竹三、中村善太郎、大塚武松、磯江潤、田中義能、高橋正熊、中島泰蔵、清島弥伝、石川林四郎来訪す、○児玉源太郎内務大臣に任ぜらる、
十六日、小林郁、平川泉吉、建部遯吾来訪す、○「過去の宗教と将来の道徳」の校正を榎本勝多に送る、
十七日、長谷川誠也、桜井一義、新保巽、宇野哲人、加地歌三郎、志田義秀、亀田次郎、酒井真来訪す、○実践倫理学講義（第四回分）を北海道教育会に送る、
十八日、小柳司気太、今井精一、高橋正熊来訪す、
十九日、森山章之丞、相良益次郎、平川泉吉来訪す、○井上成美出発、福岡に赴く、○釈迦牟尼伝の奥附五百枚を文明堂に、倫理教科書［下巻］の奥附三百枚を金港堂に付与す、○夜、石井波平来訪す、故ありて遇はず、
二十日、書状を平川泉吉、長松篤棐、大森金五郎、飯田季治、元良勇次郎に送る、○LeoXIII逝く、
廿一日、修身調査会に赴く、○赤間冨次郎、五島陸三郎来訪す、○書生保々清音来たる、
廿二日、手塚光貫、中村春二、小野隆助来訪す、○書生山田修去る、
廿三日、新保巽、井上健児、境野正、相良益次郎来訪す、○実践倫理学講義（第五回分）を北海道教育会に送る、
廿四日、八波則吉、阪口才之助、赤間冨次郎、井上健児来訪す、○ビスクキット二缶を博多川端に送る、○「過去の宗教と将来の道徳」東洋学芸雑誌に出づ、
廿五日、桑木厳翼、坂本嘉治馬、酒井真、森山章之丞来訪す、○勅語衍義の奥附千枚を林平次郎に付与す、
廿六日、遠藤隆吉、高瀬武次郎、中村鄧次郎、平川泉吉、冨田政喜来訪す、
廿七日、相良益次郎、若木広良、育成会代理来訪す、○金二十円を中洲に送る、○反物一段加納和夫に送る、○坪根清治来訪す、
廿八日、境野哲、鷲尾順敬、渡辺世祐、小豆沢英男来訪す、○岩崎行一を三井銀行に訪ふ、
廿九日、菅野養助、上田敏、中西四郎、中村寅松、斎藤信策来訪す、○荒浪市平をして速記せしむ、
三十日、東敬治、石原即聞来訪す、○荒浪市平をして速記せしむ、
卅一日、樋口秀雄、源良澄、新保巽来訪す、○不在中平川泉吉、渡辺又次郎来訪す、○三井銀行に赴く、○演説筆記の訂正を帝国教育会に送る、

八月

一日、相良益次郎、瀧精一来訪す、○原龍豊に書状を送る、
二日、中村寅松、井上円了、冨田順吉来訪す、○巽軒講話集第二編序を博文館に送る、○姉崎正治に書状を送る、
三日、中村寅松来訪す、○書状を川端に送る、○「日本古学派之哲学」序を酒井真に送る、
四日、長谷川誠也、佐伯利麿、大島義脩、斎藤信策、福岡元治郎来訪す、
五日、午前八時三十分東京出発、仝十一時頃逗子養神亭に到着、○書状を内に送る、
六日、書状を内に送る、
七日、演説筆記を北海道教育会に送る、
八日、書状を文科大学事務室、榎本勝多等に送る、
九日、石黒忠悳、大沢謙二、緒方正規と共に神武寺に詣り、十州望に登る、○家族東京より来たる、
十日、
十一日、尋常第四年修身教科書を文部省に送る、
十二日、巽軒講話集第二編成る、
十三日、
十四日、手塚光貴、友枝高彦来訪す、○「過去の宗教と将来の道徳」の訂正を榎本勝多に送る、
十五日、緒方正規と共に永井禾原を訪ふ、
十六日、岡田正之、山県昌蔵来訪す、
十七日、東京に還る、途上蔵原維郭、中村春二、中島力造に逢ふ、○「教育上注意すべき近事の問題」教育公報に出づ、○修身調査会に赴く、
十八日、高瀬代次郎、安倍正人、冨田順吉来訪す、○修身調査会に赴く、
十九日、手塚光貴、若木広良、清水金右衛門来訪す、○「主婦の心得」を金港堂に付与す、○「巽軒講話集二編」を哲学館及び鍵谷徳三郎に送る、
二十日、「巽軒講話集二編」を中島徳蔵、境野哲、鷲尾順敬、桜井義肇、石川栄司に送る、○冨田順吉、小笠原実成来訪す、
廿一日、「巽軒講話集二編」を長野山口福岡の図書館及び湯本武比古、斎藤庸一郎に送る、○博多川端及び姉崎正治に書状を送る、○太田資順来訪す、○鷲尾順敬を訪ふ、
廿二日、「巽軒講話集二編」を甫森謹吾、近角常観、小野藤太、及び京都帝国大学図書館に送る、○石川倉次来訪す、
廿三日、土肥竹次郎、高岩安太郎、白石正邦、北田保次郎来訪す、○書庫成る、○夜、パウルゼン氏の倫理学を読む、
廿四日、修身調査会に赴く、○ミル氏の Utilitarianism を読む、
廿五日、山本秀雄来訪す、○松平直亮及び手塚光貴に書状を送る、○新保磐次の国文学史を読む、
廿六日、「巽軒講話集二編」を松平直亮、冨田春山、加瀬駒太郎、古川勝隆、博多川端及び教育界記者、并に教育学術界記者に送る、○「日本陽明学派之哲学」第四版の奥附百枚を冨山房に付与す、

○書状を敬業社に送る、○堀重里、中村春二、境野哲来訪す、
廿七日、東洋倫理大綱序を足立栗園に送る、○夜、検定試験の答案を読む、
廿八日、中村寅松、若木広良、源良澄、高橋格太郎、冨田順吉、小谷重来訪す、
廿九日、間端吾、竹林規矩夫、小野藤太、倉山栄、鷲尾順敬来訪す、○「花のさくら」を冨山房に付与す、
三十日、釈清廉、太田資順来訪す、○書状を中村達太郎と塩谷時敏に送る、○検定試験の答案を読む、
卅一日、小豆沢英男、高瀬武次郎、荒浪市平来訪す、○検定試験の答案を読む、○大学の評議会に赴く、

九月

一日、建部遯吾、佐伯利麿、北田保次郎来訪す、○土蔵建築及び其他修繕費一千八百七拾九円八拾三銭を北田保次郎に付与す、○修身調査会に赴く、○冨蘭克林座右銘を訳す、
二日、中村達太郎、姉崎正治来訪す、
三日、石原即聞、亀田次郎、堀重里、高橋正熊、冨田順吉、小谷重来訪す、○津田真道逝く、
四日、冨田順吉夫婦出発、博多に赴く、○得能文、井上健児、仝静子来訪す、○検定試験の答案及びWeekly Timesを読む、○金参拾円を博多中洲に送る、
五日、江崎誠、本田幸之助来訪す、
六日、村上専精、芝田徹心、蟹江義丸来訪す、○静子を招燕す、○書状を博多川端及び鷲津順敬に送る、
七日、福来友吉、酒井真、竹林規矩夫、八田三喜、中村善太郎、白仁三郎、相良益次郎、藤田明来訪す、○修身調査会に赴く、○クセノフォンのThe Memorable Thoughts of Socratesを読む、
八日、原秀四郎、勝浦鞆雄来訪す、○修身調査会に赴く、○クセノフォンのThe Memorable Thoughts of Socratesを読む、○夜、女子修身教科書を訂正す、
九日、桑木厳翼、蠣瀬彦蔵、中島徳蔵来訪す、
十日、戒能義重、瀧村斐男、中村多賀子来訪す、○「巽軒講話集」二編を佐伯俊二、片岡久太郎、佐野善作に送る、
十一日、古川義夫、井上健児、仝静子来訪す、○興学会に赴く、
十二日、井上成美、仝健児、仝静子来訪す、○検定試験の答案を読む、
十三日、赤間冨次郎、深作安文、森山章之丞、遠藤隆吉、○俳優団次郎（堀越秀）逝く、
十四日、村田五郎、三上参次、村上憲治、補永茂助来訪す、○大学の講義を始む、○橘窓茶話を読む、
十五日、修身調査会に赴く、○橘窓茶話を読む、
十六日、小笠原実成、戒能義重来訪す、○橘窓茶話を読了す、○学習院に於て倫理講話を始む、
十七日、田中義能、村上憲治、森山章之丞、藤代禎輔来訪す、
十八日、国語調査会に赴く、○芳洲口授を読む、ベイン逝く、
十九日、清水金右衛門、小林一郎、神林周道、近藤逸五郎、内田貢、平川泉吉来訪す、○雨森芳洲の「たはれ草」を読む、

二十日、蠣瀬彦蔵、相良益次郎、平川泉吉、森山章之丞、加藤玄智、葉山万次郎来訪す、○夜、検定試験の答案を読む、○夜、慎思録を読了す、
廿一日、素餐録を読む、
廿二日、中村寅松、高橋正熊、石橋政二来訪す、○久保田譲文部大臣となる、
廿三日、暴風雨あり、○検定試験の答案を読む、○葉山万次郎文科大学の講師となり、高橋正熊嘱託となる、
廿四日、安井小太郎、中島万次郎、酒井久米太郎、坪根清治、田中義能、斎藤清太郎、吉冨恵、Paul-Louis Couchoud, chargé de union du l'Université de Paris 蠣瀬彦蔵来訪す、○「古学派之哲学」の奥附一百九十六枚を冨山房に付与す、
廿五日、山下寅次来訪す、○妻女明治音楽会に赴く、
廿六日、蠣瀬彦蔵、相良益次郎、高岩安太郎、山本邦彦来訪す、○夜、新旧文部大臣の送迎会に植物園に赴く、
廿七日、深作安文、樋口秀雄、平川泉吉、村松治作、小野藤太、小笠原実成、戒能義重、加藤玄智来訪す、○金港堂及び北海道教育会に書状を送る、
廿八日、江沢甚一、佐々木菊若、姉崎正治、井上成美、仝静子、相良益次郎、村松治作、J.B.Beuf来訪す、
二十九日、修身調査会に赴く、○鈴木繁次来訪す、
三十日、「巽軒講話集」二編を中山再次郎、浅川是勝、小林到、吉田元利、安達常正及び帝国教育会に送る、○井上成美、葉山万次郎来訪す、

十月

一日、勝山孝三、香川郁二来訪す、○参謀次長田村怡与造逝く、
二日、暴風雨あり、○石川栄司来訪す、○国語調査会に赴く、
三日、長谷川誠也、箭内亘来訪す、○哲学科学生懇親会に赴き、尋いで姉崎子歓迎会に上野精養軒に赴く、
四日、内山正居、秋重秀雄、蠣瀬彦蔵、高橋亨来訪す、○夜、高橋亨の送別会に富士見軒に赴く、○釈迦牟尼伝第九版の奥附三百枚、仝十版の奥附五百枚を文明堂に付与す、○「青年と宗教とを論じ、併せて高木氏に答ふ」独立評論に出づ、
五日、久保田文相、大学に来たる、因りて共に会食す、○夜、蠣瀬彦蔵、平川泉吉、相良益次郎来訪す、
六日、修身調査会に赴く、○此夜、月蝕、
七日、内田貢、森山章之丞、相良益次郎、吉田清太郎、原平吉来訪す、○塩谷温支那より帰朝す、
八日、塩谷温来訪す、○中学修身教科書の奥附千二百枚を金港堂に付与す、
九日、
十日、大学の宣誓式に赴く、○姉崎袖子及び増子、高岩安太郎来訪す、
十一日、藤沢周次、村田勤、森山章之丞、佐伯正、平川泉吉、相良益次郎来訪す、○学士会院に赴く、
十二日、荘資親来訪す、
十三日、修身調査会に赴く、○石川林四郎来訪す、

十四日、哲学辞書の会を富士見軒に開く、
十五日、辻新次、岡本徳三郎来訪す、
十六日、国語調査会に赴く、○森山章之丞来訪す、
十七日、相良益次郎、吉田清太郎来訪す、
十八日、高橋正熊、平田久、谷本冨来訪す、
十九日、近衛篤麿、藤岡作太郎、野田ふくを病院に訪ふ、
二十日、修身調査会に赴く、○本田種竹来訪す、
廿一日、畠山健、荘資親、大橋次郎来訪す、
廿二日、千賀貞子、長谷川福平来訪す、○スペンセル氏の倫理学及び安東省庵の耻斉慢録を読む、
廿三日、加藤房蔵、樋口秀雄来訪す、○国語調査会に赴く、○スペンセル氏の倫理学を読む、
廿四日、パウルゼン氏の倫理学を読む、○史料展覧会に赴く、
廿五日、阪上忠之介、荘資親、高畠政之助来訪す、○儒者捨場修繕会に大学本部に赴く、
廿六日、鈴木寛、新井田次郎、比企間新来訪す、○周濂渓の通書を読む、
廿七日、石川岩吉、吉丸一昌来訪す、○修身調査会に赴く、
廿八日、三沢糾、長谷川福平来訪す、○「教育雑感」の訂正を石川岩吉に送る、
廿九日、久保田文相に招燕せらる、肝付兼行、木場貞長、成瀬仁蔵、奥田義人等と会見す、
三十日、長浜直哉、三上浅男、木村鷹太郎、蠣瀬彦蔵来訪す、○「哲学上より見たる戦争」を京華日報社に「戦争の哲理」を民友社に送る、○尾崎紅葉（名は徳太郎）没す、享年三十七歳、
三十一日、田村直臣、平川泉吉、相良益次郎、松永武雄来訪す、○片岡健吉逝く、

十一月

一日、遠藤隆吉、乙骨三郎来訪す、
二日、菊池広、相良益次郎来訪す、
三日、井上成美、得能文、吉田清太郎来訪す、○「戦争の話」国民新聞に出づ、○Mommsen逝く、〔頁下部に「独のモムゼン博士死す」の新聞記事切抜貼付〕
四日、小野藤太来訪す、○Radiumを理科大学に見る、
五日、「哲学上より見たる戦争」京華日報に出づ、○不在中沼田藤次、加藤玄智、姉崎正治来訪す、
六日、スペンセル氏のPrinciples of Ethicsを読む、
七日、加藤玄智来訪す、○張横渠の西銘東銘を読む、○「教育雑感」教育時論に出づ、○内田周平、鷲尾順敬来訪す、○午后、哲学会に赴く、三宅雄二郎、高島平三郎、井上円了等と会見す、
八日、中島徳蔵、沼田藤次来訪す、
九日、「巽軒講話集」第二編を京華日報社及び高橋亨に送る、○上原三四郎、佐伯利麿来訪す、
十日、長谷川誠也、三島鉄道、山岸宗（号荷葉）、華丘諭来訪す、○修身調査会に赴く、○スペンセル氏の倫理学を読む、
十一日、学科改正案を議す、

十二日、菊池陽蔵来訪す、○文科大学懇親会を向島に催す、来会者大約二百名、
十三日、中目覚、小森徳之、小塚斉来訪す、○夜、家族を携へて本郷座に赴き、「ハムレット」を観る、
十四日、塗山乃清（重慶人）来訪す、○午后、宣光を携へて大学の運動会に至る、○夜、鷲尾順敬の招燕に上野精養軒に赴く、
十五日、北村沢吉、内ヶ崎作三郎、蠣瀬彦蔵、田中義能、山岸宗来訪す、○巽軒論文二集再版の奥附百枚を冨山房に付与す、
十六日、
十七日、小塚斉、平川泉吉、日戸勝郎、坂根与四郎来訪す、○林博太郎結婚の賀莚に帝国ホテルに赴く、○中学修身教科書第四巻の奥附五百枚を金港堂に付与す、
十八日、学科改正案を議す、○原平吉来訪す、
十九日、斎藤基次郎の宅に至る、○岩崎英重来訪す、
二十日、河村久米次郎来訪す、○斎藤基次郎の宅に至る、○此日、山川総長と対談す、事、文科大学の方針に関す、
廿一日、
廿二日、豊原清作、相良益次郎、武島又次郎、竹内喜太郎、荘資親、岩瀬三治、吉田熊次来訪す、○田中義成箕作元八二氏の学位祝賀会に大学の集会所に赴く、
廿三日、松平直亮、森田実、清水金右衛門来訪す、○世界八哲を選定して今井貫一に送る、八哲の名称ハ左の如し、

1）Kanko（菅公）　845 - 903
2）Confucius（孔子）　552 - 479
3）Socrates　470 - 399　v.Chr.
4）Aristotle　384 - 322　v.Chr
5）Shakespeare　1564 - 1616
6）Kant　1724 - 1804
7）Gaethe　1749 - 1731（ママ）
8）Darwin　1809 - 1882

廿四日、小塚斉来訪す、○修身調査会に赴く、
廿五日、哲学字彙の会を開く、
廿六日、浅川是勝来訪す、○寒玉韻を読了す、
廿七日、高等教育会議に赴く、
廿八日、弘田正郎、沼田藤次来訪す、
廿九日、加藤玄智、森川智徳来訪す、○修身調査会に赴く、○午后、上野音楽学校に赴く、
三十日、石川松渓来訪す、○高等教育会議に赴く、○夜、文部大臣の宴会に帝国ホテルに赴く、

十二月

一日、高等教育会議に赴き、尋いで修身調査会に赴く、○夜、根井久吾来訪す、○駿台雑話を読む、
二日、姉崎正治来訪す、
三日、
四日、相良益次郎来訪す、
五日、酒井真、仁井田某、斎藤精輔来訪す、

六日、藤井専随、伊沢修二、原平吉来訪す、
七日、小林郁来訪す、○小川写真師に赴く、
八日、荒浪市平、平川泉吉、姉崎正治来訪す、丸Herbert Spencer
　逝く、享年八十四歳、
九日、煤掃、○中黒写真師に赴く、
十日、松平直亮、秋重秀雄、平川泉吉来訪す、
十一日、片岡久太郎、丸山熊男来訪す、○国語調査会に赴く、○「日
　本現今の地位と境遇」を博文館に送る、○帝国議会解散せらる、
十二日、樋口秀雄、松本亦太郎、小林郁来訪す、
十三日、蟹江義丸に鶏卵一箱を贈る、○蠣瀬彦蔵、豊原清作来訪す、
　○「読書法」を同文館に、「純文学の二種類」を山岸宗に送る、○夜、
　斎藤力枝来訪す、
十四日、藤田文蔵、文科大学に来訪す、
十五日、須藤求馬、石川岩吉来訪す、
十六日、落合直文逝く、行年四十三、○「教育雑感」を開発社に送る、
十七日、菊池末吉、森川智徳、文科大学に来訪す、○落合氏宅を訪
　ひ、吊詞を述ぶ、○夜、姉崎正治夫婦及び井上静子来訪す、
十八日、長谷川福平、安藤勝一郎、中島泰蔵来訪す、
十九日、安藤正純来訪す、
二十日、芝葛盛(カズ)、大塚保治、藤岡作太郎、市村瓚次郎、酒井浩洋、
　沼田藤次来訪す、其他桜井義肇、籠島禅静、望月信亨来訪せしも、
　遇ハず、○「日本将来の音楽」を内ケ崎作三郎に送る、○加藤玄
　智来たれる、他日の再会を期す、
廿一日、中島徳蔵、金沢庄三郎、若木広良、友枝高彦、児玉成夫、
　加藤政司郎、井上俊雄、座親玄哉、田沼駒江、藤田安蔵来訪す、
廿二日、坂本嘉治馬、大橋次郎来訪す、
廿三日、加藤玄智来訪す、○三井銀行に赴き、地所売買の手続をなす、
　宅地　百五拾六坪九合
　崖地　五拾壱坪七号七勺
　合地坪　弐百○八坪六号七勺
　代金千八百五拾五円参拾弐銭
廿四日、島本愛之助、松扉得悟、泉欽之丞来訪す、○文科大学懇親
　会に赴く、○佃与次郎をして速記せしむ、
廿五日、修身調査会に赴く、○市村瓚次郎来訪す、○「書斎の楽み」
　を日報社に送る、
廿六日、荒浪市平来訪す、○哲学委員会に赴き、尋いで冨山房の催
　に係る世界哲学文庫の相談会に精養軒に赴く、
廿七日、内田貢、高岩安太郎、福岡元次郎、酒井真、間端吾、遠藤
　隆吉、石倉小三郎、山岸光宣、高橋正熊、森山章之丞来訪す、
廿八日、田中義能、島本愛之助、松扉得悟、荒浪市平、竹内喜太郎
　来訪す、
廿九日、佃与次郎、荒浪市平、高野二郎来訪す、○哲学辞書の為め
　に富士見軒に会合す、
三十日、荘資親、魚住惇吉、福岡元治郎、高橋正熊、荒浪市平、井
　上成美来訪す、
卅一日、平川泉吉、相良益次郎、八田三喜、原平吉来訪す、○姉崎

の宅を訪ふ、

巽軒日記

明治三十七年（西暦一九〇四）

一月

一日、宮中拝賀、○井上健児、仝俊雄、仝静子、座親玄哉、吉富恵、野田義夫等来賀す、

二日、公爵近衛篤麿逝く、○年始の礼に赴く、

三日、年始の礼に赴く、○一日より三日に至るまで来賀者凡そ二百六十九人、賀状凡そ三百有十通、総計五百七十九人、外に二十二人連名の賀状あり、故に之れを合算すれバ、凡そ六百〇一人なり、

四日、黒田長成、山川健次郎の宅に年始の礼に到る、○境野哲、蔵原惟郭来訪す、○来賀者凡そ十三人、賀状五十有余通、

五日、宮中の新年宴会に赴く、○中黒写真師に到る、○井上勃爾来たる、

六日、近衛公爵の葬式に谷中に赴く、

七日、平川泉吉、高瀬武次郎、桑木厳翼来訪す、

八日、高瀬武次郎、青木倉蔵、桜井義肇、遠藤夏子来訪す、○「国民新読本」を校閲す、

九日、桑木厳翼、小林郁、松平直亮、菊池広、武井義来訪す、○「中学修身教科書」の奥附四百枚を文学社に、「日本陽明学派之哲学」の奥附一百枚を冨山房に付与す、○「修身教会雑誌」発行の祝文を井上円了に送る、○大森明雄に答書を送る、○田口暁三及び中島美喜に答書を送る、

十日、地代拾壱円確定の事を村松喜太郎（東京電気鉄道株式会社庶務課長）に送る、○福岡元治郎来訪す、○学士会院に赴く、○堀内源太郎に書状を送る、○古今詩選を森槐南に送る、

十一日、芳賀矢一に日本歌選を送る、○中村一之及び佐伯俊二に答書を送る、○赤穂義人録及び駿台雑話を読む、○塩谷温来訪す、

十二日、斎藤精輔、桜井義肇、姉崎正治、小野藤太来訪す、

十三日、吉田夫婦帰来る、

十四日、徳田浩司、長谷川誠也来訪す、○国語調査会に赴く、

十五日、中学修身教科書の奥附一百枚を文学社に付与す、

十六日、沼田藤次、綾部惣兵衛、野末嘉七、河内雅渓、小林郁来訪す、○夜、「時代思潮」の発行祝賀会に精養軒に赴く、幸田露伴、三宅雄次郎、北里闌、村田勤等と会見す、

十七日、坂上忠之介、荘資親、斎藤木、安村暁雲、桜井義肇、吉田熊次来訪す、○「日本現今人名辞書」の序を田中重策に送る、

十八日、冨尾木知佳、市村淳士、荘資親、桜井一義、松井知時来訪す、○「故落合直文君を追悼するの文」を金子薫園に送る、

十九日、井原豊作来訪す、○書状を村松喜太郎に送る、

二十日、小山東助来訪す、○「時事偶感」を桜井義肇に送る、

廿一日、独逸公使館の招燕に赴く、Thiel,Menge,Haas諸氏と会見す、三並良及び大森某亦来会す、

廿二日、国語調査会に赴く、

廿三日、高橋正熊来訪す、○明治史発行の相談会に上野精養軒に赴く、

廿四日、荘資親、東敬治、坂上忠之介来訪す、○午后、画宝会に上野桜雲台に至る、橋本雅邦、濱尾新、金山尚志、黒須博吉、高田早苗と会見す、
廿五日、吉田熊次来訪す、
廿六日、酒井宝祐、山田源一郎来訪す、○Maître, Couchoud二氏を訪問す、上田駿一郎亦座にあり、
廿七日、
廿八日、近角常観大学に来訪す、
廿九日、国語調査会に赴き、尋いで歌道奨励会一周年の祝に鍋島侯爵邸に赴く、田中光顕、渡辺千秋、藤波言忠、永岡護美、木村正辞、井上頼国、小杉榲邨、権藤震二、本居豊頴、宮地厳夫、大口鯛二、等と会見す、席上演説をなす、
三十日、岩崎英重、井上精一来訪す、
卅一日、徳谷豊之助、片山国嘉、平田知夫、平川泉吉来訪す、

二月

一日、三井銀行に赴き、尋いで賀古鶴所に赴く、○夜、駿台雑話を読む、
二日、吉田乙竹二氏の送別会に富士見軒に赴く、
三日、内山正居、下中弥三郎来訪す、○賀古鶴所に赴く、○夜、駿台雑話を読む、
四日、友枝高彦来訪す、○田口和美逝く、○中学修身書三百枚の奥附を文学社に付与す、
五日、国鏡社員安田松魚、浦上某来訪す、○中学修身書の奥附三百枚を金港堂に付与す、○軍国大事此日を以て始まる、
六日、「倫理と宗教との関係」の奥附一百枚を冨山房に付与す、○波多野精一来訪す、○夜、波多野精一、吉田熊次及び友枝高彦の送別会に精養軒に赴く、菊池大麓、岡田良平等と会見す、
七日、坂上忠之介、安田松魚、風見謙次郎、椎尾弁匡、友枝高彦、吾妻兵治、浦上某、平川泉吉来訪す、
八日、「征露の歌」を作る、○日露開戦す、
九日、「征露の歌」を長谷川誠也に送る、○白鳥庫吉来訪す、○日本艦隊、旅順巷に於て大激戦をなす、
十日、従四位に陞叙す、
十一日、井上成美、得能文、斎藤精輔来訪す、○此日宣戦の詔勅出づ、
十二日、浅川是勝、中島万次郎来訪す、○国語調査会に赴く、
十三日、平川泉吉、沼田藤治来訪す、○検定試験の答案を読む、
十四日、若木広良、樋口秀雄、落合直幸、小林郁、高橋正熊、蠣瀬彦蔵、芝田徹心、間端吾来訪す、○学士会院に赴く、○不在中原平吉来訪す、○此日、旅順口に於て第二海戦あり、
十五日、若木広良来訪す、
十六日、駿台雑話を読了す、○春日、日進の両艦来著す、
十七日、
十八日、高橋直臣来訪す、
十九日、夜、平川泉吉来訪す、○検定試験を行ふ、
二十日、森良三郎、梅野駿二、泉道雄、依田久一郎来訪す、○鳩巣文集を読む、

廿一日、坂口才之助、井上成美、仝静子、高橋正熊、井上健児、仝俊雄、姉崎正治来訪す、
廿二日、若木広良来訪す、○雀部顕宜に大学に会見す、
廿三日、中島徳蔵、クーシュー来訪す、○中学修身教科書（倫理篇）の奥附五百枚を文学社に付与す、
廿四日、磯江潤、大学に来訪す、
廿五日、若木広良来訪す、
廿六日、国語調査会に赴く、○夜、平川泉吉来訪す、○女子修身教科書第一巻奥附一千枚及び第三巻の奥附五百枚を金港堂に付与す、
廿七日、河内雅渓外一名来訪す、
廿八日、三並良、曽根松太郎来訪す、
廿九日、吉田夫婦来たる、洋行期日迫するが為めなり、

三月

一日、勅語衍義の奥附千枚を敬業社に付与す、○金高喜一来訪す、○帝国大学令公布紀念祝賀式に大学に赴く、○帝国文学委員会に出づ、
二日、文科大学科目及び授業規程并に試験規定発布せらる、
三日、松井等来訪す、○女子修身教科書の奥附六百枚を金港堂に付与す、
四日、中学修身教科書の奥附五百枚を文学社に付与す、○吉田熊次欧洲に向って出発す、
五日、平川泉吉及び文学社手代某来訪す、○中村惕斎の講学筆記を読む、
六日、加藤玄智、○田中義能、小谷重、森山章之丞、中村久四郎、遠藤隆吉、斎藤精輔、桜井義肇、姉崎正治来訪す、
七日、女子修身教科書二百枚の奥附を金港堂に付与す、○興学会に赴く、
八日、中学修身教科書の奥附一千五百枚を文学社に付与す、
九日、西河龍治来訪す、○学科改正の旨意を文科大学々生に説明す、
十日、立野政次郎来たる、
十一日、春山作樹、新島源介来訪す、
十二日、小笠原実成、安藤勝一郎来訪す、○中学修身教科書の奥附千七百枚を文学社に付与す、○帝国文学会の春期大会に赴く、
十三日、平川泉吉、上田敏、太田資順、蠣瀬彦蔵及び学生二名来訪す、
十四日、雪ふる、
十五日、漢訳勅語を成美堂及び敬業社に送る、○女子修身教科書の奥附三千二百枚を金港堂に付与す、○石川栄司来訪す、○書状を千賀鶴太郎に送る、
十六日、中学修身教科書の奥附五千五百枚を文学社に付与す、○松平直亮、浅野陽吉来訪す、
十七日、若木広良、小林郁、中川市蔵来訪す、
十八日、国語調査会に赴く、○若木広良来訪す、
十九日、紀平正美、鷲尾順敬来訪す、○中学修身書の奥附一万五百枚を金港堂に付与す、
二十日、中学修身書の奥附千八百枚を文学社に付与す、○古藤田喜

助、酒井浩洋来訪す、○夜、画宝会に赴き「絵画の四要素を論じ、併せて日本画の将来に及ぶ」を演説す、
廿一日、中学修身書の奥附二千枚を金港堂に付与す、○深作安文、東敬治、遠藤隆吉、若木広良、河内雅渓、古川孝七、野末嘉七来訪す、○釈迦牟尼伝を橋本雅邦に送る、
廿二日、泉欽之丞、若木広良来訪す、
廿三日、小林郁、座親玄山、斎藤基次郎来訪す、
廿四日、市村瓚次郎来訪す、○Sir Edwin Arnold 逝く、
廿五日、椎尾弁匡、安藤勝一郎来訪す、○文科大学長辞任の願書を山川大学総長に送る、
廿六日、斎藤精輔来訪す、○夜、座親玄山夫婦を招待す、
廿七日、若木広良、総川猪之吉、蠣瀬彦蔵来訪す、○丁酉倫理会於て「男女交際論」を演述す、
廿八日、谷本富来訪す、○座親玄山夫婦及び玄斉等を富士見軒に招待す、
廿九日、吉田静致、野田義夫、三沢糾、及び石橋某来訪す、
三十日、中島徳蔵、小林郁、沼田藤治、原平吉、安倍叔吾、平川泉吉、竹林規矩夫来訪す、○「日本学生宝鑑」の原稿を大倉書店に付与す、○「中学修身」の奥附二千枚を文学社に付与す、
卅一日、平川泉吉、城戸誠太郎、総川猪之吉、石橋愛太郎、高橋正熊来訪す、

四月

一日、願に依りて文科大学長を免ぜらる、○倫理教科書の奥附一千五百枚を金港堂に付与す、○城戸誠太郎、赤間富次郎、玉置徳全、磯江潤、時田義一来訪す、
二日、泉道雄、西河龍治、中川市蔵、座親玄山、斎藤基次郎来訪す、○パウルゼン氏の倫理学を読む、
三日、黒田真洞、城戸誠太郎来訪す、○「戦争と平和とを論じ、併せて非戦論の可否に及ぶ」を成功雑誌社に付与す、
四日、斎藤精輔、泉道雄、平川泉吉、杉浦鋼太郎来訪す、
五日、中学修身三千枚及び女子修身三千枚の奥附を金港堂に付与す、○小林郁、阿部伝、坪井九馬三来訪す、○姉崎正治、文科大学教授となる、
六日、大成中学の卒業式に臨み、一場の演説をなす、○姉崎袖子、増子、伊藤六蔵来訪す、○友枝速水より巻柿を送り来たる、
七日、小林郁、伊藤朝往来訪す、○野田義夫、春山作樹二氏の送別会に大学集会所に赴く、
八日、春山作樹、富士沢信隆来訪す、○釈尊降誕会に赴き、一場の演説をなす、○女子修身三巻の奥附五百枚を金港堂に付与す、○中学修身一千枚の奥附を文学社に付与す、
九日、平川泉吉、望月信亨、北村教厳、小田切夫人来訪す、○青峰良教をして速記せしむ、
十日、京華学校の卒業式に赴く、土方久元、平田東助等と会見す、○倫理五百枚の奥附を金港堂に付与す、○笹川種郎、瀧川重義、古藤田喜助、蠣瀬彦蔵、小笠原実成、石井浪平来訪す、
十一日、宇野哲人、森良三郎来訪す、○夜、野田義夫来る、

十二日、女子修身一千枚の奥附を金港堂に付与す、○布施知足、十時弥来訪す、○女子修身三千枚の奥附を金港堂に付与す、○津田純一に答書を送る、
十三日、宇野哲人来訪す、○斎藤緑雨（賢名）逝く、益軒年譜を読む、○敵将マカロフ旗艦と共に沈没す、
十四日、中学修身二千枚の奥附を文学社に付与す、
十五日、女子修身五百枚中学修身二百枚の奥附を金港堂に付与す、○国語調査会に赴く、○姉崎正治来訪す、
十六日、弘道会総会に於て「教育家としての孔子」を演説す、○不在中石橋五郎来訪す、
十七日、中学修身五百枚の奥附を文学社に付与す、○森山章之丞、小杉榲邨、高橋龍雄、木山熊次郎来訪す、○書状を宮本正貫に送る、
十八日、東京帝国大学評議員に命ぜらる、
十九日、「戦争と教育」の訂正を国民教育社に送る、
二十日、序文の校正を鍾美堂に、字書の原稿を三省堂に送る、○村上栄、御礼の為めに来たる、
廿一日、倫理教科書百六十五枚の奥付を金港堂に付与す、○成瀬仁蔵、小野藤太、沼田藤治来訪す、○Höffding, Ethik 及び Wundt,Vorlesungen über die Menschen und Thierseele を読む、○吉田宇之助大学に尋ね来たる、
廿二日、Wundt,Vorlesungen über die Menschen und Thierseele を読む、○国語調査会に赴く、○Samuel Smiles 逝く、九十一歳、
廿三日、国庫債券七拾六円五拾銭を払い込む、○今泉定介、小谷重来訪す、○勅語衍義千部の奥附を林平次郎に付与す、○Wundt, die Menschen und Thierseel 及び貝原益軒の自娯集を読む、○書状を成瀬仁蔵に送る、
廿四日、酒井真、皆川正禧、菊池季吉、得能文、佃与次郎来訪す、○中学修身一千枚の奥附を文学社に付与す、○書状を萩谷孝至、児玉実徳に送る、○Alexander, Moral Order and Progress を読む、
廿五日、女子修身五百枚の奥附を金港堂に付与す、○広月淩来訪す、○夜、自娯集を読む、
廿六日、田中宮内大臣を訪ふ、○小笠原実成、若木広良来訪す、遇はず、公用の為めなり、○「戦争と教育」とを訂正す、
廿七日、「戦争と教育」を育成会に付与す、○麻生正蔵来訪す、○高田忠周の「漢字原流攷」を読む、○書状を桑木厳翼及び外一名に送る、
廿八日、Alexander, Moral Order and Progress を読む、○河村前（東京感化院慈善会職員）、小山内大六（日本新聞社）来訪す、
廿九日、中島徳蔵、小山内大六来訪す、○国語調査会に赴く、○Mill, Utilitarianism 及び Alexander, Moral Order and Progress を読む、○「戦争と教育」を訂正す、
三十日、「戦争と教育」の訂正を民友社に付与す、○小山内大六をして筆記せしむ、○書状を村松喜太郎に送る、○「戦時の教育談」を日本新聞社に付与す、

五月

一日、「男女交際論」を訂正す、○吉田熊次の社会的倫理学成る、
○「戦争と教育」国民新聞に出づ、
二日、「戦時の教育談」日本新聞に出づ、○中島徳蔵、宇野哲人来訪す、
○児玉実徳より電報来たる、○端書を皆川正禧に送る、
三日、小谷重、常盤大定来訪す、
四日、高田忠周の「漢字原流攷」を読了す、○高橋亨来訪す、
五日、「戦争と人道との関係」の訂正を金港堂に送る、○木山熊次郎来訪す、○頤生輯要を読む、
六日、年表草案調査委員被仰付、○中学修身書五百部の奥附を金港堂に付与す、○国語調査会に赴く、○夜、外山博士懐旧談話会に大学会議所に赴く、濱尾新、冨井政章、菊池大麓等と会見す、○黒木千尋逝く、
七日、小山内大六をして筆記せしむ、○藤岡作太郎、太田資順、森山章之丞、平川泉吉来訪す、○書状を内田周平に送る、
八日、内田周平来訪す、○学士会院に赴く、
九日、吉川半七、竹内喜太郎来訪す、○夜、姉崎正治来る、
十日、杉山耕夫来訪す、○桜井一義、日本女学校演説依頼の為めに来る、
十一日、
十二日、吉田宇之助及び仏教中学生徒三人来訪す、○中学修身五百枚の奥付を文学社に付与す、
十三日、国語調査会に赴く、
十四日、中洲母堂より書状来たる、○書状を黒田真洞、岸田美郎、小豆沢英男に送る、○高崎正風来訪す、○夜、栗野公使の歓迎会に赴く、黒田長成、寺尾寿、小野隆助、松本健次郎及び安川某等と会見す、
十五日、中島徳蔵来訪す、○自娯集を読む、
十六日、平川泉吉、蜷川龍夫来訪す、○Höffding, Die grundlage der humanen Ethik を読む、
十七日、沼田藤次、若木広良来訪す、○Höffding, Die grundlage der humanen Ethik 及び谷本冨の論文を読む、○「教育家としての孔子」を訂正す、
十八日、谷本冨の論文を読了す、
十九日、原平吉来訪す、○「教育家としての孔子」の訂正を松平直亮に送る、
二十日、Höffding, Die grundlage der humanen Ethik を読む、○文学社の手代来たる、
廿一日、帝国年表委員会に赴く、○村上素一郎、玉水俊虥来訪す、○此日憂二耳鳴一、蓋為二感冒一也、○倫理三百枚修身五百枚の奥附を金港堂に付与す、
廿二日、大庭雄貴、井上頼国、蠣瀬彦蔵来訪す、○此日耳鳴未レ已、
廿三日、平川泉吉、赤津正親来訪す、○日本学生宝鑑の校正始めて来たる、○夜、耳鳴始止、
廿四日、日本宗教家大会に赴く、江原素六、島田三郎、石川喜三郎、小崎弘道、山鹿旗之進、黒田真洞、本居豊穎、大内素(ママ)巒等と会見す、

〔頁下部に「宗教家懇親會」の新聞記事切抜貼付〕
廿五日、書状を由比質に送る、
廿六日、小笠原実成来訪す、○代人をして三島通良母冨貴子の葬式に赴かしむ、
廿七日、国語調査会に赴く、
廿八日、村上正五郎、芝田徹心来訪す、○「衛生上の注意」の訂正を大倉書店に送る、
廿九日、中島徳蔵、清水金右衛門、波多野精一、姉崎夫婦来訪す、
三十日、本学年の講義を了はる、○吉田熊次、正七位に叙せらる、
卅一日、Manufacturer Insurance Company に加入し、金三百八拾五円八拾銭を払込む、受取人ハ土肥竹次郎、二十年の養老保険なり、○平川泉吉来訪す、○三井銀行に赴く、

六月

一日、桜井義肇、芝田徹心来訪す、
二日、境野哲来訪す、
三日、荒浪市平をして速記せしむ、○国語調査会に赴く、
四日、帝国年表委員会に赴く、○午后、文学博士会に赴く、○午前一時、工科大学の一部焼失す、
五日、市村瓚次郎、鷲尾順敬、村松喜太郎来訪す、○黒田家勧学所に赴く、
六日、小谷重来訪す、
七日、鎌田繁吉来訪す、○初学訓を読む、
八日、沼田藤次、蠣瀬彦蔵、塩塚虎吉来訪す、○書状を栗野慎一郎に送る、
九日、井上頼国来訪す、
十日、若木広良、原龍豊、有馬祐政来訪す、○不在中菊池季吉来訪す、
十一日、帝国年表委員会に赴く、○菊池季吉来訪す、
十二日、宇野哲人、滋賀貞、横井時冬、徳谷豊之助、平川泉吉、高瀬武次郎、矢野銀三来訪す、
十三日、平川泉吉、沼田藤次、建部遯吾来訪す、○書状を栗野慎一郎に送る、
十四日、雹降る、○堀江久勝、坪根清治来訪す、○東洋哲学の試験を行ふ、
十五日、哲学の試験を行ふ、○大村氏碑文を平出鏗次郎に返す、○寿子、野田礼雄と結婚す、
十六日、徳田浩司来訪す、
十七日、石橋郁郎、鷹野勇雄、菊池季吉来訪す、○「日本陽明学派之哲学」の奥附一百枚を冨山房に付与す、○教員検定委員に命ぜらる、
十八日、学習院学生（第六年級）と同じく撮影す、○鈴木寛（文学士 京華日報記者）来訪す、○帝国年表委員会に赴く、
十九日、桑木厳翼、境野哲、高島円来訪す、○不在中石井波平来訪す、○蟹江義丸逝く、
二十日、吉野平蔵来訪す、○「時局上より見たる宗教」の訂正を境野哲に送る、○建部夫人来訪す、○学生の論文を読む、
廿一日、宮内省に赴き、賜物を拝領す、○物集高見、姉崎袖子来訪す、

廿二日、吉田賢龍来訪す、○「教育家としての孔子」の訂正を松平直亮に送る、
廿三日、「統一的文明の人道」新公論に出づ、○新井田次郎、鈴木寛、井上静子来訪す、
廿四日、国語調査会に赴く、○「美的趣味の美成」を大倉書店に送る、
廿五日、山北与三郎来訪す、
廿六日、遠藤隆吉、宇野哲人、山北与三郎、河出静一郎、文学社手代某、得能文来訪す、○「時局に関する二大問題」を京華日報社に送る、
廿七日、隣地二百八坪六合七勺売渡登記結了す、登記料四拾六円三拾八銭也、○小倉孝治、蠣瀬彦蔵来訪す、○「礼法の心得」を大倉書店に送る、
廿八日、吉田静致、守屋恒三郎、菅沼寅蔵来訪す、
廿九日、検定試験問題を文部省に送る、○桑木厳翼、藤井専髄来訪す、
三十日、Em.Raguet、松平治郎吉、吉田静致、井上健児、徳田浩司、乗杉嘉寿、三沢糾、社家間房吉、井上成美来訪す、○此月荻原雲来の為めに三井に支払いしもの、金弐拾九円六拾四銭也、

七月

一日、若木貞一来訪す、○国語調査会に赴く、
二日、淀野耀淳、徳谷豊之助、太田資順、河出静一郎来訪す、○帝国年表委員会に赴く、○「時局より見たる武士道」を徳田浩司に送る、○「時局より見たる宗教」新仏教に出づ、
三日、高等師範に蟹江義丸氏の追悼会に臨み、一場の演説をなす、○斎藤精輔、大島正徳及び国文学科卒業生来訪す、○不在中田中義能、湯浅廉孫、中島徳蔵来訪す、
四日、蜷川龍夫、三島復、菊池季吉、木山熊次郎来訪す、
五日、患二腹痛一、
六日、岡島誘、小塚斉、大塚保治、有馬祐政、池田夏苗来訪す、
七日、堀江久勝、田中義能、原平吉、文学社の手代鈴木某来訪す、○夜、穂積陳重、北里柴三郎、菊池大麓三氏の送別会に植物園に赴く、梅謙次郎、冨井政章、三浦謹之助、池田菊苗、戸水寛人、ブリデル等と会見す、○「自警及び座右銘」を大倉書店に付与す、
八日、坂根栄吉、木内喜右衛門来訪す、○国語調査会に赴く、○夜、文科大学懇親会に赴く、
九日、三島復来訪す、○「孔子研究序」を金港堂に送る、○波多野精一独逸に出発す、
十日、沼田藤次、井上健児、井上成美、高桑駒吉来訪す、○佃与次郎をして速記せしむ、○東京学士会院に赴く、○此日風雨、
十一日、大学の卒業式に赴く、卒業生総計四百七十四人、○高橋亨来訪す、
十二日、「先哲遺訓」を大倉書店に、「蟹江博士追悼演説」を金港堂に、「時局に就て学ぶべき教訓」を博文館に送る、○加藤玄智来訪す、
十三日、柿山清、外崎覚、湯浅廉孫来訪す、
十四日、厳修、高逸、井上成美、仝静子、伊沢夫人来訪す、
十五日、平川泉吉、姉崎正治来訪す、○「時局に関する二大問題」世界に出づ、
十六日、阿部維厳、元良夫人来訪す、○中元到来物如レ左、

一、品料金五円　黒田家
一、羅一反（箱入）　冨山房
一、ビール一打　蜷川
一、蓐布　伊藤六蔵
一、菓子箱　朝倉屋
一、ハンケチ壱箱　大倉書店
一、菓子箱　元良
一、茶碗（箱入）　遠藤
一、反物　伊沢
一、浪花すだれ　三省堂
一、反物　磯江潤
一、菓子箱　野田書店
一、菓子箱　済美堂
一、文房具壱箱　同文館
一、ビスクキット壱箱　斎藤
一、鶏卵壱箱　笹川

十七日、福岡元治郎、蠣瀬彦蔵、徳田浩司来訪す、○夜、間千代来たる、

十八日、徳田浩司、小笠原実成、矢野仁一来訪す、○西沢之助より鯉七尾送来たる、

十九日、斎藤精輔、二宮熊次郎来訪す、○書状を西沢之助、松村茂助に送る、○夜、小谷重、横井時敬と冨士見軒に会食す、○宗教家大会彙報送り来たる、

二十日、勝田吉次郎来訪す、

廿一日、乗杉嘉寿、蠣瀬彦蔵来訪す、○「武士道」の筆記を徳田浩司に送る、

廿二日、平川泉吉、高木菊治郎来訪す、

廿三日、中村和之雄来訪す、○此日迅雷、

廿四日、横井時冬、姉崎袖子来訪す、

廿五日、岡島誘来訪す、

廿六日、小林治郎、佐伯利麿、中島徳蔵、原平吉、蠣瀬彦蔵、松永武雄の妻来訪す、

廿七日、福岡元一郎、高木菊治郎、蜷川龍夫来訪す、○夜、村上元子来訪す、

廿八日、沼田藤次、原平吉来訪す、○文学社より借用証書二通を送来たる、○小川一真をして児輩の写真を取らしむ、

廿九日、中村和之雄、北村教厳来訪す、夜、文明堂来たる、

三十日、宇野哲人、蠣瀬彦蔵、ラゲー、原平吉、森山章之丞、片山正雄来訪す、

卅一日、開目抄を読む、○蟹江氏の「孔子研究」成る、

八月

一日、平川泉吉、八木沼源八来訪す、○開目抄を読む、○「時局上より見たる武士道」中央公論に出づ、

二日、樋口秀雄、小豆沢英男来訪す、

三日、開目抄を読む、

四日、「蟹江博士追悼会に於ける所感」教育界に出づ、○冨士沢信隆、

佐伯俊二、浦谷熊吉、加瀬駒太郎、西崎憲英等より暑中見舞状来たる、
五日、川口申雄、麻田駒之助、長谷川誠也、高橋龍雄、茨木清次郎、加藤直士来訪す、
六日、有馬祐政、岡部為吉、高橋正熊来訪す、
七日、服部宇之吉、小野竹三、桑木厳翼、東敬治来訪す、○夜竹林規矩夫来訪す、
八日、上岡市太郎、笹倉新治より暑気見舞状来たる、○野田義夫より哲学辞書原稿来たる、
九日、
十日、小林義則、平川泉吉、間端吾、原平吉来訪す、○桑原隲蔵、粒良市三郎、中村寅松より暑中見舞状来たる、
十一日、村上元子来訪す、
十二日、速水滉、小林義則、本多辰次郎、岡田正之来訪す、
十三日、小田切良太郎、加藤直士、島田蕃根、千葉亀雄、姉崎正治、臼井義令来訪す、
十四日、蠣瀬彦蔵、小豆沢英男来訪す、
十五日、磯江潤、原平吉、関如来来訪す、
十六日、尾原亮太郎、若木広良、高宮金治来訪す、
十七日、平川泉吉、尾原亮太郎来訪す、
十八日、三沢糾、尾原亮太郎来訪す、○「時局雑感」及び吉田熊次の文を博文館に送る、
十九日、谷本冨、芝田徹心より暑中見舞状来たる、○開目抄、報恩抄、選択集を読む、
二十日、加藤玄智、塩谷温より暑中見舞状来たる、○冨田秀吉、西村稠、蟹江操子に書状を送る、
廿一日、豊住繁蔵、鹿田静七に書状を送る、○新約全書中の使徒行伝及び報恩抄を読む、
廿二日、ニーチェ及び撰時抄を読む、○平川泉吉来訪す、○此日、有二微恙一、
廿三日、尾原亮太郎、由比質来訪す、○撰時抄、華厳経及びニーチェを読む、
廿四日、高瀬武次郎来訪す、○垂加草、闇斎年譜、ニーチェ及び遠藤隆吉の論文を読む、
廿五日、高瀬武次郎、白鳥庫吉来訪す、○ニーチェを読む、○検定試験の答案を調査す、
廿六日、日本学生宝鑑の奥附一千枚を大倉書店に付与す、○書状を横井時冬、平川泉吉、斎藤精輔、田中重策に送る、○夜、姉崎正治来訪す、○検定試験の答案を読む、
廿七日、斎藤木来訪す、○夜、蠣瀬彦蔵、平川泉吉を招燕す、○野中兼山伝を読む、
廿八日、菊池大麓来訪す、○使徒行伝及び華厳経を読む、
廿九日、児玉実徳来訪す、○ニーチェ、垂加草及び検定試験の答案を読む、
三十日、書状を蓮沼武夫、明石孫太郎、磯江潤に送る、○垂加草を読む、○春山作樹来訪す、

廿一日、トルストイのOn Life及び選択集を読む、○「時局雑感」太陽紙上に出づ、○津田純一来訪す、

九月

一日、十時弥、岡部為吉、成瀬仁蔵来訪す、○選択集及び白石詩草を読む、

二日、若木広良、井上静子来訪す、○午后三時頃男児出産、益之進と命名す、○選択集を読む、○我軍遼陽を陥る、

三日、内山正居来訪す、○検定試験答案を読む、○東洋哲学の原稿を修正す、

四日、乗杉嘉寿、深作安文、蜷川龍夫、姉崎袖子来訪す、○使徒行伝及び試験答案を読む、

五日、小笠原実成来訪す、○トルストイの日露戦争論を読む、○夜、検定試験答案を読む、

六日、元良勇次郎、仁平久来訪す、○夜、検定試験の答案を読む、○スガ子東京府女子師範学校附属小学校に入学す、

七日、宇野哲人、斎藤木、樋口秀雄来訪す、○夜、試験の答案を読む、

八日、日本学生宝鑑成る、○井上成美帰来る、○蠣瀬彦蔵来訪す、

九日、湯浅廉孫、桑原騭蔵、勝木奇熊来訪す、○姉崎増子男児を生む、○夜、検定試験答案を読む、

十日、「日本学生宝鑑」の広告始めて新聞に出づ、○平川泉吉来訪す、○トルストイの戦争論を読む、○夜、検定試定答案を読む、

十一日、大塚保治来訪す、○丁酉倫理会に赴く、○不在中加藤玄智来訪す、○平川泉吉厳手県福岡町に赴く、

十二日、斎藤精輔、三沢糾来訪す、○夜、丹波、佐藤、元良三氏の送別会に大学集会所に赴く、○南学伝を読む、

十三日、廻間武三、仁平久来訪す、○「時局雑感」を太陽編輯所に送る、○書状を広江万次郎及び博多川端に送る、○夜、興学会に赴く、○学生宝鑑」を佐々木信綱に送る、

十四日、内田周平、仁平久、大塚武松、小笠原均来訪す、○夜、ヴントのAufgabe der Philosophieを読む、

十五日、渡辺則勝、小笠原均来訪す、○夜、検定試験の答案を読む、○金十円の為換を博多中洲に送る、

十六日、元良、丹波、佐藤三氏の洋行を送る、○小林照朗来訪す、○国語調査会に赴く、

十七日、「礼法上の注意」を仁平久に送る、○ダグラス及び広田弘毅、間千代来訪す、○ヴントのAufgabe der Philosophieを読む、○夜、検定試験の答案を読む、

十八日、桑木厳翼、柴田静江、井上某、鳥海秀子来訪す、○ウントのAufgabe der Philosophieを読了す、

十九日、乗杉嘉寿来訪す、

二十日、相良益次郎、姉崎正治、清水金右衛門来訪す、○「青年の読物」を金港堂に送る、

廿一日、検定試験の答案を読む、○宮小路康文逝く、

廿二日、桑木厳翼来訪す、○検定試験答案を読む、

廿三日、村上龍英、高瀬武次郎来訪す、○検定試験の成績を文部省

に、追試験の成績を文科大学に送る、
廿四日、大島正徳、樋口秀雄来訪す、○ブレンタノ氏のUeber die Zukunft der Philosophieを読む、
廿五日、前田多門、阿部維巌、加藤玄智、斎藤精輔、井上成美、井上静子、中島徳蔵来訪す、
廿六日、渡辺則勝来訪す、○小泉八雲逝く、
廿七日、中島徳蔵来訪す、因りて「学生宝鑑」を贈る、○喬松子を読む、
廿八日、葉山万次郎来訪す、
廿九日、書状を建部遯吾、宮小路政衛に送る、
三十日、敬斎箴を読む、○国語調査会に赴く、○長谷川誠也来訪す、

十月

一日、「時局雑感」太陽紙上に出づ、○ヴントのEinfluss der Philosophie auf die Enfahrungsurissenschaftenを読む、
二日、須田直太郎、沼田藤次、石川松渓、皆川正禧、遠藤隆吉、清水金右衛門、常盤大定、原平吉、小林一郎来訪す、
三日、フローレンツを訪ひ、帰途姉崎に立寄る、
四日、松平直亮、姉崎正治来訪す、
五日、
六日、岡島誘来訪す、○佃与次郎をして速記せしむ、
七日、田中義能来訪す、○「学生宝鑑」再版の奥附一千枚を大倉書店に付与す、○服部繁子以外婦人二人来たる、○「中興鑑言」を読む、
八日、小泉八雲の逸事を民友社に送る、○夜、中島為喜来訪す、
九日、芝田徹心、森山章之丞、井上成美来訪す、○国学院に於て「神道に関する意見」を演説す、○長岡護全の葬式に書生を遣はす、○雪子、姉崎に招燕せらる、
十日、古山六郎来訪す、○夜、暴風雨、
十一日、吉川万次郎来訪す、
十二日、古山六郎来訪す、○不在中、若木広良来訪す、
十三日、「日本学生宝鑑」を冨田春山及び亀谷馨に送る、○若木広良青森県第四中学に赴く、○岡部為吉来訪す、
十四日、「日本学生宝鑑」を松平直亮、市村瓚次郎、冨田順吉に送る、○山根勇蔵来訪す、○国語調査会に赴く、
十五日、「学生宝鑑」の奥附一千枚を大倉書店に、倫理教科書上巻の奥附百九十九枚を金港堂に付与す、○吉田宇之助、児玉実徳、大島直治、中村久四郎来訪す、
十六日、西内敏清、岩瀬三治、岡崎遠光、園田春耕、豊原清作来訪す、○哲学会に於て「神道の過去及び将来」を演説す、
十七日、宮中に参内す、○東京市教育会に於て「浮田佐藤二氏の論争に就いて」を演説す、○「釈迦無尼伝」の奥附五百枚を文明堂に付与す、○此日、大岡育造、黒岩周六、斯波淳六郎、島田俊雄等と会見す、
十八日、吉田豊吉、山岸光宣、桜井義肇来訪す、○日本女学校に赴き、一場の演説をなす、西沢之助、早見純一、井上頼国等と会見す、○「時局雑感」の原稿を博文館に送る、

十九日、有馬祐政、堀江久勝、斎藤庸一郎、仝儀八等来訪す、○金拾円を博多中洲に送る、○溝淵進馬、熊谷五郎の為めに来る、
二十日、書状を甘木、中洲、川端及び谷本冨に送る、○夜、先達遺事を読む、
廿一日、西沢之助来訪す、○国語調査会に赴く、
廿二日、古橋源六郎、井上静子来訪す、○雪子静子共に女子大学運動会に赴く、
廿三日、小笠原実成、吉田豊吉、小山内大六来訪す、
廿四日、芝山槐郎、小谷重、市村瓚次郎来訪す、○「日本学生宝鑑」を藤岡作太郎に送る、○「浮田氏の答弁を読む」を日本新聞社に付与す、
廿五日、「浮田氏の答弁を読む」日本新聞に出づ、○松平直亮、須田直太郎来訪す、
廿六日、「学生宝鑑」第四版一千枚の奥附を大倉書店に付与す、○新田覚二来訪す、
廿七日、
廿八日、赤堀又次郎及び丸山生来訪す、○国語調査会に赴く、
廿九日、史料展覧会に赴く、○午后、樗牛会に赴く、佐々醒雪、大町桂月、岡田正美等と会見す、
三十日、福井利吉郎、平田知夫、小柳司気太来訪す、
卅一日、桑木厳翼の送別会に大学集会所に赴く、○夜、小林一郎来訪す、

十一月

一日、須田直太郎、佃与次郎来訪す、○浮田和民の「日露戦争の倫理観」を読む、
二日、蜷川龍夫、原平吉、小山内大六来訪す、
三日、天長節の祝宴に宮中に赴く、○長谷川福平、姉崎正治来訪す、
四日、「現今我邦に行はる、謬見の種類」を日報社に送る、○菅沼性蔵、有馬祐政来訪す、○国語調査会に赴く、
五日、帝国年表委員会に赴く、○小山内大六、斎藤儀八来訪す、
六日、遠藤隆吉来訪す、○書状を谷本冨、織田万に送る、
七日、補永茂助来訪す、○夜、興学会に赴く、
八日、内山正居、沼田藤次、鈴木徳三郎来訪す、○「孔夫子伝序」を蜷川龍夫に送る、
九日、岡本監輔逝く、
十日、本田幸之助、原平吉来訪す、○「日本学生宝鑑」を井芹経平、尾原亮太郎、加瀬駒太郎、阿部伝に送る、○「現今、我邦に行はる、謬見の種類」日々新聞に出づ、
十一日、神皇正統記を読む、○津野慶太郎、祝儀麿に書状を送る、
十二日、徳川達孝、手塚光貫来訪す、○年表会に赴く、
十三日、香川悦次、板倉折枝、長谷川福平来訪す、○学士会院に赴く、○国歌評釈を読む、
十四日、堀江久勝、荘資親来訪す、○吉木竹次郎をして速記せしむ、○夜、盗難あり、然殆無レ所レ失、○国歌評釈を読了す、
十五日、
十六日、

十七日、
十八日、中島徳蔵来訪す、○国語調査会に赴く、
十九日、堀田基来訪す、○千葉師範学校に赴き、土曜会の為めに「精神修養法」を演説す、○本田幸之助、山口斉来訪す、
二十日、加瀬駒太郎、甲元清右衛門等に書状を送る、○十時弥、落合初太郎来訪す、
廿一日、日本女学校に於ける演説筆記を木村知治に送る、
廿二日、大掃除、○夜中有レ盗来、遂不レ能二侵入一、
廿三日、田口五郎作、高瀬武次郎、原平吉来訪す、
廿四日、「日本人」記者をして筆記せしむ、○此日、所労の故を以て大学の講義を休む、○渡辺南隠逝く、
廿五日、「日本学生宝鑑」第五版の奥附三百枚を大倉書店に付与す、○土井林吉来訪す、○国語調査会に赴く、○菊池大麓来訪す、
廿六日、歌道奨励会に有栖川宮に赴く、○吉田賢龍、田村茂与子来訪す、○「日本の強大なる理由」の筆記訂正を八太徳三郎に送る、
廿七日、木村鷹太郎、書肆尚友館主人、徳谷豊之助、蠣瀬彦蔵、内田貢、長谷川誠也、有馬祐政、寺野精一、桂多三、桑木厳翼来訪す、
廿八日、赤堀又次郎来訪す、○「日本の強大なる理由」を「日本人」記者に送る、
廿九日、修身調査会に文部省に赴く、○商業修身教科書第三巻を読了す、○小谷重、津野菊子来訪す、
三十日、三井銀行に赴く、○帝国議会開院式挙行、

十二月

一日、春枝臥レ病、
二日、国語調査会に赴く、
三日、「日本学生宝鑑」を哲学館に、「心学叢書の跋」を赤堀又次郎に送る、○帝国文学会評議員会に桜館に赴く、○Volkelt, Erfahrung und Denken を読む、
四日、第六年級修身科教案を菊池学習院々長に送る、○平川泉吉来訪す、
五日、「日本の強大なる原因」日本人第四百号に出づ、○林吉朗、原田秀泰来訪す、○浅見絅斎が聖学図講義を読む、○書状を加瀬駒太郎に送る、
六日、大学評議会に赴く、○夜、桑木厳翼来訪す、
七日、福来友吉、有馬祐政、林吉朗来訪す、
八日、井上円了、小笠原均、村井清佐、荻本立三来訪す、○文学社手代来談す、
九日、春枝、大学病院に入院す、
十日、桜井一義、村上龍英、秋山悟庵来訪す、
十一日、藤岡作太郎、小林一郎、沼田藤次来訪す、○学士会院に赴く、
十二日、渡辺良法、竹内周治、鷲尾順敬、岡島誘来訪す、○先達遺事を読む、○審美会員大隈某演説を依頼し来たる、故ありて之れを辞す、
十三日、益之進の種痘を行ふ、○哲学館の晩餐会に上野精養軒に赴く、○米人 guy と会見す、○朝永三十郎、姉崎正治来訪す、
十四日、「東洋歴史大辞典序」を同文館に送る、

十五日、朝永三十郎、中島徳蔵、中村巌来訪す、
十六日、国語調査会に赴く、○平川泉吉来訪す、○金五円の為換を加瀬駒太郎に送る、
十七日、「草茅危言序」を桜井一義に送る、○葉山万次郎、林吉朗来訪す、○「学生宝鑑」第五版の奥附二百枚を大倉書店に付与す、
十八日、菊池季吉来訪す、○保建大記を読む、
十九日、林吉朗、石川松渓、森川智徳、菅沼性蔵来訪す、○保建大記、中興鑑言を読む、
二十日、佐村八郎、沼田藤次、新井勝弥、広井辰太郎来訪す、○夜中有二近火一、博進社焼尽、
廿一日、小山東助来訪す、○火事見舞の為めに来訪するもの、加藤玄智、高橋龍雄、麻田駒之助、亀井忠一、浅井慶助等、○新村出の送別会に大学集会所に赴く、
廿二日、宮内省に赴き、賜物を拝受す、○磯江潤、小山東助等来訪す、○速記者をして朝日新聞の為めに速記せしむ、
廿三日、井芹経平、栗原照子、小山東助、林吉朗、手塚光貴来訪す、
廿四日、「絵画の四要素」を安藤勝一郎に送る、○市村瓚次郎、新村出、山口志げ来訪す、○市川せつ来る、
廿五日、加藤玄智、末広幸三郎、酒井真来訪す、○追悼状を平田盛胤に送る、
廿六日、石幡伊三郎の葬式に青山に赴く、チール、アルコブレー、佐藤少将等と会見す、○高橋斌、加瀬駒太郎来訪す、○清子宣光を携へて銀座に赴く、
廿七日、新村出、林吉朗来訪す、
廿八日、春枝、大学病院を退院す、○秋山悟庵、井上静子来訪す、○年末の贈物を中洲、川端及び甘木に送る、
廿九日、「東西洋文明の異同及び調和」を亀谷馨に送る、○笹川種郎、元良夫人、石幡冨子来訪す、
三十日、「学生宝鑑」を野田義夫、赤津正親、浦谷熊吉、円藤鎮、松永武雄に送る、○戦争画を吉井及び宰府に送る、○陽明哲学の奥附五拾枚を冨山房に送る、○ビスキット二缶を津野慶太郎に、鴨二頭を笹川氏に、膝掛を入沢達吉に、ビール箱及び襟一枚を間氏に送る、○書状を岩崎行親、葉山万次郎、入沢達吉、小野藤太、横井時冬に送る、○長谷川誠也、菊池季吉、井上静子来訪す、○舞玉と鯉二尾を姉崎に、鴨二尾を笹川氏に送る、○東郷大将及び上村中将入京す、
三十一日、「学生宝鑑」の奥附三百枚を大倉書店に付与す、○西沢之助、田中義能、小笠原実成、原平吉来訪す、○鰹節手形を伊沢時田二氏に送る、○年末到来物如レ左

一、鴨二対	黒田家
一、鰹節手形三枚	図書会社
一、塗箱壱箇	同文館
一、ビール壱打手形	金港堂
一、浅草苔壱缶	林平次郎
一、大鮭壱尾	遠藤隆吉
一、鴨二羽	富尾木知佳

一、ビール壱箱　斎藤基次郎
一、ビール壱箱　円藤鎮
一、ビール壱箱　磯辺弥一郎
一、ドロップス壱罐　秋山悟庵
一、反物三反　小野藤太
一、花瓶　横井時冬
一、鯉魚九尾　西沢之助
一、菓子入　元良
一、反物　磯江潤
一、乾柿　野田義夫
一、鶏卵箱　吉川半七
一、菓子箱　浅倉
一、鶏卵箱　鳥海秀子
一、蜜柑箱　間端吾
一、海苔　尚友館
一、蜜柑箱　伊沢
一、海苔　田中義能
一、状紙状嚢入箱　冨山房

巽軒日記

明治三十八年（西暦一九〇五）

一月

一日、宮中に拜賀に赴き、尋いで東宮御所に詣る、○井上健児、仝俊雄、仝精一、斎藤基次郎等来賀す、○午后九時旅順陥落、

二日、午前久保田、山川、濱尾、伊沢、箕作、三宅等十三人の宅に至る、○中村久四郎来賀す、

三日、菊池大麓、辻新次、田中光顕、黒田長成、加藤弘之の宅に至る、○午后又年始の為めに西片町附近を歴訪す、

四日、フリッツ、スクリーバ逝く、

五日、新年宴会に宮中に赴く、○桜井一義、斎藤庸一郎、境野哲来訪す、

六日、青山墓地に至る、雨に遇ふて還る、

七日、追悼の為めスクリーバの宅を訪ふ、○書状を須田直太郎、菊池季吉、広井辰太郎、葉山万次郎に送る、○一日より七日に至る迄来賀者の名刺二百六十二、端書二百九十七、封書一百、合計六百五十九、○小谷重来訪す、○遠藤隆吉の論文を読む、

八日、「商業修身」の奥附二千九百八十七枚を金港堂に付与す、○蜷川龍夫、片岡久太郎、葉山万次郎来訪す、○学士会院に赴く、○不在中姉崎正治来る、○近思録致知篇を読む、

九日、笹川氏、川島氏来訪す、○第三皇孫を宣仁（ノブヒト）と命じ、光宮（テルノミヤ）と称せらる、

十日、長谷川誠也来訪し、山成氏松永氏亦来訪す、○興学会に赴く、○遠藤隆吉の論文を読む、

十一日、長谷川誠也、座親玄斉、斎藤千代子来訪す、○Volkelt, Erfahrung und Denken を読む、

十二日、七日以来の賀状を算ふるに、端書九十五、書状二十一、合計百十六、総計七百七十九、○有馬祐政及び中村敬宇未亡人来訪す、○「農業修身」原稿を校了す、○神皇正統記を読む、

十三日、秋山悟庵、小笠原均、小林治郎来訪す、○「中学修身」の奥附二千枚及び「農業修身」の原稿を金港堂に付与す、○国語調査会に赴く、○中興鑑言及び Volkelt, Erfahrung und Denken 并に Höffding, Psychologie in Umrissen を読む、

十四日、江部淳夫、渡辺鶴雲来訪す、○ Volkelt, Erfahrung und Denken 及び中興鑑言を読む、

十五日、遠藤隆吉、豊原清作、葉山万次郎、栗原照子、津野慶太郎、横山達三、田中義能来訪す、○倫理教科書三百枚の奥附を金港堂に付与す、

十六日、国庫債券を大学より受取る、○秋山悟庵来訪す、○Höffding, Psychologie in Umrissen を読む、

十七日、Höffding, Psychologie を読む、○大学評議会に赴く、

十八日、大隈為三、松涛泰巌、奥田正造来訪す、○Höffding, Psychologie 及び Paulsen, Einleitung in die Philosophie を読む、○不在中長谷川誠也来訪す、

十九日、葉山万次郎、笹川種郎、松村茂助、岸本孝太郎、小豆沢英男等に書状を送る、○書生柳愛之助来る、○Höffding,

Psychologieを読む、
二十日、帝国大学旅順陥落祝捷式を挙行す、○Höffding, Psychologieを読む、○国語調査会に赴く、○不在中白井新太郎来訪す、
廿一日、鈴木寛、柳堀正、白井新太郎、葉山万次郎来訪す、○「学生宝鑑」二百枚の奥附を大倉書店に付与す、○「絵画の四要素」帝国大学に出で「国家的道徳と世界的道徳」丁酉倫理講演集に出づ、○「教育雑感」を金港堂に送る、○Höffding, Psychologie及びPaulsen, Einleitung in die Philosophieを読む、
廿二日、吉田静致、田中義能、山口志げ、小笠原均来訪す、○大倉書店の招宴に菊隅に赴く、井上頼国、伴正臣、和田垣謙三、大町芳衛、登張信一郎、横田成年、関一等と会見す、○古川義夫、須藤求馬来訪す、故ありて遇ハず、
廿三日、石川松渓来訪す、○韞蔵録を読む、
廿四日、「師範修身」三百七十六枚の奥附を金港堂に付与す、○雪子大宮に赴く、○田村直一、森山章之丞来訪す、○韞蔵録を読む、
廿五日、「古学哲学」五十枚の奥附を冨山房に付与す、○Paulsen, Einleitung in die Philosophie, Wundt, Grundzüge der physiologischen psychologie及び易を読む、○金港堂の手代来る、
廿六日、易を読む、○文学社手代小林治郎来る、○書状を小杉熙、波多野貞夫及び有馬祐政に送る、
廿七日、清水金右衛門、柿原政一郎、秋山悟庵来訪す、○書状を桜井一義、石川松渓、松村正一、渡部薑之介に送る、○易及び韞蔵録を読む、○「哲学館大学革新交渉顛末」を読む、○此日早朝樹木悉く水晶を著け、桜樹の如きハ花を開くが如し、
廿八日、Adolf Kussmaul, Untersuchungen über das Seelenleben des neugeborenen Menschenを読む、○武士道叢書伝記部を訂正す、
廿九日、加藤玄智、有馬祐政、宮川大寿(トモトシ)、石川利之来訪す、○武士道叢書伝記部を訂正す、○書状を有馬祐政に送る、○此日、朝濃霧瑣屋外、
三十日、秋山悟庵、葉山万次郎来訪す、○韞蔵録を読む、○武士道叢書の伝記部を訂正す、○雪子をして栗原照子に書状を出さしむ、○吉田熊次、小豆沢英男等より書状来る、○副島種臣逝く、
卅一日、Wundt, Grundzüge der physiologischen psychologieを読む、○内田周平及び秋山悟庵に端書を送る、

二月

一日、三井銀行に赴く、○有馬祐政来訪す、○夜、雪、
二日、韞蔵録を読む、
三日、林博太郎来訪す、○「起信哲学」の序を作る、
四日、内山正如、隈本有尚、内田貢来訪す、○「起信哲学序」を愛宕活版所に付す、川北梅山逝く、梅山、名ハ長顒、幼名ハ新甫、享年八十四、〔頁下部に「川北梅山翁逝く」の新聞記事切抜貼付〕
五日、「中学修身」壱万七千枚の奥附を金港堂に付与す、○境野哲、豊原清作来訪す、
六日、「陽明哲学」五十枚の奥附を冨山房に付与す、○清水金右衛門、瀧田哲太郎来訪す、○副島種臣の葬式に青山墓地に赴く、本田種

竹、森槐南、山田奠南等と会見す、○入浴中中島徳蔵来訪す、不レ遇、
七日、中島徳蔵、井上円了、長谷川福平、福来友吉等来訪す、○書生をして真浄寺住職の葬式に赴かしむ、○妻、伊沢氏を訪問す、
八日、栗原照子来訪す、○「精神修養法」を椎名亀之助に、「練兵説略」を内山正如に送る、○不在中牧瀬五一郎来訪す、
九日、書状を須藤求馬、斎藤木、有馬祐政、古川義夫、乗杉嘉寿等に送る、○「教育家の刻下注意すべき要点」を同文館に送る、
十日、葉山万次郎、斎藤精輔来訪す、○図書会社の招燕に星ヶ岡茶寮に赴く、○Baelz, Ueber den kriegerischen Geist und die Todesverachtung der Japaner を読む、
十一日、紀元節の宴会に宮中に赴く、○吉田宇之助、阪口才之助来訪す、○Baelz, Ueber den kriegerischen Geist und die Todesverachtung der Japaner 及び The Soul of a Nation (reprinted from The Trines) を読む、
十二日、「古学哲学」五十枚の奥附を冨山房に付与す、○学士会院に於て「文明史上より見たる日本戦捷の原因」を演説す、○夜、井上俊雄、仝精一来訪す、
十三日、素餐録を読む、○「農業修身」三千枚の奥附を金港堂に付与す、○小林一郎来訪す、
十四日、一月十二日以来の賀状凡そ三十二、総計八百十一、○「中学修身」二百部の奥附を文学社に付与す、○長谷川誠也、桜井義肇、斎藤信策来訪す、
十五日、「釈迦牟尼伝」五百部の奥附を文明堂に付与す、○原平吉来訪す、○中村寅松及び高山栄一に書状を送る、
十六日、大日本続蔵経の予約をなす、○小笠原実成、小宮八十二来訪す、○不在中井上静子来る、
十七日、「戦捷の原因」日本新聞に出づ、○融道玄、高山栄一来訪す、○「女子修身」六千枚の奥附を金港堂に付与す、○国語調査会に赴く、○Höffding, Psychologie in Umrissen を読む、
十八日、宗像逸郎来訪す、○帝国年表会に赴く、○不在中藤岡勝次来訪す、○国史眼を読む、○書状を松村茂助に送る、○検定試験の答案を読む、
十九日、広江万次郎、森川智徳、高桑駒吉来訪す、○Wundt, Grundzüge der phys. Psychologie を読む、○倫理教科書一千枚の奥附を金港堂に付与す、
二十日、すみれ会を開き、一場の講演をなす、○松崎覚本来訪す、○書状を井上円了に送る、
廿一日、文部省に於て検定試験を行ふ、○不在中原龍豊来訪す、○書状を戸水寛人に送る、
廿二日、Shatton と大学に会見す、
廿三日、「陽明哲学」五十枚の奥附を冨山房に付与す、○佐村八郎来訪す、○大伴家持の歌を内山正如に送る、
廿四日、「武士道叢書」の序を内山正如に送る、○有馬祐政、中村久四郎来訪す、
廿五日、「日本人の戦争的精神」を国民新聞社に送る、○山崎新太

郎来訪す、
廿六日、藤岡勝二、乙骨三郎、座親玄山、正宗忠夫、石川松渓来訪す、○斎藤庸一郎亦来るも、会見すること能ハず、
廿七日、内山正如、森治部次郎来訪す、○礼記、近思録、静寄軒文集を読む、○哲学字彙の原稿第一冊を丸善に付与す、
廿八日、取消文を読売新聞社に送る、○秋山悟庵、須藤求馬、森良三郎来訪す、○礼記及びHume's Treatise of Human Natureを読む、○議会閉会、

三月

一日、礼記及び正学指掌を読む、
二日、小林郁、川合東流来訪す、○神皇正統記、正学指掌を読み、慶長以来諸家著述目録を検す、○「武士道叢書」の広告、太陽に出づ、
三日、「日本人の戦争的精神」国民新聞に出づ、○国語調査会に赴く、○東京府第二師範学校に赴く、○国史眼、神皇正統記、原古編を読み、慶長以来諸家著述目録を検す、○三井銀行に赴く、○斎藤庸一郎来訪す、○取消文、読売新聞に出づ、
四日、礼記、夏目氏の倫敦塔、Lafcadio Hearn, In Ghostly Japan, Wundt, System der Philosophie, Paulsen, Einleitung in die Philosophieを読む、
五日、田部井鉚太郎、矢野仁一、中島徳蔵、島文次郎、宮川大寿(トモトシ)、横井時冬来訪す、○Lafcadio Hearn's In Ghostly Japanを読む、
六日、「教育雑感」教育界に出づ、○熊谷五郎、北村教厳、望月信亨来訪す、○礼記及び原古編を読む、○書状を千賀鶴太郎に送る、○中洲老母病気再発の報あり、
七日、「教育家の刻下注意すべき要点」教育学術界に出づ、○田中宮相夫人伊与子の葬式に護国寺に赴く、○書状を大原孫三郎に送る、○有馬祐政来訪す、○松宮観山の学論を読む、
八日、中村寅松来訪す、○学論及びSchopenhauer's Über den Willen in der Naturを読む、○鳥海秀子逝く、
九日、岡嶋誘来訪す、○木川忠一郎をして速記せしむ、○学論及びHearn's In Ghostly Japanを読む、
十日、国語調査会に赴く、○妻、鳥海秀子の葬式に電通院に赴く、○礼記、学論、武訓及びSchopenhouer's Ueber den Willen in der Naturを読む、○信夫恕軒来訪す、彼れ酩酊せるを以て逢ハず、
十一日、書状を川端に送る、○乙骨三郎、斎藤精輔来訪す、○学論を読む、
十二日、「中学修身」五百枚の奥附を文学社に付与す、○中島徳蔵、瀧田哲太郎、斎藤庸一郎、沼田藤次、秋山悟庵来訪す、
十三日、吉田熊次の「修身教科書論」を読み、之を博文館に送る、○縫子、益之進を携へて出発し、博多に赴く、○田部井鉚太郎、佃与次郎来訪す、○乃ち佃氏をして速記せしむ、○「学生宝鑑」五百枚の奥附を大倉書店に付与す、○学論を読む、
十四日、「中学修身」千枚の奥附を文学社に付与す、○寺田天寿の葬式に書生を遣はす、○書状を千賀鶴太郎、大原孫三郎、岸田美

郎等に送る、
十五日、「女子の反省すべき要点」を「女子之友」に送る、○「師範修身」二千枚の奥附を金港堂に付与す、○不在中木山熊次郎来訪す、○吉田宇之助、内山正如来訪す、○八木光貫来訪せしも、遇ハず、
十六日、「中学修身」一千枚の奥附を文学社に付与す、○木山熊次郎、姉崎正治、有馬祐政来訪す、○大沢謙次の「体質改良論」を読む、
十七日、金三十円の為換を中洲に送る、○柿原政一郎、中島徳蔵、鷲尾順敬来訪す、○「史学家に対する希望」を高桑駒吉に送る、○「日本戦捷の原因を榎本勝多に送る、
十八日、隈本有尚、村松喜太郎、木山熊次郎来訪す、○学論を読む、
十九日、秋山悟庵、石川倉次、斎藤基次郎、小笠原実成来訪す、○慶長以来諸家著述目録を検す、○「中学修身」一千枚の奥附を文学社に付与す、○福井精一郎来訪す、遇はず、紹介状なきが為めなり、
二十日、宇野哲人来訪す、○届書を宮内省、学習院、及び帝国大学に送る、
廿一日、長田偶得、葉山万次郎、高崎行一、千賀鶴太郎に書状を送る、○電報を大原孫三郎に送る、○栗原照子、柿原政一郎来訪す、
廿二日、旅費九十円を中央金庫より受取る、○「中学修身」一千枚の奥附を文学社に付与す、○午后六時出発、汽車中近藤次繁の支那に赴くに遇ふ、
廿三日、午前七時二十七分、京都に着し、柊屋に投ず、上村観光、中島半狂、岸田美郎、谷本冨等来訪す、○「中学修身」一千枚の奥附を文学社に付与す、○夜、同志社に於て「日本民族の精神的発展」を講演す、湯浅吉郎等の諸教員と会見す、
廿四日、岸田美郎、高田早苗、山内晋卿、三浦周行来訪す、○千賀鶴太郎を訪ふ、○午后六、二〇京都出発、仝八、四九神戸着、投二西村一、○「中学修身」一千枚の奥附を文学社に付与す、
廿五日、午前七、〇〇神戸出発、午后十二時二十分岡山市着、以二雨天一故、不レ訪二閑谷黌一、○夜、岡野義三郎、丸山環、武井悌四郎、満田新造、内藤馬蔵、藤野三郎歓迎会を開く、
廿六日、安部清蔵、内藤馬蔵、武井悌四郎来訪す、○午后倉敷に赴き、「我那の長処短処を論ず」を講演す、○佐藤信重、古藤重光、植田年、木山厳太郎、古沢義三郎、森田章三、佐藤武平、妹尾完次郎、片山広斗、村田密禅、等と会見す、○夜、倉敷の有志者十数人懇談会を開く、○通宵雨蕭々、寒気亦稍強、○此日「中学修身」の奥附一千三百枚を文学社に付与す、
廿七日、午前妹尾氏と共に玉島に赴き、玉島より俥に乗り、雨を衝いて箭田村に到り、吉備公の墓に謁し、尋いで吉備寺に憩ひ、午后、岡山市に赴く、汽車中堀田連太郎、緒方三之助と会見す、○岡山市教育会、基督教青年会、仏教同人会合一して懇談会を後楽園に催ふす、因りて之に赴き、一場の演説をなす、光岡金雄、白坂栄彦、博見憲證、三宅亥四郎、味岡成泰等と会見す、○河本乙五郎、松本正覚、James H. Pettee 等来訪す、○夜、基督教青年会に於て「武士道と君子道」を演説す、

廿八日、九時五十七分岡山市出発、寺坂頼甫と共に閑谷黌を訪ひ、聖廟に謁す、校長岡本巍と会見す、尋いで寺坂氏と別れ、大阪に赴き、花屋に宿す、
廿九日、午前天神社、天王寺等を訪ひ、午后図書館を訪ふ、
三十日、午前書肆鹿田を訪ふ、○午后七、一〇大阪出発、汽車中A.L.Manleyと会見す、
卅一日、午前九、三〇東京着、仝十時過帰宅、○此月武士道叢書上巻成る、○栗原照子葉山万次郎の結婚式に千駄木町に赴く、

四月

一日、哲学館大学及び京北中学の卒業式に赴き、生徒の為めに演説す、吉川正毅、亀谷馨、石川文荘、内田周平、エチ、エチ、ガイ、広井辰太郎等と会見す、○藤沼隆次来訪す、○書生柳をして新島源介の会葬式に赴かしむ、○不在中手塚光貴来訪す、
二日、「女子修身」一千五百枚の奥附を金港堂に付与す、○中村寅松、小林義則、谷山初七郎、山内愛助、手塚光貴来訪す、○書状を野崎又太郎、松崎憲英等に送る、
三日、小谷重、有馬祐政来訪す、○加藤直士亦来談す、
四日、「中学修身」二千枚の奥附を金港堂に付与す、○笹川種郎、木山熊次郎、葵川信近、広井辰太郎来訪す、○「中学修身」一千五百枚の奥附を文学社に付与す、
五日、石川鉄雄、深作安文、紀平正美、竹林規矩夫、池田夏苗、市村瓚次郎、藤岡作太郎来訪す、○夜、興学会に赴く、○丸山教祖伝記を読む、
六日、「中学修身」一千枚の奥附を文学社に付与す、○葵川信近、原田秀泰来訪す、○工科大学に於ける建築学展覧会に赴く、
七日、「武士道叢書」上巻成る、○玉虫一郎一、三宅少太郎、磯江潤来訪す、○「倫理」二百枚の奥附を金港堂に付与す、○「中学修身」一千三百枚の奥附を文学社に付与す、
八日、田中義能、松井達音、内山正如来訪す、
九日、京華中学の卒業式に赴く、渡辺国武、亀谷馨、奥田義人、柏田盛文、国府寺新作、小柳司気太等と会見す、○鷲尾順敬、浜幸次郎、池田夏苗、佐々木信綱来訪す、○兵要録、武学拾粋を読む、
十日、深作安文、樫尾銀子、田中収吉、丸井圭治郎、磯江潤来訪す、○柳子新論を読む、
十一日、勝間恒彦、菊池広、秋山悟庵、内山正如来訪す、○書状を岡野義三郎に送る、○武士道中巻の原稿を内山正如に付与す、○武士道上巻一冊を山川健次郎に送る、
十二日、不在中高瀬武次郎及び森田某来訪す、○神皇実録及び其他神道書類を検閲す、○Carneri, Gefühl, Bewusstsein, Willを読む、
十三日、「中学修身」七百枚の奥附を文学社に付与す、○森田義郎、東敬治来訪す、○書状を千賀鶴太郎、甲元清右衛門に送る、○鳥尾小弥太、田口卯吉逝く、
十四日、「武士道叢書」を菊池大麓、中島徳蔵に送る、○書状を林博太郎に送る、○中島徳蔵来訪す、○国語調査会に赴く、○岡島誘来訪せしも、有レ故不レ遇、○斎藤庸一郎来訪す、
十五日、「中学修身」七百枚の奥附を文学社に付与す、○書状を留

岡幸助、木山巌太郎、妹尾完次郎、白神脩平、大原孫三郎に送る、○丁酉倫理会堇会家族会に赴く、○夜、坂口二郎来訪す、○不在中葉山万次郎夫婦及び福来友吉来訪す、

十六日、福来友吉、小笠原実成、岡島誘来訪す、○ゆにてりやん協会に赴き、「我祖国本来の主義を忘るゝ勿れ」を講説す、神田佐一郎、広井辰太郎、佐々木祐継等と会食す、○ショッペンハウエル氏のUeber den Willen in der Naturを読む、○小幡篤次郎逝く、

十七日、田口卯吉の葬式に中央会堂に赴く、○森安三郎、及び高等学校学生某来訪す、

十八日、「新聞の品格」を坂口二郎に送る、○鳥尾小弥太の葬式に築地本願寺に赴く、山田喜之助、柴四朗等と会見す、○書籍を山田茂助に送返す、○「戦捷の原因」を榎本勝多に送る、

十九日、「女子修身」五百枚の奥附を金港堂に付与す、○谷山初七郎、石川鉄雄、木田吉勝、松涛泰巌、奥田正造来訪す、○ショッペンハウエル氏のWillen in der Naturを読む、

二十日、中村久四郎来訪す、○古事記及びSchopenhauer, Ueber den Willen in der Naturを読む、

廿一日、「武士道叢書」を姉崎正治及び菊池季吉に送る、○国語調査会に赴く、○井上成美来る、○小林一郎の哲学原稿を読む、

廿二日、小林一郎の哲学原稿を訂正す、○徳風会に於て修養談をなす、○葉山左内、仝万次郎、内山正如、山口志げ来訪す、○礼記を読む、○夜、雷鳴、

廿二日、「中学修身」一百枚の奥附を文学社に付与す、○小林一郎、菊池季吉、斎藤木来訪す、○Schopenhauer, Ueber den Willen in der Naturを読む、

廿三日、「学生宝鑑」三百枚の奥附を大倉書店に付与す、○観桜会に浜離宮御苑に赴く、井上頼国、寺尾寿、金山尚志、隈本有尚、本居豊頴、三島毅等と会見す、○不在中斎藤庸一郎来る、

廿四日、石幡文学士弔慰金拾円を渡辺良に送る、○「武士道叢書」一冊を井上頼国に送る、○加藤玄智、山口志げ来訪す、

廿五日、

廿六日、高等学校に赴き、「日本民族の統一的精神」を演説す、○宣光神経衰弱を憂ふ、三浦謹之助之を診断す、○中川哲雄来訪す、

廿七日、松平直亮来訪す、乃ち「武士道叢書」一冊を贈る、○書状を浜幸次郎に送る、○時田儀一にビール半打を送る、為レ祝二其出征一也、○樋口秀雄及び桑木厳翼に書状を送る、

廿八日、国語調査会に赴く、○三浦謹之助を病院に訪ふ、○桑木厳翼、有馬祐政、間ちよ来訪す、○金千円の国庫債券応募を申込む、

廿九日、「中学修身」五百枚の奥附を文学社に付与す、○樋口秀雄、秋山悟庵、津野菊子、瀧田哲太郎来訪す、○時田儀一為二訣別一来、○夜、阿部維巌来訪す、

三十日、長田偶得、神田佐一郎、田中義能、小林吉人、蟹江未亡人、遠藤隆吉来訪す、○午后神社協会に皇典講究所に赴き、「神道私見」を講演す、千家尊福、松平正直、松本愛重、石川赳夫等と会見す、○此日時田儀一出征す、柳をして之を送らしむ、○夜、原平吉来訪す、

五月

一日、哲学科の学生に小試験を行ふ、
二日、途上内田融及び蠣瀬彦蔵に逢ふ、○妻女白木屋に赴く、
三日、「中学修身」一千枚及び「女子修身」四百枚の奥附を金港堂に付与す、○小林照朗来訪す、
四日、午前靖国神社大祭に赴く、千家尊福、花房義質、徳川達孝、大田峯三郎、三浦安等と会見す、○中島徳蔵、井上成美、森治武次郎来訪す、
五日、「女子修身」六百枚の奥附を金港堂に付与す、○三浦謹之助を大学に訪ふ、○国語調査会に赴く、○夜、青年会館に於て樫尾銀子の為めに「女子教育」を演述す、釈雲照、南條文雄等と会見す、○縫子黒田邸に赴く、
六日、境野哲、大村仁太郎、石橋臥波来訪す、○金参円四拾五銭を山田源助に送る、○佐伯俊二亀を携へて来る、○山形県中川村村役場に書状を送る、
七日、「中学修身」一百枚の奥附を文学社に付与す、○秋山悟庵、間ちよ及び山隈の婦人来訪す、
八日、「中学修身」二千枚の奥附を金港堂に付与す、○独逸公使の招燕に赴く、ハース、ヘンレ、クルーグ、岩谷季雄、北里闌、三並良、向軍治等と会見す、○姉崎袖子来訪す、○三井銀行に之き、尋いで白木屋に赴く、
九日、樫尾銀子、阿部維巌、和気末吉来訪す、○独逸協会学校に赴き、シルレル百年祭に際し、所感を述ぶ、アルコーワライ、レーマン諸氏と会見す、
十日、和気末吉来訪す、○不在中近藤士郎来訪す、○学生の論文を読む、
十一日、瀬沼伊兵衛、近藤士郎来訪す、○「倫理と宗教との関係」一百枚の奥附を冨山房に付与す、○学生の論文を読む、
十二日、境野哲、村上俊蔵来訪す、○不在中長谷川福平来訪す、○三浦謹之助を大学に訪ふ、○国語調査会に赴く、○学生の論文を読む、○野口寧斎逝く、○武士道叢書を芳賀矢一に贈る、
十三日、中村寅松、大村仁太郎、塚原政次、渡辺則勝、若木貞一来訪す、○学生の論文を読む、
十四日、小笠原実成、秋山悟庵、矢野真、沼田藤次来訪す、○フローレンツを訪ふ、○学士会院に赴く、○不在中高橋龍雄、蠣瀬彦蔵来訪す、○学生の論文を読む、
十五日、長谷川誠也、長谷川福平、名川彦作来訪す、○学生の論文を読む、○礼記を読む、
十六日、大日本続蔵経第一帙を受取る、
十七日、志知善友、渡辺隆勝外一名来訪す、○「我祖国本来の主義を忘るゝ勿れ」をゆにてりあん協会に送る、
十八日、宣光先月末以来有〻疾。三浦謹之助診断以為二神経衰弱一。今夜武居重厚来診。重厚其助手也。○「文明史上より見たる戦捷の原因」を榎本勝多に送る、○渡辺則勝来訪す、
十九日、小島含笑来訪す、○国語調査会に赴く、○武居重厚来診す、
二十日、高瀬武次郎、境野哲、渡辺則勝、姉崎増子来訪す、○フロー

レンツを訪ふ、不レ在、○「印度仏教史綱」序を境野哲に送る、
廿一日、上野より九時の汽車にて出発、午后一時過足利に到着、直に足利学校に赴き、聖廟及び図書館を観る、尋いで足利小学校に赴き「礼法の話」をなす、聴衆約三百名、郡長中森茂八、町長長祐之、下野新聞社長影山禎太郎等と会見す、午後六時笹川種郎と出発、夜、十一時過帰宅、○不在中冨井政章、村上俊江、西河龍治、佐々木信綱来訪す、
廿二日、「陽明哲学」一百枚の奥附を冨山房に付与す、○「ストーヴ」を撤去す、○広井辰太郎、蠣瀬彦蔵来訪す、○フローレンツを訪ふ、○高橋龍雄来訪す、
廿三日、小西重直、有馬祐政、原平吉来訪す、○伊沢千世子為二勧誘一来、○清水組大工等来る、○学生の論文を読む、
廿四日、西河龍治、蠣瀬彦蔵、山口志げ来訪す、○大工及び鍼力屋来る、○学生の論文を読む、
廿五日、「武士道叢書」上巻再版の奥附一千枚を博文館に付与す、○宮川大寿(トモトシ)、阿部維巌、小島含笑来訪す、○学生の論文を読む、○「青年の為め」を小島含笑に付与す、
廿六日、国語調査会に赴く、○塚原小西二氏の歓迎会に富士見軒に赴く、佐々醒雪、八田三喜、三輪田玄道等と会見す、○名古耶六都を大学に訪ふ、○「日本戦捷の原因」続稿「学藝雑誌」に出づ、
廿七日、書状を岡崎遠光に送る、○新声館に於て矯風会の為めに「女学生に対する希望」を演説す、○夜、哲学会に赴く、○山田一郎逝く、享年四十六、
廿八日、加藤玄智、井上静子等来訪す、○学生の論文を読む、○不在中酒井真来訪す、
廿九日、森治武次郎、渡辺則勝、山口志げ、佐伯俊二来訪す、○書状を蔵原惟郭に送る、○玄海灘大海戦の報至る、○学生の論文を読む、○雪子すみれ会に赴く、○砲兵工廠有二大爆声一。時午前八時十五分。
三十日、「学生宝鑑」二百枚の奥附を大倉書店に付与す、○三島復、山口志げ、姉崎正治来訪す、○「女学生に対する希望」日本新聞に出づ、○書生をして山田一郎の葬式に赴かしむ、○井上成美来る、
三十一日、秋山悟庵来訪す、乃ち金七円を付与す、

六月

一日、大学の祝捷会に赴く、○書状を中島力造に送る、○木山熊次郎来訪す、○学生の論文を読む、
二日、中島力造来訪す、○学生の論文を読む、
三日、清水金右衛門、甫森謹吾来訪す、○学生の論文を読む、○礼記を読む、○倫理教科書二百枚の奥附を金港堂に付与す、
四日、塚原政次来訪す、○学生の論文を読む、○ベルツ氏の送別会に植物園に赴く、濱尾新、辻新次、菊池大麓等と会見す、○不在中武居重厚来診す、
五日、森次太郎来訪す、○学生の論文を読む、○礼記を読む、○独文の著述をなす、
六日、勅語衍義一千枚の奥附を林平次郎に付与す、○学生の論文を

読む、○独文の著述をなす、○礼記を読む、
七日、甫森謹吾来訪す、○学習院の倫理講話を了る、○礼記を読む、○山川健次郎の武士道論を読む、
八日、書状を長谷川福平、片淵琢に送る、○境野哲、斎藤庸一郎、前田晁来訪す、○学生の論文を読む、○夜、有馬祐政来訪す、
九日、国語調査会に赴く、○不在中里村勝次郎来訪す、○礼記を読む、○宇野哲人来訪す、○学生の論文を読む、
十日、佐伯利麿、小西重直、秋山悟庵、高橋俊英来訪す、○学生の論文を読む、○E.Häckel, Lebenswunderを読む、○日露講和之曙光始見、是因㆓米国大統領為㆒交渉㆒也、
十一日、原平吉来訪す、○学士会院に赴く、○学生の論文を読む、
十二日、哲学及び宗教学の試験を行ふ、○荘資親、野田氏所㆑著明治教育史を携へて来る、○書状を小島伊佐美に送る、○夜、小林一郎来訪す、
十三日、井上静子、桜井一義、長谷川福平、浜幸次郎、森山章之丞、宮川大寿来訪す、○書状を田村喜作、久本為蔵等に送る、
十四日、「武士道叢書」中巻二千枚の奥附を博文館に付与す、○社会学の試験を行ふ、○銀座に赴く、
十五日、倫理学の試験を行ふ、
十六日、書状を建部遯吾、渡辺則勝及び久友社に送る、○不在中境野哲来訪す、○国語調査会に赴き、尋いで哲学科学生の謝恩会に赴く、
十七日、午前宮内省に赴き、賜物を拝受す、○阿部維巌来訪す、○「戦捷原因」の原稿を榎本勝多に送る、○端書を久友社及び新仏教同志会に送る、
十八日、「女子修身」五百枚の奥附を金港堂に付与す、○田中義能、佐伯俊二、橋本唯三郎来訪す、○武士道叢書中巻成る、
十九日、Ueberweg, Geschichte der Philosophie und Schiller, Werkeを読み、独乙協会学校に於ける演説の筆記を訂正す、○塩谷温来訪す、
二十日、演説筆記の訂正を独逸協会学校に送る、○書状を大村仁太郎及石橋臥波に送る、○小林照朗、佐伯利麿来訪す、○三井銀行に赴き、尋いで冨井政章を訪ふ、○夜、有馬祐政来訪す、
廿一日、曽田文甫、鳥居龍蔵、大島直治、今泉定介来訪す、○三井銀行に赴く、○教員検定試験委員被仰付、
廿二日、続蔵第二套を受取る、○小林一郎来訪す、○夜、東洋学会に大学会議所に赴く、
廿三日、国語調査会に赴く、○不在中佐伯俊二来訪す、○塩谷温、葉山照子来訪す、○夜、「我邦の長処と短処とを論ず」を大原孫三郎に送る、
廿四日、書状を坪井九馬三、大原孫三郎に送る、○松浦一、法貴慶次郎、中島徳蔵、市村瓚次郎来訪す、○武士道叢書(中巻)を姉崎正治、中島徳蔵に送る、○服部胸三郎来訪す、有㆑故不㆑遇、○中熊直喜、岡本昇来訪す、○叙㆓勲三等㆒授㆓瑞宝章㆒、
廿五日、坂本嘉治馬、佐伯俊二来訪す、○武士道叢書を山川健次郎、菊池大麓に送る、○夜、小笠原実成来訪す、○不在中大久保好来

訪す、
廿六日、中島泰蔵、阿部維巌来訪す、○独文の著述をなす、
廿七日、秋山悟庵、原平吉来訪す、○独文の著述をなす、
廿八日、武士道叢書を三上参次、田中義成に送る、○井原豊作来訪す、○独文の著述をなす、
廿九日、三井銀行に赴き、尋いで大学会計課に抵り、第五回国庫債券の為めに千円を払込む、○西山悊治来訪す、○夜、哲学館の相談会に富士見軒に赴く、○書状を文科大学事務室に送る、○不在中吉田静致来訪す、
三十日、「古学哲学」七十枚の奥附を冨山房に付与す、○酒井真、菊池広、渡部宗全、吉田静致来訪す、○国語調査会に赴く、○検定試験の問題を中島力造に送る、

七月

一日、中島徳蔵、石川松渓、小林照朗、阿部維巌、補永茂助、沈秉衡、早川恭太郎来訪す、
二日、田中次郎、深作安文、椎尾弁匡来訪す、○子女皆歌舞戯座に赴いてkineoramaを観る、
三日、「女学生の注意すべき要点」を中島徳蔵に送る、○「我祖国本来の主義を忘るゝ勿れ」六合雑誌第二百九十四号及び五号に出づ、○松扉得悟、宮川大寿、大井徹翁、野口正志、小林一郎、大島正徳来訪す、
四日、谷本冨、大久保好、渡辺則勝、佐々政一来訪す、○夜、法貴慶次郎の招燕に富士見軒に赴く、○不在中中村護、沼田博雄来訪す、
五日、渡辺隆勝、志知善友来訪す、
六日、江部淳夫、石川栄司、石橋友次郎、遠藤佐々喜来訪す、○雪子清子共に明治音楽会に赴く、
七日、沼田博雄、中村護来訪す、○国語調査会に赴き、尋いで文科大学懇親会に植物園に赴く、○夜、近藤士郎来訪す、有レ故不レ遇、○「詩聖シルレル百年祭に就ての所感」学友会雑誌に出づ、
八日、石塚龍学、島本愛之助、白鳥庫吉、伊藤延次来訪す、
九日、磯江潤、前田晃、福来友吉、菊池安来訪す、○近藤士郎来訪す、有レ故不レ遇、○学士会院に赴く、○不在中菅沼性蔵、森川智徳来訪す、○夜、北村教厳、斎藤基次郎来訪す、
十日、大阪の鹿田静七に書籍代弐円参拾壱銭を送る、○長谷川誠也来訪す、○神田の風月堂に之き、尋いで勧工場に適く、
十一日、帝国大学卒業式に赴く、戸水寛人、高橋作衛、元田肇、津野慶太郎、長井長義、佐々木忠次郎等と会見す、○蟹江操子、塩谷温来訪す、○夜、練胆長歌及武道便蒙録を読む、
十二日、佐々木哲哉、谷本冨、吉木竹次郎来訪す、○菓子箱を川端、中洲及甘木に送る、○武道便蒙録を読む、○岩谷一六逝く、享年七十一、○谷本冨文学博士となる、
十三日、書籍を松下伯季に返す、○戸川安宅、廻間武三、笹川婦人来訪す、○菅沼性蔵、瀧田哲太郎来訪す、有レ故不レ遇、○武道便蒙録を読む、
十四日、清国湖南省長沙府在留関口壮吉送二王先謙所著尚書孔伝一来、

○林博太郎来訪す、○武道便蒙録を読了す、○沼田藤次来訪す、○市村瓚次郎文科大学教授となる、
十五日、市村瓚次郎、有馬祐政来訪す、○武井重厚来診す、○「女学生の修養」丁酉倫理に出づ、○岩谷一六の葬式に赴く、
十六日、松浦一、補永茂助、藤田栄三郎、筒井源次郎、遠藤隆吉、瀧田哲太郎、岡島誘来訪す、○書状を読売新聞社に送る、
十七日、宇野哲人、小林一郎、橋本唯三郎来訪す、
十八日、佐々政一、井原豊作来訪す、○書状を赤木槌右衛門及吾妻郡教育会に送る、○夜、報徳記及福翁百話を読む、
十九日、物徂徠の肖像及略可法を史料編纂所に、四等勲章を大学本部に返す、○フローレンツを訪ふ、○独文日本哲学概要を完了す、○斎藤精輔来訪す、
二十日、坂本健一、沼田藤次、佐伯俊二来訪す、○初学訓、武訓、報徳記及福翁百話を読む、
廿一日、高瀬代次郎、境野哲、豊原清作、柴田静江来訪す、○武訓、柳子新論、経筵進講録、初学訓を読む、
廿二日、尾藤二洲の「啓蒙十二説」を読む、○加藤玄智来訪す、
廿三日、若木貞一、波岡茂輝、西脇玉峰、秋山悟庵、片岡久太郎、蠣瀬彦蔵、法貴慶次郎、姉崎増子来訪す、○報徳記を読む、
廿四日、廻間武三来訪す、乃ち之に論文を返す、○夜、報徳記を読む、
廿五日、秋月胤継、葉山万次郎来訪す、○学士会院に赴く、○狼寔録を読む、○釈迦牟尼伝五百部の奥附を文明堂に付与す、○米人タフト及びエリス嬢来朝す、
廿六日、狼寔録、報徳記、初学訓、経筵進講録及び栗山文集を読む、○法貴慶次郎北京に赴く、
廿七日、平川泉吉、宮川大寿、芝田徹心、井上静子、佐伯俊二来訪す、○艮斎問話を読む、
廿八日、「学生宝鑑」三百枚の奥附を大倉書店に付与す、○阿部維巌来訪す、○艮斎問話を読む、
廿九日、三上参次、芳賀矢一、藤岡勝二、葉山万次郎、冨尾木知佳、坂本健一、蠣瀬彦蔵、平川泉吉、有馬祐政、中島徳蔵、小林一郎を富士見軒に招燕す、○艮斎問話及び秦山随筆を読む、
三十日、中島徳蔵、八田三喜、石橋臥波、松尾貞次郎、水谷直孝、森孫一郎、沼田藤次、紀平正美、常盤大定、有馬祐政来訪す、○艮斎問話を読む、
卅一日、拾円の為換を中洲に送る、○秋山悟庵、冨尾木知佳来訪す、○フローレンツを訪ふ、○艮斎問話、明君家訓を読む、

八月

一日、菊池俊諦、奥田義人来訪す、○有馬祐政を訪ふ、
二日、午前九時半上野出発、午后二時高崎着、仝二時半乗二馬車一、五時渋川着、休二于樋口一、七時伊香保着、投二于木暮(コグレ)金太夫一、
三日、登二物聞山一、○武士道叢書の原稿を有馬祐政に送る、
四日、読二黙識録一、○箕作佳吉来訪す、
五日、午前到二湯本一、○午后到二七重瀧一、○書状を留守宅に送る、○夜、読二黙識録一、
六日、書状を留守宅に送る、○子女二人を拉して釣堀に赴く、○読二

黙識録」、
七日、赴二榛名山一、帰途休二于湖畔亭一、泛二舟于湖水一而還、途上与二ウェスト デ子カンプ等一相逢、
八日、箕作佳吉来訪す、○読二黙識録一、
九日、読二黙識録一了、○大塚保治来訪す、○雪子すが子及び山口志げ来る、
十日、箕作佳吉、大塚保治、仝楠緒子を訪ふ、○夜、米人プライス夫人を訪ふ、○遊二于湯本一、
十一日、書状を平田郷関に送る、○中子の稲荷に赴く、
十二日、弁天の瀧に赴く、
十三日、山口志げ中之条に還る、○箕作佳吉、志賀泰山来訪す、
十四日、大塚楠緒子来訪す、○書状を留守宅に送る、
十五日、プライス夫人来訪す、○水沢の観音に赴く、
十六日、書状を鵜飼金三郎に送る、
十七日、箕作佳吉に招待せられて之を訪ふ、○書状を佐伯俊二に送る、
十八日、午前八時伊香保出発、午后四時帰京、雪子すが子二人滞二在于千明仁泉亭別館一、○小豆沢英男、東敬治来訪す、
十九日、秋山悟庵、姉崎正治、祖父江某来訪す、○電報を鵜飼金三郎に送る、○午后六時新橋出発、○武士道叢書上巻八百枚の奥附を博文館に付与す、
二十日、午前三時名古屋着、直に名古屋ホテルに赴く、○午前十一時高等女学校に於て師範同窓会の為めに演説す、愛知県事務官枝徳二、仝坂仲輔、仝安河内麻吉等と会見す、○村上俊江、浦谷熊吉、高瀬代次郎、鵜飼金三郎、加藤莱作来訪す、○園遊会に明治館に赴く、○午后、三浦渡世平（第一師範学校長）杉浦要太郎（県立高等女学校長）佐藤雲韶（市立高等女学校長）枝徳二等来訪す、○夜、十二時頃出発、
廿一日、午前九時三十分新橋着、十時半頃帰宅、○雪子すが子従二伊香保一帰来、○秦山随筆を読む、
廿二日、礼状を甫森謹吾、西沢之助、建部遯吾、長谷川誠也、山田準、塩谷時敏、黒川真道、鵜飼金三郎に送る、○相良益次郎、斎藤精輔及び文学社手代来訪す、○読二秦山随筆一了、
廿三日、秋山悟庵来訪す、○著述に従事す、○経筵進講録を読む、
廿四日、著述に従事す、○書状を小林義則に送る、○阿部維巌、若守義孝来訪す、○経筵進講録を読む、
廿五日、経筵進講録を読む、○窪田秀蔵来訪す、○著述に従事す、○夜、敬宇先生演説集を読む、
廿六日、著述に従事す、○平川泉吉来訪す、○佃与次郎をして速記せしむ、○経筵進講録を読む、○夜、敬宇先生演説集を読む、
廿七日、読二経筵進講録一了、○相良益次郎、赤間冨次郎、佐伯俊二、宮川大寿、融道玄来訪す、○夜、敬宇先生演説集を読む、
廿八日、「青年読書の注意」を鷹野勇雄に送る、○武士道叢書中巻八百枚の奥附を博文館に付与す、○草二三宅尚斎之哲学一了、○小豆沢英男、小田切良太郎来訪す、○雪子すが子、大塚楠緒子を訪ふ、

廿九日、長谷川誠也、有馬祐政、宮川大寿、斎藤木、秋山悟庵及び文学社手代来訪す、○重野成斎の異学禁を読む、○訂正中学修身三五の巻を金港堂に付与す、
三十日、佐々木哲哉来訪す、
卅一日、藤井健次郎、山岸直次、井上静子、仝成美来訪す、○「神道私見」を神社協会に送る、

九月

一日、著述に従事す、
二日、著述に従事す、○尾上八郎来訪す、
三日、佐伯俊二来訪す、○著述に従事す、
四日、嘉納治五郎来訪す、○著述に従事す、
五日、酒井真来る、「日本朱子学派之哲学」の原稿を之に渡す、○著述に従事す、○此日、官民衝突、満都騒擾、為レ不レ慊二于媾和条件一也、○園田徳太郎来、不レ遇、為レ非二面会時日一也、
六日、古城貞吉、補永茂助、阿部維巌来訪す、
七日、望月信亨来訪す、
八日、鷲尾順敬、古城貞吉、補永茂助来訪す、○興学会に赴く、
九日、笹川種郎、須田直太郎、桜井義肇、蟹江未亡人来訪す、
十日、吉田静致、朝永三十郎、加藤玄智、松山直蔵来訪す、○井上健児入院す、
十一日、大塚楠緒子、高瀬代次郎来訪す、○速記者をして速記せしむ、為二新公論一也、
十二日、井上相如、塩谷温、清水金右衛門、小林照朗来訪す、○井上健児を病院に訪ひ、尋いでフローレンツを訪ふ、○夜、新井田次郎をして速記せしむ、○独逸文日本哲学綱領成る、
十三日、佐藤三吉を病院に訪ふ、○学習院の倫理講話を始む、○Volkelt, Erfahrung und Denken を読む、
十四日、検定試験の答案を読む、○小笠原実成、百目木(どめき)智璉、○大学の講義を始む、○書状を川端に送る、
十五日、国語調査会に赴く、○「時局雑感」を博文館に送る、○冨山房より始めて「朱子哲学」の校正を送り来る、○井上健児退院す、
十六日、松扉得悟、保科孝一来訪す、○夜、高等師範学校生徒柳沼某来訪す、○検定試験の答案を読む、
十七日、大島直治、秋山悟庵、融道玄、梅沢和軒、田中義能、高瀬代次郎、蠣瀬彦蔵、深作安文来訪す、○Volkelt, Erfahrung und Denken を読む、
十八日、「神道私見」神社協会雑誌に出づ、○桜井義肇来訪す、○神道及び武士道に関する各種の論文を読む、
十九日、評議会に赴く、
二十日、談話筆記を桜井義肇に送る、○Höffding, Psychologie を読む、
廿一日、古川義夫、橋本唯三郎、望月信亨来訪す、○不在中中村未亡人来訪す、○途上三好退蔵に逢ふ、
廿二日、国語調査会に赴く、○間千代、井上成美等来訪す、
廿三日、藤井健次郎の送別会に上野精養軒に赴く、

廿四日、蠣瀬彦蔵来訪す、○Volkelt, Erfahrung und Denkenを読む、
廿五日、「古学哲学」二百枚、「陽明哲学」百五十枚の奥附を冨山房に付与す、○妻女すみれ会に赴く、
廿六日、高瀬武次郎来訪す、有レ故不レ遇、○検定試験の答案を読む、
廿七日、日英同盟更に成る、
廿八日、小笠原実成、角田雄三、田中義能、秋山悟庵来訪す、○佃与次郎をして速記せしむ、○著述に従事す、○夜、自娯集を読む、
廿九日、国語調査会に赴く、○キヨーベル氏を訪ふ、○「教育及文学の刷新」を文明堂に送る、
三十日、酒井真来訪す、○「時局雑感」太陽に出づ、

十月

一日、遠藤隆吉、渡辺則勝、蠣瀬彦蔵、吉川万次郎来訪す、
二日、神皇正統記を読む、
三日、「余の受けたる先輩と書物の感化」新公論に出づ、
四日、Wundt, System der Philosophie 及びRehmke, Psychologieを読む、
五日、武居重厚を病院に訪ふ、○宇野哲人、秋山悟庵来訪す、○悟庵に学士会院雑誌二冊を貸付す、
六日、書状を田中義能、有馬祐政に送る、○弘道館記述義を読む、
七日、弘道館記述義を読む、
八日、阿部維巌、原重太郎、中島徳蔵、遠藤夏子来訪す、○Rehmke, Lehrbuch der Psychologieを読む、
九日、森山章之丞、野上俊夫、伊藤成治来訪す、○清水組をして物置を建てしむ、
十日、弘道館記述義、三種神宝論を読む、○午后、Borden P. Bowneの哲学演説を聞き、夜、植物園に於ける歓迎会に赴く、
十一日、弘道館記述義を読む、○荻原雲来、井上勃爾来訪す、
十二日、秋山悟庵、高崎行一来訪す、○弘道館記述義を読了す、
十三日、此日帰朝以来十五年に当る、○新論を読む、書状を三好愛吉に送る、○倫理教科書二百枚の奥附を金港堂に付与す、
十四日、藤岡作太郎、姉崎増子来訪す、○Volkelt, Erfahrung und Denkenを読む、○電報を仙台に送る、
十五日、藤岡作太郎、沼田藤次、高瀬武次郎、岡嶋誘来訪す、○Volkelt, Erfahrung und Denkenを読む、
十六日、荻原雲来、山口志げ来訪す、○学生宝鑑七百枚の奥附を大倉書店に付与す、○新論を読む、
十七日、豊原清作、中村某（博文館出版部）、山口志げ来訪す、
十八日、藤岡勝二来訪す、○Volkelt, Erfahrung und Denkenを読む、
十九日、蠣瀬彦蔵、廻間武三、飯田尭一来訪す、○電報を三好愛吉に送る、○上村観光来訪す、○書状を三好愛吉、笹川種郎に送る、
二十日、電報を三好愛吉及び笹倉新治に送る、○国語調査会に赴く、○書状を千頭清臣、田村喜作、林高美、長田偶得に送る、
廿一日、午前八時三十五分上野出発、午后五、五〇仙台市着、土井林吉、三好愛吉、瀧川亀太郎、笹倉新治、杉谷泰山、玉虫一郎一等来迎す、○菊平に投宿す、○夜、土井林吉、金徳淳（号竹商）来訪す、

廿二日、早川智寛（仙台市長）半田卯内（宮城県亘里郡長）来訪す、○午前十時頃孔子会に第二高等学校に赴き、演説をなし、十二時に至りて了ハる、○学校内に会食す、来会者凡そ三十余名、○堤定次郎（宮城県控訴院検事）栗野伝之丞（陸軍教授）正木昇之助（正五位）川田正澂（第一中学校長）和達孚嘉、中川元等と会見す、○伊達正宗（貞山公）の廟及び林子平の墓に謁し、帰途龍宝寺を訪ふ、○夜、在仙台の文科大学出身者懇親会に陸奥の園に赴く、三好愛吉、土井林吉、玉虫一郎一、笹倉新治、瀧川亀太郎、杉谷泰山、青木昌吉、伊藤兼一、小田喜作来会す、○留守宅及び笹川種郎に書状を送る、○井上可基より菊花を送来たる、○夜、河原亮賢来訪す、

廿三日、午前井上可基、児玉実徳来訪す、○第二中学校に赴き、生徒に対し演説す、猪狩幸之助と会見す、○午前一一、五五出発、中川元、早川智寛、三好愛吉等送来たる、○夜、一〇、〇〇過ぎ、宇都宮着、笹川種郎、高崎行一、山内素行、香川直勝来迎す、○白木屋に投宿す、○笹川種郎来訪す、

廿四日、中学校に於て演説し、午后一、三〇出発、仝四、一五上野着、鈴木光愛と邂逅す、

廿五日、望月信道来訪す、有レ故不レ遇、

廿六日、書状を三好愛吉、笹川種郎に送る、○江部淳夫、望月信亨、香村宜円、西ヶ谷可吉来訪す、○「学生宝鑑」八百枚の奥附を大倉書店に付与す、

廿七日、礫川小学を訪ふ、○国語調査会に赴く、

廿八日、原亮三、下河辺半五郎来訪す、○林吾一を東京府師範学校に訪ふ、○夜、利根川与作来訪す、

廿九日、田中義能来訪す、○史料展覧会に赴く、○誤りて鼓膜を破る、○大藪虎亮来訪す、

三十日、書状を大藪好太郎、中村喜三右衛門に送る、

卅一日、Mind, Archiv für Systematische Philosophie, Philosophical Review(Boston)の三種を丸善に注文す、

十一月

一日、建部遯吾、中村長来訪す、○斎藤拙堂の「士道要論」を読む、○夜、山口志げ来る、

二日、「士道要論」を読了す、○山口志げ出発す、○書状を博多川端、宰府西正寺、斎藤儀八、元良勇次郎、有馬祐政、中川元に送る、○原平吉為二決算一来、○賀古代診内藤某来診す、○病稍軽快、

三日、樋口秀雄、葉山万次郎夫婦来訪す、○「日本伝治乱要決」を読む、

四日、「日本伝治乱要決治基巻」を読了す、雪子姉崎正見を病院に訪ふ、○Rev.A.Lloyd, Buddhist Meditationsを読む、

五日、西川三五郎、有馬祐政来訪す、○Ueberweg, Geschichte der Philosophieを読む、

六日、阿部維巌来訪す、○妻女、中村正修宅を訪ふ、

七日、西川三五郎来訪す、○Volkelt, Erfahrung und Denkenを読む、○子女、学校の運動会に赴く、

八日、Volkelt, Erfahrung und Denkenを読む、

九日、泉道雄、加藤玄智、安部清蔵、原平吉、柿原政一郎来訪す、○修身科検定本試験を文部省に行ふ、
十日、浦谷熊吉、宇野哲人、三島復、井上静子外に学生一名来訪す、
十一日、木村繁四郎、鷲尾順敬来訪す、
十二日、遠藤隆吉、手塚光貴、横井時冬、渡部宗全来訪す、○不在中斎藤精輔来訪す、○夜、小清水金蔵（文学社手代）、○歯科医に至る、
十三日、中村熊男来訪す、○夜、検定試験の答案を読む、○川端より書状来る、
十四日、書状を木村繁四郎、大藪好太郎に送る、○天皇御発輦、○歯科医に至る、○東京府師範学校火災あり、○中島徳蔵来訪す、
十五日、
十六日、検定試験の答案を読む、
十七日、天皇伊勢の大廟に参拝あらせらる、○間千代来訪す、
十八日、終日検定試験を文部省に行ふ、
十九日、石橋臥波、辻本卯蔵、秋山悟庵来訪す、○「武士道叢書」上巻五百部の奥附を博文館に付与す、○奉迎に宮城前に赴く、
二十日、序文の訂正を秋山悟庵に送る、○弘刃彦来訪す、○林吾一を師範学校に訪ふ、
廿一日、村上専精、佐々木信綱来訪す、
廿二日、名児耶六都来訪す、○一千円の国庫債券を請取る、
廿三日、田中治六、関透、若木貞一等来訪す、○「日本朱子学派之哲学」の序と凡例とを冨山房に送る、○菊池広、佐藤吉次来訪す、
廿四日、広告文を冨山房に送る、○西川三五郎来訪す、○国語調査会に赴く、
廿五日、建部遯吾来訪す、○丁酉倫理会家族会に赴く、○「五山文学全集序」を上村観光に送る、○武士道叢書下巻一千五百部の奥附を博文館に付与す、
廿六日、Philosophie in Japan を Dr. Paul Hinneberg に送る、○ケーベル氏を訪ひ、尋ひで山川健次郎を訪ふ、○二宮尊徳五十年紀念会に赴く、肝付兼行、岩崎行親、大久保利武等と会見す、
廿七日、鶴岡照子及び木戸某来訪す、
廿八日、秋山悟庵、井上成美来訪す、○「武士道叢論」序を秋山悟庵に送る、○夜、福来友吉の論文を読む、
廿九日、
三十日、佐伯正、補永茂助、香村亘園来訪す、○不在中安部清蔵来訪す、○福来友吉の論文を読む、

十二月

一日、乗杉嘉寿来訪す、○三浦謹之助及び武居重厚を大学病院に訪ふ、○「武士道叢書」下巻成る、○夜、福来友吉の論文を読む、
二日、真宗大学の学生三名来訪す、○夜、留岡幸助来訪す、○山川健次郎大学総長を免ぜらる、
三日、中島徳蔵、田中義能、清水潔、望月信亨、市村瓚次郎来訪す、○倫理教科書五百枚の奥附を金港堂に付与す、○午后、豊原清作来訪す、
四日、「中学修身」一百枚の奥附を文学社に付与す、○総長交迭相

談会に大学に赴く、○夜、石川松渓来訪す、○福来友吉の論文を読む、
五日、田中次郎、伊藤成治来訪す、○大学評議会に赴く、○書状を堀鉞之丞に送る、○村上専精来訪す、有レ故不レ遇、○佐藤吉次来訪す、
六日、宇野哲人来訪す、○帝国大学内有二搶攘之事一、為二山川総長辞職一也、
七日、禰津恂来訪す、○「武士道叢書」下巻を山川健次郎に送る、○大山元帥凱旋す、
八日、為二九洲日々新聞一使上速記者一速記上、○国語調査会に赴き、尋いで哲学雑誌委員会に赴く、○談話筆記の訂正を留岡幸助に送る、○「武士道叢書」下巻を哲学会及び中島徳蔵に送る、
九日、「朱子哲学」校正了、○速記訂正を田中次郎に送る、○安田義夫をして速記せしむ、○大学総会に赴く、○不在中川崎浩之来訪す、○「武士道叢書」下巻を姉崎正治に送る、
十日、加藤玄智来訪す、○学士会院に赴く、○元良勇次郎を訪ふ、家に在らず、○不在中小田切夫人来訪す、
十一日、姉崎正治来訪す、○新井田次郎をして速記せしむ、○夜、文科大学の臨時教授会に赴く、
十二日、夜、坪井九馬三来訪す、○評議会に赴く、
十三日、建部遯吾を訪ふ、○夜、坪井九馬三来訪す、
十四日、不在中秋山悟庵、有馬祐政、田中義能、香村宜園来訪す、○朝、濱尾新を訪ふ、○「中学修身」一百枚の奥付を文学社に、「朱子哲学」八百枚の奥附を冨山房に付与す、○田中義能再び来訪す、○久保田譲文部大臣を免せられ、桂太郎文部大臣を兼任す、
十五日、有馬祐政、島本愛之助、岡田さち子来訪す、○国語調査会に赴く、
十六日、「帝国大学論」を博文館に送る、○中島徳蔵、村上専精、川崎浩之来訪す、○山川健次郎を訪ふ、
十七日、徳谷豊之助、村上専精、葉山照子、姉崎正治来訪す、○児女を拉して神田鍛冶町松屋に赴き、凱旋兵を観る、○夜、荻原雲来の歓迎会に赴く、南條文雄、黒田真洞、道重信教等と会見す、
十八日、金山尚志来訪す、○細山隆吉をして談話を筆記せしむ、○菅公会より菅公銅像の寄贈を受く、
十九日、書状を弘刄彦、庄野金十郎、小島伊左美に送る、○濱尾総長を大学に訪ふ、○夜、桂伯爵の招燕に総理大臣官邸に赴く、
二十日、姉崎正治来訪す、○「帝国大学と学問の自由」の訂正を細山隆吉に送る、
廿一日、宇野哲人、後藤瑞巌、若宮義孝、増田惟茂来訪す、○宮内省に出頭し、賜物を拝領す、尋いで黒田侯爵邸に赴き、山中立木と会見す、○夜、金子堅太郎の歓迎会に八百勘に赴く、栗野慎一郎、広田弘毅、児島高里、有吉七郎、添田寿一、片岡久太郎、澄川徳等と会見す、
廿二日、石川松渓来訪す、
廿三日、小柳司気太、蜷川龍夫来訪す、
廿四日、太田峰三郎、葛西又次郎、大島正徳、秋山悟庵来訪す、○

葛西にWard, psychic Evolutionを貸与す、○青木倉蔵来訪す、
廿五日、「日本朱子学派之哲学」成る、○石川松渓来訪す、○夜、妻子六人を拉して銀座に赴き、金六亭に登り、晩餐を喫して還る、
廿六日、「日本朱子哲学」を沢柳政太郎、山川健次郎、中島徳蔵、元良勇次郎、坪井九馬三、姉崎正治、デニングに送る、○金拾円の為換を中洲に、金弐拾円の為換を西正寺山内契順に送る、○井上円了来訪す、○「農業修身」三百枚の奥附を金港堂に付与す、○書状を姉崎正治に興津に送る、○夜、法華経の如来寿量品を読む、○谷鉄臣逝く、〔頁下部に「谷鉄臣翁逝く」の新聞記事切抜貼付〕
廿七日、「朱子哲学」を三宅雄次郎、陸実、徳冨猪一郎、黒田長成、濱尾新、三上参次に送る、○元良勇次郎宅を訪ひ、尋いで姉崎氏宅に到る、○菓子箱を博多川端及び甘木に送る、○書状を宮崎道三郎に送る、○平川泉吉、若守義孝来訪す、○夜、速記の訂正をなす、
廿八日、「朱子哲学」を金子堅太郎、中島力造、松平直亮、穂積陳重、星野恒、有馬祐政に送る、○秋山悟庵、香村宜園、辻本卯蔵、姉崎袖子、笹川婦人等来訪す、○清子を拉して佐藤病室に到り、尋いで哲学会に赴く、○夜、速記の訂正をなす、○此日、陞叙高等官一等、○書状を山田喜之助、庄野金十郎に送る、
廿九日、「朱子哲学」を戸水寛人、千賀鶴太郎、小林一郎に送る、○三井銀行に赴く、○中島徳蔵、高橋隆、姉崎増子、井上静子来訪す、○鶏卵箱を伊沢修二に、金十五円を佐藤三吉に、雉子二羽を三浦謹之助に送る、○「日本に於ける徳教の位置」を中島氏に付与す、○夜、田中次郎来訪す、○速記の訂正をなす、○不在中境野哲、酒井真来訪す、
三十日、鶏卵箱を笹川氏に、仝鶏卵箱を松永氏に、又鴨二羽を真浄寺に送る、○星野恒来訪す、○「神道私見」を田中次郎に送る、
卅一日、書状を川端、甘木、中洲、西田政造、守田龍雄等に送る、○小谷重、酒井真来訪す、○到来のもの如ㇾ左、

一、菓子箱	青木倉蔵	一、雉子一羽	斎藤
一、鴨一羽	村松	一、仝五羽	平川
一、鴨二羽	伊沢	一、書簡箱	冨山房
一、尾張大根	佐伯俊二	一、小盆二枚	育成舎
一、スルメ	小野藤太	一、カステーラ	川端
一、菓子箱	浅倉	一、菓子	元良
一、反物二反	磯江潤	一、鴨二羽	冨尾木
一、干柿	姉崎	一、仝	福岡
一、鶏卵箱	済美堂	一、乾葡萄	磯辺弥一郎
一、砂糖袋	野田書店	一、鶏卵箱	櫻井義肇
一、鰹節二円	村田五郎	一、林檎	田中義能
一、巻昆布	蜷川	一、羊羹	石橋臥波
一、書物	同文館	一、砂糖	文学社
一、ビール一打	金港堂		

巽軒日記

明治三十九年（西暦一九〇六）

一月

一日、井上成美、仝健児、林勃爾、大野太衛、斎藤基次郎等来賀す、○午前十一時拝賀の為めに宮中に参内し、尋いて青山御所に赴く、○勅語博議を守山龍雄に、各種の書類を青木くにに送る、○「朱子哲学」の広告、各新聞に出づ、○来賀者一百三十七名（面会者を除く）端書一百十六、手紙廿二、○「帝国大学論」太陽に出づ、○小村大使帰朝す、

二日、小笠原実成来訪す、○年始に赴く、○来賀者五十四名、端書九十二、書状四十三、○夜、新仏教及び早稲田文学を読む、

三日、境野哲来訪す、○黒田長成、田中光顕、桂太郎、フローレンツ、ケーベル、辻新次、菊池大麓、金子堅太郎、栗野慎一郎、加藤弘之及び独逸公使館に年始に赴く、○早稲田文学を読む、

四日、姉崎正治、樋口婦人、紀平婦人来訪す、○九条道孝逝く、享年六十七、○福地源一郎逝く、享年六十六、著はす所「幕府衰亡論」あり、

五日、新年宴会に宮中に赴く、

六日、平川泉吉来訪す、○「古学哲学」及び「倫理と宗教との関係」を姉崎正治に送る、

七日、冨山房をして「朱子哲学」を島田三郎、坪内雄蔵、及び時事、東京日々、東京朝日、日本、読売、万朝、大坂朝日、大坂毎日、京都日出、福岡日々、帝国文学、太陽、教育時論、教育学術界に送らしむ、○坂口前、清水金右衛門、豊原清作来訪す、○新年の到来物ハ左の如し、

鴨六羽	黒田侯爵	菓一籠	坂口前
浅草苔	三省堂	保命酒	文明堂
菓子箱	浅倉屋	菓子箱	樋口婦人
菓子箱	紀平婦人	ジンフハンデルニ	鳥海
缶詰二箇	西田政造	絹ハンケチ一ツ	大倉書店
菓子一缶	吉井	菓子入れ	加藤玄智

此日、新内閣成る、総理大臣ハ西園寺公望にして文部大臣を兼ぬ、農商務大臣ハ松岡康毅、外務大臣ハ加藤高明、海軍大臣ハ斎藤実、大蔵大臣ハ阪谷芳郎、逓信大臣ハ山県伊三郎、司法大臣ハ松田正久、内務大臣ハ原敬、陸軍大臣ハ寺内正毅、

八日、藤原喜一来訪す、○夜、明君家訓を読む、

九日、贈物を斎藤儀八、間端吾、吉田栄次郎に送る、○前田慧雲、葉山万次郎、仝照子来訪す、○夜、明君家訓を読む、

十日、「中学修身」四百五拾枚の奥附を金港堂に付与す、○夜、興学会に赴く、

十一日、「朱子哲学」の奥附二百枚を冨山房に付与す、○加藤玄智、香村宜園来訪す、○Hearn, Japan: an Attenpt at Interpretationを読む、

十二日、Hearn, Japanを読む、○国語調査会に赴き、尋いで筑前人新年宴会に赴く、黒田侯爵、金子堅太郎、栗野慎一郎、小野隆助、武谷水城等と会見す、

十三日、書状を野田義夫、堀鉞之丞に送る、○山田喜之助、姉崎増子、笹川婦人来訪す、○「朱子哲学」の訂正を冨山房の手代中村某に付与す、○夜、大島義脩来訪す、
十四日、川上生八、佐村八郎、大野太衛、鷲尾順敬、蠣瀬彦蔵、中島徳蔵、小林治郎、小清水金蔵来訪す、○午后学士会院に赴く、○四屋恒之逝く、
十五日、「朱子哲学」をロイド、加藤弘之、菊池大麓に送る、○文学社の「中学修身」を訂正す、○佐村八郎の「孝女白菊の伝」を読む、
十六日、日本倫理史稿及びHearn, Japanを読む、○三浦謹之助を大学病院に訪ふ、
十七日、「女子修身」五百枚、「新編倫理」二百五十枚の奥附を金港堂に付与す、○小清水金蔵来訪す、
十八日、広池千九郎、佐村八郎、野上俊夫、小林治郎、曽田文甫、岡島誘来訪す、○書生をして四屋恒之の葬式に会せしむ、○文学社本月より毎月金拾五円を返済することを約束す、○夜、日本倫理史稿を読む、○「日本に於ける徳教の位置」丁酉倫理に出づ、
十九日、国語調査会に赴く、○夜、大不列顛国特命全権大使サー、クロード、マックスウェル、マクドナルドの大使昇任披露会に赴く、伊藤博文、大山巌、阪谷芳郎、稲垣満次郎、長井長義、アルコワレー、チール、栗野慎一郎等と会見す、
二十日、「武士道叢書」三巻を金子堅太郎に、「丁酉倫理」を川端及び西田政造に送る、○金井延、木村鷹太郎来訪す、○午后、斯文学会に赴く、石黒忠悳、谷千城、南摩羽峰、土屋鳳洲、根本健斎、島地黙雷、金井之恭等と会見す、
廿一日、幣原坦、佐々木哲哉、高瀬武次郎、若守義孝、小清水金蔵、船田三郎、小笠原敬三、菊池広等来訪す、○巽軒論文二集五十枚の奥附を冨山房に付与す、
廿二日、加藤弘之、菊池大麓、穂積陳重、桜井錠二と東京帝国学士院規定を議す、○夜、文学社の「中学修身」を訂正す、○野田礼雄来訪す、
廿三日、英国大使館に赴く、○「女子修身」巻一千枚の奥附を金港堂に付与す、○夜、田中義能来訪す、○文学社の「中学修身」を訂正す、
廿四日、新旧総長の送迎会に植物園に赴く、冨井政章、寺尾寿等と会見す、
廿五日、書状を元良勇次郎、建部遯吾、三石賤夫、田中守午、亀谷聖馨、姉崎正治に送る、○訂正「中学修身」第二巻を文学社に付与す、○「朱子哲学」一部を亀谷聖馨に送る、○武士道叢書（中巻）六百巻の奥附を博文館に付与す、○補永茂助来訪す、之にKnight's Mythologyを貸付す、○Hearn, Japanを読む、
廿六日、黒田侯邸に赴き、尋いで文部省に国語調査会に赴く、○Hearn, Japanを読む、
廿七日、黒田家後室豊子の葬式に青山に赴く、○不在中松井等来訪す、○Hearn, Japanを読む、
廿八日、徳谷豊之助、中島徳蔵、豊原清作、川上生八、小清水金蔵

来訪す、○端書を小杉熈及び中島徳蔵に送る、
廿九日、「倫理と宗教との関係」を冨井政章に送る、○Hearn, Japanを読む、○書状を冨井政章及び佐伯俊二に送る、
三十日、終日著述に従事す、○佐藤吉次来訪す、○妻女姉崎及び其他に訪問に赴く、○「新編倫理」下巻五百枚の奥附を金港堂に付与す、
卅一日、本月七日以後の到来物は如ゝ左、

鯛でんぶ	高瀬武次郎	菓子箱	松永
菓子箱	井上頼国	菓子其他	津野
辣薑	間千代	玉霰	川端
菓子箱二ツ	秋山悟庵	漆塗箱	加藤玄智
野鴨一ツ	小杉熈	西洋菓子	市村鷹太郎
菓子	元良	菓子	笹川

二月

一日、小清水金蔵、石塚龍学、岡島誘来訪す、○三井銀行に赴き、帰途仏和女学校に寄る、○午后、雪子を拉して仏和女学校に赴き、Soeur Euphrosineに就いて仏語を学ばしむ、毎週二回（月曜及び木曜午后二時より三時に至る）一ヶ月報酬五円、
二日、内田周平、小清水金蔵来訪す、○国語調査会に赴く、○不在中宇野哲人、幣原坦来訪す、○書生をして勝間田稔の葬式に会せしむ、○帝国学士院規程を桜井錠二に送る、
三日、「聖者馬鳴」の序を亀谷馨に送る、○石川松渓、有馬祐政来訪す、○鈴木某をして同文館の為めに速記せしむ、○哲学雑誌、帝国文学、太陽、新公論等を読む、
四日、遠藤隆吉、小清水金蔵、秋山悟庵、大島正徳、河出静一郎、佐藤吉次、塩谷温来訪す、○太陽、明星及び国民将来の覚悟を読む、
五日、田山緑弥、小清水金蔵来訪す、○金弐円五拾銭を郵便為換にて、石田五六郎に送る、○「中学修身」巻三を考訂す、○書状を寺尾亨に送る、
六日、「訂正修身」五百枚の奥附を金港堂に付与す、○歎異鈔を読む、○中黒に赴く、○不在中井出時秀来訪す、○Mindを読む、
七日、病間録を読む、
八日、岡島誘、内田周平、野上俊夫、瀧田哲太郎来訪す、○書状を加藤弘之に送る、○無盡燈、教育学術界等を読む、
九日、小清水金蔵来訪す、○教育界、教育時論、国学院雑誌及び病間録等を読む、○此日、終日雪ふる、○書状を鹿田静七に送る、
十日、「朱子哲学」三百枚の奥附を冨山房に付与す、○写真一枚と金五円とを山田三良に送る、○宮本正貫、原平吉来訪す、○沢柳政太郎の送別会に大学の集会所に赴く、○妻女挙りて本郷座に赴き、松旭斎の手品を観る、○Janet, Elements of Moralsを読む、
十一日、賢所に参拝し、尋いて宮中に拝賀す、金子堅太郎、山座円次郎、戸水寛人、稲垣満次郎、肝付兼行、長井長義、鍋島直大等と会見す、○佐村八郎、鳥海玉子及び篠原某来訪す、
十二日、山本和吉来訪す、○夜、佐村八郎の「孝女白菊」を読む、
十三日、「女子修身」二千枚「中学修身」一千五百枚の奥附を金港

堂に付与す、○書状を林進、友保菅一に送る、○世界及び帝国文学を読む、
十四日、「中学修身」一千枚の奥附を金港堂に付与す、○不在中友枝高彦来訪す、
十五日、石川岩吉、篠原とく、波多江泰岳、学士会院書記来訪す、○夜、帝国文学、教育等を読む、
十六日、午前東京府師範学校に赴く、○午后国語調査会に赴く、○不在中波多野精一来訪す、○夜、病間録、復活の曙光等を読む、
十七日、宇野哲人来訪す、○午后、文芸協会発開式に紅葉館に赴く、鳩山和夫、矢野文雄、岩谷季雄、瀧精一、高瀬代次郎、長谷川福平等と会見す、○「中学修身」一千五百枚の奥附を金港堂に付与す、○復活の曙光を読む、
十八日、野上俊夫、蜷川龍夫、河出静一郎、佐村八郎、豊原清作来訪す、○「中学修身」三千五百枚の奥附を金港堂に付与す、○学士会院に赴く、
十九日、病間録及び禅宗并に国学院雑誌を読む、○上岡市太郎来訪す、
二十日、病間録及び我が新福音を読む、
廿一日、為二風邪一終日臥蓐、○贈二鶴瑞一来、○斎藤儀八贈二小魚一、来
廿二日、中島徳蔵来訪す、○斎藤寿七贈二小魚一来、○終日為二風邪一休息療養す、○田中義能に鶏卵一箱を送る、
廿三日、我が新福音及びHearn, Japanを読む、○自二田中義能一贈二食饌一来、○病少しく軽快となる、
廿四日、「中学修身」一千四百枚を文学社に付与す、○岡田良平、建部遯吾、小谷重、浦谷熊吉来訪す、○歎異鈔及び復活の曙光を読む、○強震あり、
廿五日、紀平正美、大島正徳、春日精之助、東儀季治及び成美堂手代来訪す、
廿六日、石川松渓、辻本卯蔵来訪す、○書状を原亮三郎に送る、○妻女すみれ会に元良氏宅に赴く、
廿七日、「催眠的心理学」の序を成美堂に付与す、○病間録、復活の曙光、教育時論、丁酉倫理講演集を読む、
廿八日、「朱子哲学」を市村瓚次郎に付与す、○小笠原実成より「かもじ苔」を送来たる、○本年の来賀者及び来賀状を計算するに、名刺二百三十一、端書五百四十八、封書一百三十八、総計九百十七、

三月

一日、「孝女白菊」及び序文を佐村八郎に送る、○秋山悟庵、菊池広来訪す、○書状を村上俊江、内田周平、小笠原実成に送る、○病間録及び新人を読む、○清子高等学校に赴く、
二日、国語調査会に赴く、○新人、新仏教、丁酉倫理、教育実験界等を読む、○雪子、遠藤隆吉及び鶴岡照子を訪ふ、
三日、雪、○新人、中央公論等を読む、○「我邦に於ける哲学の将来」を同文館に送る、
四日、伊藤岩治郎、坂本嘉治馬、瀧田哲太郎、佐藤吉次、西河龍治

来訪す、○午后、哲学会に大学に赴き、「我邦に於ける戦後の宗教如何」を演述す、○不在中大島義脩、中島茂一来訪す、〔頁下部に「巽軒気焔」の新聞記事切抜貼付〕

五日、「中学修身」(巻三)七百枚の奥附を文学社に付与す、○友枝高彦、内田旭来訪す、○「中学修身」巻四を訂正す、○夜、新公論、史学雑誌、新小説等を読む、

六日、「中学修身」四百八十四枚の奥附を文学社に付与す、○大学会議所に於て軍人の講話を聴く、○書状を伊藤銀月に送る、○夜、萩之家遺稿を読む、

七日、鵜飼金三郎来訪す、○端書を岡田良平、尾原亮太郎に送る、

八日、田山緑弥、河井英三、岩谷源八来訪す、○夜、深作安文夫婦、大島義脩来訪す、○萩之家遺稿及び教育界、新声等の諸雑誌を読む、○此日冨山房手代中村某為二相談一来、

九日、書状を山口鋭之助、上村観光に送る、○国語調査会に赴く、○「陽明哲学」一百枚の奥附を冨山房に付与す、○佐々木久二来訪す、○萩之家遺稿、宗教界等を読む、○夜、書状を小谷重に送る、○雪子葉山照子を大宮に訪ふ、

十日、書状を大倉喜八郎及び蠣瀬彦蔵に送る、○軍人(秋山海軍中佐)の講話を大学集会所に聴く、○秋山悟庵来訪す、

十一日、加藤玄智、薄田貞敬、蠣瀬彦蔵、西河龍治、長田権次郎、日本新聞記者某来訪す、○大倉喜八郎の招燕に葵町に赴き、ブロニスラス、ビルソウドスキー氏の講話を聴く、稲垣満次郎、松原新之助等と会見す、○「中学修身」三千枚の奥附を金港堂に付与す、○「現今の宗教的傾向」を隆文館の河井英三に付与す、○此日池田夏苗来訪せしも、以レ無二余暇一不レ遇、

十二日、沢田撫松、石川岩吉来訪す、○書状を佐藤三吉に送る、○鈴木某為二井上健児一来、○夜、瀧田哲太郎をして談話を筆記せしむ、○中央公論を読む、○渡辺良法、大学に来訪す、

十三日、談話筆記の訂正を中島茂一に送る、○武士道叢書巻上(第五版)八百枚及び巻下(再版)八百枚の奥附を博文館に付与す、○書状を本田種竹に送る、○「朱子哲学」一部を大学図書館に寄贈す、○穂積陳重のAncestor-worship and Japanese Lawを読む、

十四日、土肥竹次郎来訪す、○書状を留岡幸助に送る、○Hozumi's Ancestor-worshipを読む、

十五日、「中学修身」四百拾八枚の奥附を文学社に付与す、○井口龍城、長谷川誠也、池田夏苗、清水金右衛門来訪す、○帝国文学を読む、○夜半、憂二胃痙攣一、

十六日、渡辺真来訪す、○三井銀行に赴き、尋いで国語調査会に赴く、○望月信道来訪す、有レ故不レ遇、○文章世界を読む、○胃痙攣軽快となる、

十七日、午前写真師来たりて写真を取る、○前田晁、小宮八十二来訪す、○小宮氏をして博文館の為めに速記せしむ、○妻女津野慶太郎宅に赴く、

十八日、桜井一義、東海三郎、蠣瀬彦蔵、三輪田元道、浦谷熊吉来訪す、○「中学修身」四千枚の奥附を金港堂に、「中学修身(巻四)七百枚の奥附を文学社に付与す、○書状を加藤孫平、井口龍城等

に送る、○Paulsen, Einleitung in die Philosophieを読む、
十九日、書状を三輪田元道、姉崎正治、成田衡夫等に送る、○「男女交際論」筆記を中央公論に付与す、○「陽陽哲学」一百枚の奥附を冨山房に、「中学修身」(巻一)二千枚の奥附を金港堂に付与す、○夜、講演筆記訂正を望月信道に送る、○Lloyd, Buddhist Meditationsを読む、
二十日、「中学修身」(巻四及び五)四千枚の奥附を金港堂に、「朱子哲学」二百枚「古学哲学」一百枚の奥附を冨山房に付与す、○Lloyd, Buddhist Meditationsを読む、○梅謙次郎来訪す、○教育を読む、
廿一日、「文学的論文の三要素」を田山緑弥に送る、○Hozumi's Ancestor-worship及び教育界を読む、○姉崎正治来訪す、○経師屋来たる、○「中学修身」二千三百八十四枚の奥附を文学社に付与す、○Paulsen, Einleitung in die Philosophieを読む、
廿二日、「中学修身」九百六拾八枚の奥附を文学社に付与す、○岡島誘来訪す、○「中学修身」三千枚の奥附を金港堂に付与す、○不在中小林儀則来訪す、○Paulsen, Einleitung in die Philosophie及びHearn, Japan An Interpretationを読む、○書生をして丸茂文良の葬式に会せしむ、○夜、小清水金蔵来訪す、
廿三日、「中学修身」五百枚の奥附を文学社に付与す、○葉山万次郎、清水潔来訪す、○清水写真を取る、○午后、「中学修身」七百枚の奥附を文学社に付与す、○夜、男爵黒田長和(ナガトシ)公及び栗野大使の送別会に赴き、衆に代りて挨拶をなす、添田寿一、津野慶太郎、片岡久太郎、山座円次郎等と会見す、
廿四日、「中学修身」四百五十枚の奥附を文学社に付与す、○斎藤延、入江海平、浦谷熊吉来訪す、
廿五日、三輪田女学校の卒業式に赴き、一場の演説をなす、○「中学修身」三百枚の奥附を文学社に付与す、○Paulsen, System der Ethikを読む、
廿六日、磯江潤、桝谷大念、坂上忠之助、浦谷熊吉来訪す、○不在中三輪田元道為二御礼一来訪す、○「中学修身」八百二十枚の奥附を文学社に付与す、○吉田熊次より書状来る、○「自称予言者を評す」教育時論に出づ、○書状を福来友吉に送る、
廿七日、「女子修身」一千五百枚の奥附を金港堂に付与す、○書状を三輪田元道、佐々木信綱等に送る、○午后、Pensionnat des soeur de St.Paulに赴く、○牧野伸顕、文部大臣となる、○「我が新福音」を読む、
廿八日、笹川種郎来訪す、○「女子修身」一千枚の奥附を金港堂に付与す、○桑木厳翼、瀬川秀雄来訪す、○すみれ会を催す、福来友吉催眠術の講話をなし、尋いで実験をなす、○「我が新福音」及びLloyd, Buddhist Meditationsを読む、
廿九日、森良三郎、土肥竹次郎来訪す、○演説筆記の訂正をなす、○Lloyd, Buddhist Meditationsを読む、
三十日、秋山悟庵、森良三郎来訪す、○書状を野田義夫、近藤瓶城、高島嘉右衛門に送る、○「中学修身」四百枚の奥附を文学社に付与す、○松岡寿を訪ひ、尋いで弘田長および片山国嘉の送別会に

大学会議所に赴く、
廿一日、浦谷熊吉来訪す、○三井銀行に赴く、○「我邦に於ける戦後の宗教如何」の訂正を紀平正美に送る、○夜、求道を読む、

四月

一日、森良三郎、浦谷熊吉、乗杉嘉寿、井上成美、仝健児、伊藤岩次郎、風見謙次郎、小林郁来訪す、○「中学修身」七百枚の奥附を文学社に付与す、○書状を高宮乾一、赤津正親、福来友吉に送る、○田中義能、清水金右衛門来訪す、○東洋哲学、新公論等を読む、
二日、「中学修身」五百八十五枚の奥附を文学社に付与す、○小清水金蔵来訪す、○書状を清野長太郎、野田義夫及び川端等に送る、○福来友吉寄送催眠心理学来、○新仏教、無盡燈及びLloyd, Buddhist Meditationsを読む、
三日、辻本卯蔵及び浦谷熊吉来訪す、因て「東亜の光」発行の事を議す、○秋庭正道来訪す、○「中学修身」巻五を訂正す、○夜、東敬治来訪す、○中央公論、太陽及び萩之家遺稿を読む、
四日、「農業修身」五百枚及び「中学修身」三千枚の奥附を金港堂に付与す、○浦谷熊吉来訪す、○書状を土井林吉に送る、○William James, The Varieties of religious experience, Lloyd, Buddhist Meditations及び早稲田文学、中央公論等を読む、
五日、横須賀に赴く、軍港を見る、○「中学修身」二千枚の奥附を金港堂に付与す、○森良三郎来訪す、○「現今の宗教的傾向」新声に出づ、
六日、森良三郎と共に巣鴨の畑地を見る、○不在中友枝高彦、薄井秀一来訪す、○宗教界、新声、教育時論を読む、
七日、家族を拉して桜花を上野に墨陀に観る、○大平洋画会に赴く、○松本亦太郎来訪す、○「中学修身」三百七十五枚の奥附を文学社に付与す、○「中学修身」二千枚の奥附を金港堂に、「中学修身」九百九十五枚の奥附を文学社に付与す、○夜、勝田吉次郎来訪す、
八日、午前九時京華学校卒業式に臨み、一場の演説をなす、山脇玄、仝房子、大田原一清、原田稔甫、須藤求馬、山田時之助等と会見す、○午后、釈尊降誕会に錦輝館に赴き、所感を述ぶ、○東京学士会院に赴く、○森良三郎地所購買の為に来る、○井上静子来訪す、○不在中中熊直喜来訪す、
九日、浦谷熊吉、森良三郎、河出静一郎、磯江潤来訪す、○三井銀行に赴く、○秋山悟庵に幼学綱要を貸付す、○スガ子東京府立高等女学校に入る、○「農業修身」二百枚の奥附を金港堂に付与す、○井上健児仝静子郷里に赴く、○教育時論及びHearn's japan, Hozumi's ancestor-worship and Japanese Lawを読む、
十日、森良三郎と共に板橋駅に赴き、豊田常次郎より北豊島郡巣鴨村大字巣鴨字宮仲約一千坪（九百九十四坪）を買取る、代価弐千九百八拾五円、○友枝高彦、小谷重、森良三郎来訪す、○「中学修身」一千四拾三枚を文学社に、「女子修身」五百枚の奥附を金港堂に付与す、○Hearn's Japanを読む、
十一日、高原孝、小清水金蔵、渡辺良法来訪す、○「中学修身」三百枚の奥附を文学社に付与す、○午后、蠣瀬彦蔵、安田旭軒来

訪す、○「中学修身」一千枚の奥附を金港堂に付与す、○書状を福来友吉、浦谷熊吉に送る、○「東洋倫理摘要」を秋山悟庵に送る、○不在中松川二郎来訪す、○Jame's Religious Experienceを読む、

十二日、妻女を拉して瓦斯会社に神田錦町に赴く、○森良三郎、新井田次郎、大島正徳、岡島誘、松川二郎、磯江潤、浦谷熊吉来訪す、○「中学修身」百四十枚の奥附を文学社に付与す、○書状を濱尾新、熊谷五郎に送る、○Jame's The Varieties of religious Experienceを読む、○植木屋来る、

十三日、博文館の為に新井田次郎をして速記せしむ、○国語調査会に赴く、○浦谷熊吉来訪す、○Jame's The Varieties of religious experience及びHearn's Japan: an Interpretationを読む、

十四日、森治部次郎来訪す、○「中学修身」一千枚の奥附を金港堂に付与す、○夜、談話筆記を訂正す、○「文学的論文の三要素」文章世界に出づ、

十五日、北村教厳、友枝高彦、山内雄太郎来訪す、○「中学修身」二百枚の奥附を文学社に付与す、

十六日、学生中井をして談話を筆記せしむ、○速記の訂正をなす、

十七日、「近時の宗教的傾向に就いて」を博文館に付与す、○「女子修身」一千枚の奥附を金港堂に付与す、○竹内義一来訪す、○信仰之余瀝、懺悔録及び祝祭日講話を読む、○雷雨、

十八日、「中学修身」四百七十九枚の奥附を文学社に、「中学修身」二千枚の奥附を金港堂に付与す、○不在中櫛引成夫、熊谷直一来訪す、○「農業修身」二百枚の奥附を金港堂に付与す、

十九日、熊谷五郎、広池千九郎来訪す、○「女子修身」一千枚の奥附を金港堂に付与す、○桑港大地震、○横井時冬逝く、

二十日、「中学修身」百五十枚の奥附を文学社に付与す、○浦谷熊吉、入江海平、姉崎増子来訪す、○「陽明哲学」百九十八枚」の奥附を冨山房に付与す、○夜、「祝祭日講話」を読む、○和田実来訪す、有レ故不レ遇、

廿一日、「中学修身」四百枚の奥附を文学社に付与す、○夜、小林一郎来訪す、○「明治年中行事」を読む、

廿二日、和田実、曽田文甫、中熊直喜、長谷川福平、遠藤隆吉、溝淵貞重来訪す、○前田利為の園遊会に赴き、尋いで筑前学友会に赴く、寺尾寿、添田寿一と会見す、○書生をして横井時冬の葬式に会せしむ、○「我邦に於ける哲学の将来」学術の進歩に出づ、

廿三日、「祝祭日講話」及び「年中行事」を読む、

廿四日、「中学修身」二百枚の奥附を文学社に、「農業修身」二百枚の奥附を金港堂に付与す、○夜、浦谷熊吉来訪す、○契約書を東京瓦斯株式会社に送る、

廿五日、金仙宗諄来訪す、

廿六日、浦谷熊吉、櫛引成太来訪す、○書状を土井林吉、梅謙次郎等に送る、

廿七日、書状をロイドに送る、

廿八日、「中学修身」五百五拾枚の奥附を文学社に付与す、○埼玉県児玉郡教育会に赴き、児玉町に於て「現今の人生問題に就て」一場の演説をなす、帰途五州園に寄り、夜、八時半頃帰宅す、此日、

八重野範三郎、東郷重清（郡長）田嶋紋次郎（郡視学）関根菊治郎（丹庄村長）中村方定（県視学）松本文作（本庄町長）小林浜次郎、鳥羽正時等と会見す、○不在中磯江潤来訪す、

廿九日、小林一郎、山田修、豊原清作、酒井真来訪す、○黒田家の園遊会に赴く、

三十日、行二凱旋大観兵式一于青山練兵場一、兵数凡四万有余、○書状を岡松参太郎、清野長太郎に送る、○葉山万次郎来訪す、○宮崎道正を訪ふ、○夜、演説速記の訂正をなす、

五月

一日、始めて「東亜の光」と題する雑誌を発行す、○浦谷熊吉来訪す、○「戦後に於ける我邦の宗教如何」の残稿を紀平正美に送る、○夜、東亜の光を読む、

二日、「中学修身」五百枚の奥附を金港堂に付与す、○「近時の宗教的傾向に就いて」太陽に出づ、

三日、「中学修身」五百枚の奥附を金港堂に付与す、○「中学修身」三百九十七枚の奥附を文学社に付与す、○浦谷熊吉、小清水金蔵、木山熊次郎、佐藤吉次来訪す、○夜、補永茂助の論文を読む、

四日、「東亜の光」を土井林吉、石川岩吉、境野哲、木山熊次郎、中島徳蔵に送る、○書状を桑木厳翼、円藤鎮、土井林吉、狩野亨吉、清水金右衛門に送る、○午后、凱旋祝賀会に新宿植物御苑に赴く、○学生の論文を読む、

五日、辻本卯蔵、渡辺良法来訪す、○開成中学に赴き、修養談をなす、石田羊一郎、堀江秀雄等と会見す、○書状を川端に送る、○夜、学生の論文を読む、○書状を磯江潤に送る、

六日、紀平正美、補永茂助、淀野耀淳、浦谷熊吉来訪す、○法政大学に赴き、支那学生の為めに「行為と目的との関係」を演説す、○「女子修身」二百枚の奥附を金港堂に付与す、○書状を文学社に送る、○乾政彦、竹内義一に法政大学に会見す、○田中久来訪す、有レ故不レ遇、

七日、「東亜の光」を加藤孫平、佐伯俊二、粒良市三郎、デニング、勝田吉次郎に送る、○デニング氏より「朱子哲学」の批評を送来る、○哲学の小試験を行ふ、○補永茂助、石田羊一郎、堀江秀雄来訪す、○此日より瓦斯を点す、○夜、亀田次郎来訪す、

八日、大学の評議会に赴く、○同文館の為に鈴木慶福をして速記せしむ、

九日、「中学修身」二百八拾枚の奥附を文学社に付与す、○浦谷熊吉来訪す、○学生の論文を読む、

十日、加藤駒二、安田旭軒、姉崎正治、後藤瑞巌、浦谷熊吉来訪す、○東洋哲学の試験を行ふ、○読売新聞記者薄井秀一来談す、之に写真を貸付す、

十一日、芳賀真咲の葬式に谷中に赴く、○「中学修身」壱百四枚の奥附を文学社に付与す、○夜、浦谷熊吉、信近春城、堀田相爾、中井宗次郎、鈴木周作来訪す、「東亜の光」に就いて会談す、○学生の論文を読む、

十二日、梅垣謙道、桜井一義来訪す、○端書を加藤孫平、香村宜園に送る、○学生の論文を読む、○間千代来る、○此日始めて瓦斯

を書斎に点す、
十三日、香村宜園、補永茂助、小林義則来訪す、○学士会院に赴き、重野安繹の「神代」の講演を聴く、○書状を西島剛太郎に送る、○学生の論文を読む、○端書を姉崎正治、及び法科大学に送る、
十四日、漆塗箱をロイド嬢に送る、○浦谷熊吉来訪す、○学生の論文を読む、○夜、浦谷熊吉又来る、○春枝正勝女中と共に上野子供博覧会に赴く、
十五日、ロイド嬢の結婚式にSt.Andrew's Churchに赴く、尋いで園遊会に莅む、○「中学修身」(巻五)三百枚の奥附を文学社に付与す、
十六日、「女子修身」四百枚の奥附を金港堂に付与す、○「近時の宗教問題」を金港堂に付与す、○秋田智順来訪す、
十七日、「教育上より見たる現今の宗教問題」を同文館に送る、○加藤玄智、大原孫三郎、其他大学々生数人来訪す、○夜、速記の訂正をなす、○此日、浦谷熊吉来談す、
十八日、午后一時半頃、上野ステーションに赴き、七、三〇秋田市に向って出発す、石川貞治と汽車中に会見す、
十九日、午前三、一一福島着、仝四、三〇出発、○午后三、一五秋田市着、直に東北六県連合教育大会に赴き、「日本の社会と国民教育」を演説す、知事清野長太郎、事務児玉喜八、仝小山巳熊、山形県事務官荒木大蔵、秋田市会議長長谷川勝太郎、秋田地方裁判所長山崎城、弘前市助役佐田正之丞、秋田市助役大槻綱俊、肝付兼行、野尻精一、井口あぐり子、乗杉嘉寿、秋田地方裁判所検事正菅野善三郎、秋田図書館長岡忠精、東奥日報記者下遠愛太郎、秋田公論主筆堀井源次郎(汀水)、秋田県参事会員井上広居、秋田県師範学校長保田銓次郎、秋田工業学校長中村速一、歩兵少佐志岐重義、秋田県視学深谷泰蔵、三等軍医又重完吾、姉崎鈆太郎、戸崎順治、佐々木高治、三神正健、山形県高等女学校長津田元徳等と会見す、○石橋旅館に投ず、○夜、志田亭に招燕せらる、○「中学修身」三百枚の奥附を金港堂に付与す、
二十日、笹原貫軒来訪す、○教育展覧会、共進会、公園地を観る、○午前十一時五十六分出発、清野知事マトン等十数人送来る、汽車中に於て米沢高等女学校長近新次郎、荘内中学校長羽生慶三郎、庄内染織学校長本田估武等と会見す、○不在中松本道別、宮内黙蔵、波多野精一、桜井義肇、大島正徳、岡島誘、畠山健、鷲尾順敬等来訪す、
廿一日、午前八時頃帰宅、○桜井義肇、浦谷熊吉、白鳥庫吉来訪す、○学生の論文を読む、
廿二日、「中学修身」一百枚の奥附を文学社に付与す、○「東亜の光」を保々清音に送る、○書状を報徳会及び蠣瀬彦蔵、清水金右衛門に送る、○学生の論文を読む、
廿三日、間端吾来訪す、○学生の論文を読む、○イブセン逝く、
廿四日、宮崎道正、有馬祐政、溝淵正気来訪す、○学生の論文を読む、○口絵の解題を弘道館に送る、
廿五日、書状を山中立木、近藤柳助に送る、○田村喜作、浦谷熊吉、佐伯利磨来訪す、○夜、独逸国特命全権大使男爵ドクトル、ムム、

フォン、シュワルツェンスタインの披露会に同大使館に赴く、乃木希典、原敬、寺内毅、金子堅太郎、都築馨六、長井長義、花房義質、林権助、チール、オールト等と会見す、

廿六日、「陽明哲学」及び「古学哲学」并に羅山文集一冊をロイドの使者に付与す、○蠣瀬彦蔵、柳谷謙太郎、姉崎正治、浦谷熊吉来訪す、○学生の論文を読む、

廿七日、大島正徳、熊谷直一来訪す、○書状を溝淵貞重に送る、○午后、国民英学会校友会に帝国教育会に赴き、一場の演説をなす、石川半山、和田垣謙三、松崎善之助等と会見す、○横山達三の「朱子哲学」批評、史学雑誌に出づ、

廿八日、御礼の為め独逸国大使館に赴き、尋いで日本倶楽部にサー、エルネスト、サトーの歓迎会に赴く、伊藤博文、石黒忠悳、花房義質、津田仙、大倉喜八郎、成瀬仁蔵、島田三郎、尾崎行雄、松崎善之助、平田東助、岡田良平、朝比奈知泉、横井時雄等と会見す、○「中学修身」二百枚の奥附を文学社に付与す、○加藤玄智の論文を読む、〔頁下部に新聞記事切抜貼付、「サトウ公使歓迎会」〕

廿九日、小野藤太、浦谷熊吉来訪す、○夜、羅馬字会に大学の会議所に赴く、南條文雄、岩谷季雄、林董、丸山通一、向軍治、高橋龍雄等と会見す、○加藤玄智の論文を読む、〔頁下部に新聞記事切抜貼付、「林外相と羅馬字」〕

三十日、加藤玄智の論文及び脇村民次郎の論文を読む、○不在中曽根松次郎来訪す、

卅一日、山科凌雲、曽根松次郎、徳川達孝来訪す、○夜、黒田家の宴会に赴く、伊藤博文、金子堅太郎、徳川家達、徳川達孝、山座円次郎、添田寿一、鍋島直大、仝直映、太田峰三郎、広橋賢光、林権助、団琢磨等と会見す、○加藤玄智及び新井田次郎来訪す、○「東亜の光」第二号二十部送来る、

六月

一日、新井田次郎をして速記せしむ、○畠山健来訪す、○「東亜の光」を土井林吉、徳川達孝、中島徳蔵、木山熊次郎、境野哲に送る、

二日、「東亜の光」を横井時雄、徳冨猪一郎、島田三郎、デニング、海老名弾正、溝淵正気、中島力造、三宅雄次郎に送る、○「二宮翁夜話」を読む、○阿部憲吉（図書新報社）来訪す、有レ故不レ遇、○夜、雪子を拉して楽苑会に青年会館に赴く、伊沢修二と会見す、

三日、波多野精一、加藤玄智、浦谷熊吉、遠藤隆吉、吉川万二郎来訪す、○午后、実修女学校の落成式に赴く、大隈重信、千家尊福、塗師谷秀教、千田時次郎、場地丈雄、山田時之助等と会見す、○不在中姉崎袖子、仝増子来訪す、○「東亜の光」を磯江潤及び堀江秀雄に送る、○夜、小林一郎来訪す、○宮本帯刀逝く、

四日、「東亜の光」を黒田長成、谷本冨、千賀鶴太郎、松平直亮、磯辺弥一郎、桜井義肇に送る、○「倫理と宗教との関係」を河上肇に送る、○二宮翁夜話を読む、

五日、二宮翁夜話を読む、○夜、報徳会に帝国教育会に赴き、一場の演説す、岡田良平、留岡幸助、鈴木藤三郎、中川望、北條時敬、朝吹英二等と会見す、○不在中甫森謹吾、浦谷熊吉来訪す、〔頁下部に新聞記事切抜貼付、「報徳会の講演」〕

六日、宗三寺に赴き、山鹿素行の為めに法会を営む、野村靖、柳谷謙太郎、稲垣万次郎と会見す、終りに素行の墳墓に謁して還る、○「社会組織上より見たる国民教育」を博文館に付与す、○浦谷熊吉来訪す、○二宮翁夜話を読む、○不在中鈴木徳太郎来訪す、○ハルトマン逝く、享年六十五、

七日、有馬祐政、足立四郎吉（号栗園）、尾木原勝任、森良三郎、大高金之助来訪す、○二宮翁夜話を読む、○「近時の宗教問題」教育界に出で、「教育上より見たる現今の宗教問題」教育学術界に出づ、

八日、読売新聞記者薄井某及び森良三郎来訪す、○国語調査会に赴く、○二宮翁夜話を読む、○書状を白鳥庫吉に送る、

九日、学習院に赴き、写真を取る、林博太郎、神田乃武、山口鋭之助等と会見す、○児玉喜八、森良三郎、中井宗太郎来訪す、○浦谷熊吉妻逝く、○二宮翁夜話を読む、○中村鉄子逝く、

十日、宗教研究会に浅草栄久町に赴き、祝詞を述ぶ、前田慧雲、芝田徹心、来馬琢道等と会見す、○学士会院に赴く、○井上健児、沼田藤次、森良三郎来訪す、○本年春期の教科書の検印総数を調査するに、金港堂の中学修身参万五千七百五拾枚、女子修身九千百枚、新編倫理七百五拾枚、農業修身一千百枚、商業修身五百枚、文学社の中学修身壱万七千七百二十二枚、総計六万四千九百弐拾弐枚、

十一日、書状並に為換参円を宮本益匡に送る、○「中学修身」五拾枚の奥附を文学社に付与す、○書状を蠣瀬彦蔵に送る、○スピノザのEthique及びLettre并にショッペンハウエルのKritik der Kantischen Philosophieを読む、

十二日、哲学科の試験を行ひ、尋いで心理学科の試験に莅む、○「古学派之哲学」一百枚の奥附を冨山房に付与す、○夜、哲学科の学生と学生集会所に会食す、○不在中西山渚山、山本和吉来訪す、○森良三郎巣鴨村に赴く、○妻女中村氏に赴く、

十三日、「女子修身」二百枚の奥附を金港堂に付与す、○中村敬宇未亡人鉄子の葬式に谷中に赴く、○浦谷熊吉父来訪す、○小野藤太よりビール壱打送来る、○書状を田中弘之に送る、○夜、書状をコーツ及び吉田米三郎に送る、○委任状を学習課長原十太に送る、

十四日、西村渚山、コーツ来訪す、○石黒忠悳を訪ふ、○夜、亜細亜学会に赴く、正木直彦、徳川達孝、内田魯庵、那珂通世等と会見す、

十五日、倫理学科の試験に大学に赴く、午前八時より午后七時半に至りて結了す、○夜、中井宗太郎来訪す、

十六日、森良三郎、清水組の手代と共に巣鴨村に赴く、○学習院より報酬を受取る、○「中学修身」四十七枚の奥附を文学社に付与す、○契約書を冨山房に送る、○遠藤夏子来る、

十七日、甫森謹吾、田中経太郎、吉川万次郎、田中久、大島正徳、矢野太郎、浦谷熊吉、秋山悟庵、鷲尾順敬、大原保、蠣瀬彦蔵来訪す、○勅語衍義一千部の奥附を林平次郎に付与す、○夜、「東亜の光」を読む、

十八日、日本銀行より国庫債券の遺償を受取る、○畠野正庸（富山県属）来訪す、○米人セルドンの歓迎会に大学山上御殿に赴く、成瀬仁蔵、麻生正蔵、横井時雄、中島泰蔵等と会見す、
十九日、北村教厳来訪す、○妻女をして山口しげに書状を送らしむ、
二十日、浦谷熊吉、森良三郎来訪す、
廿一日、大峡秀栄、補永茂助、浦谷熊吉来訪す、○「民族的の花」を秀英舎に送る、
廿二日、午前宮内省に赴く、賜物あり、○午后、三井銀行に赴き、尋いで国語調査会に赴く、○報徳記を読む、
廿三日、報徳記を読了す、○森良三郎、清水組手代来訪す、○雪子すみれ会に赴く、
廿四日、浦谷熊吉、佐々木哲哉、加藤駒二来訪す、○丁酉倫理会に赴く、○夜、浦谷熊吉又来訪す、○不在中古城貞吉来訪す、
廿五日、帝国学士院委員会に赴く、○山口しげ来る、○報徳外記を読む、
廿六日、千田時次郎をして談話を筆記せしむ、○浦谷熊吉来る、○往事録及び報徳外記を読む、
廿七日、高楠順次郎、狩野亨吉、松本亦太郎、桑木厳翼、波多野精一等の送迎会に大学集会所に赴く、○不在中酒井真、大浦肇来訪す、○「二宮尊徳翁に就て」大農団に出づ、○山口しげ去る、
廿八日、酒井真、大原保、千葉亀雄、小笠原敬、大浦肇、船田三郎来訪す、○金拾円の為換を中洲老母に送る、○報徳外記を読む、
廿九日、安井小太郎、佐藤吉次、浦谷熊吉来訪す、○文部省に赴き、尋いで郵船会社に赴く、○修身科検定予備試験問題を松本順吉に付与す、○伝習録を読む、
三十日、帝国学士院候補者推選の為に大学集会所に赴く、○大浦肇来訪す、○書状を吉田熊次に送る、○晩景幣原坦来訪す、

七月

一日、上野陽一、酒井真、下田歌子、金仙宗諄、遠藤隆吉、外一名来訪す、○毎月会に女子大学に赴く、大隈重信、高田早苗、横井時雄、嘉納治五郎等と会見す、○帝国学士院に赴く、○「東亜の光」第三号出づ、○佐村八郎著孝女白菊成る、
二日、「東亜の光」を松平直亮、三宅雄次郎、島田三郎、谷本富、中島力造、千賀鶴太郎、徳冨猪一郎、斎藤庸一郎、冨田春山及び川端に送る、
三日、坂本嘉治馬、斎藤唯信、石橋則隆、高橋正熊及び丸善手代来訪す、○「東亜の光」を土井林吉、境野哲、古川勝隆、村上茂登子、三好愛吉、加瀬駒太郎、木村鷹太郎、佐伯俊二、粒良市三郎、デニングに送る、○浦谷熊吉為二雑誌一来、
四日、新仏教、新公論、無盡燈、成功を読む、○書状を遠藤隆吉に送る、
五日、魚住惇吉、足立四郎吉、浦谷熊吉来訪す、○「日本家庭辞書」の序を弘道館に送る、○此日、「普通教育講習会」の事を議せんが為に学士会事務所に赴く、○狩野亨吉、谷本富、狩野直喜京都文科大学教授となる、○「東亜の光」を中島徳蔵、長谷川誠也、武島又次郎、佐村八郎、鷲尾順敬に送る、

六日、「倫理教科書総説」の奥附二百枚を金港堂に付与す、○宗教界、早稲田学報、太陽、新時代を読む、○文科大学懇親会に赴く、
七日、文部省に赴き、牧野伸顕と会見し、尋いで学習院女学部に赴き、下田歌子と会見す、○「東亜の光」を上村観光、片岡久太郎、亀谷馨、長田偶得、蔵原惟郭、勝田吉次郎、阪口才之助、堀江秀雄、高橋龍雄、木山熊次郎に送る、○報徳外記を読む、
八日、伊沢修二、阿部維巌、田中義能、高畑定次郎、秋田智順、内田周平来訪す、○帝国学士院に赴く、○浦谷熊吉為二雑誌一来、
九日、「中学修身」五十枚の奥附を文学社に付与す、○書状を菊池大麓に送る、○石橋友次郎、浦谷熊吉、尾木原勝任、塩谷温、笹川老母来訪す、○報徳外記を読む、
十日、帝国大学の卒業式に赴く、卒業生総数六百七十七人、(法科二百二十六人、医科百四人、工科百五十三人、文科百十四人、理科二十八人、農科五十二人)、元田肇、ノルサ、辰野金吾、村上辰五郎等と会見す、○書状をコーツ及び夏目金之助に送る、○菓子箱を中洲、川端、甘木、宰府及び山形に送る、○報徳外記を読む、○正勝耳の疾を患ふ、
十一日、長谷川誠也、星野恒、蠣瀬彦蔵、Harper H. Coates、浦谷熊吉、坂本太一郎来訪す、○報徳外記を読む、
十二日、補永茂助、川上生八、曽根松次郎来訪す、○「東亜の光」を二宮熊次郎、古城貞吉、藤島了穏、松村正一、永井万太郎、飯田御世吉郎に送る、○書状を斎藤儀八、松本順吉、広池千九郎に送る、○報徳外記を読む、
十三日、明治三十二年(西暦一八九九)以来日々の事件を日記に録載す、此七年間の歴程如何を回思するに左の諸点に於て著しき進歩あるを自認す、
(一) 衛生上
(二) 経済上
(三) 家政上
(四) 修養上
(五) 事業上
(六) 交際上
然れども同時に前途尚ほ極めて遼遠なるを自覚す、○川上生八、住田真郷、鈴木鉄之助来訪す、○報徳外記を読了し、又太陽、教育界、無盡燈、日本人等を読む、○菓子を姉崎に、鰹節を村松に送る、
十四日、濱尾総長を大学に訪ふ、○伊沢千世子、尾原亮太郎、浦谷熊吉来訪す、○二宮先生語録を読む、
十五日、坂本嘉治馬、古城貞吉、遠藤隆吉来訪す、○「丁酉倫理」を読む、○浦谷熊吉をして森林太郎祖母の葬式に赴かしむ、○真浄寺に菓子を、間端吾にビールを送る、
十六日、博文館の為めに長谷川篤をして談話を速記せしむ、○浦谷熊吉来訪す、○「丁酉倫理」を読む、○菓子をEuphrosine及び松岡寿に送る、○中元の到来物は、如レ左、

一、鶏卵壱箱	広池千九郎	一、反物壱反	磯江潤
一、菓子箱壱個	石橋友次郎	一、菓子箱	笹川

一、筆墨　同文館　一、反物　冨山房
一、鰹節　村田五郎　一、ビール壱箱　弘道館
一、ビール三本　村松　一、氷入壱揃　林平次郎
一、ビール壱箱　蜷川龍夫　一、ハンケチ二打　三省堂
一、砂糖壱箱　清水商店　一、羊羹壱箱　浅倉
一、ビール壱打　尾原亮太郎　一、砂糖壱袋　野田商店
一、菓子壱箱及団扇二本　佐々木信綱

十七日、「女子修身」二百枚の奥附を金港堂に付与す、○成瀬仁蔵、石原即聞、坂本太一郎、辻本卯蔵、原平吉来訪す、○「丁酉倫理」を読む、

十八日、樋口秀雄、浦谷熊吉、井上成美来訪す、○「丁酉倫理」及び Henry van Dyke's School of Life を読む、

十九日、箕作元八、姉崎袖子、巣山了然、長尾景尭来訪す、○「学生は休業中何をなすべきか」を博文館に送る、○「陽明哲学」一百枚の奥附を冨山房に付与す、○ Henry van Dyke's School of Life を読了す、○夜、深作安文来訪す、

二十日、中島徳蔵、小林一郎来訪す、○夜、東方教育協会に上野精養軒に赴く、○王廣齢、区天相、麦秩厳、阮鑑光、韓家駒、談海及び河辺治六と会見す、○秋田県演説筆記を佐々木高治に送る、

廿一日、姉崎正治、日高有倫来訪す、○「二宮尊徳翁の人格及び学説に就いて」を報徳会に送る、

廿二日、佐藤金造、高橋正熊、須藤求馬、戒能義重、井上健児、吉冨恵来訪す、○ Spinoza's Ethique 及び二宮先生語録を読む、○大工来りて作業をなす、

廿三日、児玉源太郎逝く、○「女子修身」二百枚の奥附を金港堂に付与す、○賀古鶴所に赴く、○保々清音、浦谷熊吉、間端吾来訪す、○ Spinoza's Ethique 及び洪自誠が菜根譚并に「丁酉倫理」を読む、

廿四日、「女子修身」二百枚の奥附を金港堂に付与す、○三島復、森良三郎、姉崎袖子、仝増子来訪す、○ Spinoza's Ethique、二宮先生語録及び「丁酉倫理」を読む、○児玉源太郎（参謀総長陸軍大将）逝く、

廿五日、平川泉吉来訪す、○電報を高橋磯八郎に送る、○夜、図書刊行会に赴く、市島謙吉、物集高見、重野安繹、小杉榲邨、井上頼国、大槻文彦、松本愛重、関根正直、黒川真道等○「丁酉倫理」及び二宮先生語録并に Hegel's Philosophie des Geistes を読む、○書状を冨山県知事川上親晴に送る、

廿六日、電報を有馬祐政に送る、○広池千九郎、石橋臥波来訪す、○夜、沢柳政太郎を訪ふ、○二宮先生語録及び Hegel's Philosophie des Geistes を読む、○桑木厳翼、松本文三郎、松本亦太郎京都大学教授となる、

廿七日、「家庭辞書序」を弘道館に送る、○二宮先生語録及び「丁酉倫理」を読む、○妻女伊沢氏を訪ふ、

廿八日、書状を永平寺及び蜷川龍夫に送る、○浦谷熊吉、森田宗太郎来訪す、○二宮先生語録及び「丁酉倫理」を読む、

廿九日、土井林吉、有馬祐政、岡島誘、原秀四郎、桜井時太郎来訪

す、○書状を吉田熊次に送る、○午后、坂本健一来訪す、○夜、六、三○新橋出発、

三十日、午前五、一四米原着、仝七、五○出発、○仝一一、五七福井市着、名和屋に投ず、高橋磯八郎、隈本繁吉等と会見す、○橋本左内の墓に謁し、尋いで有志者の招燕に五岳楼に赴く、来会者は、高橋隈本二氏の外佐竹義文、今川一、長江有一、若杉喬、

卅一日、随行員若杉喬と共に永平寺に赴き、寺院全部及び宝物（御嗣書、承陽大師の自画賛、御絵伝及び風外の仏画）を観、諏訪周禅（副監院）と会見し、昼飧を喫して還る、○午后六、○○発、仝八、三○金沢市着、源円に投ず、○暑中の到来物は扇子（大倉書店）林檎羊羹（平川泉吉）菓子箱（石橋臥波）奉書紙（有馬祐政）雲丹（若杉喬）菓子（加瀬駒太郎）、○仏国内閣会議は原則上死刑廃止を可とする旨を決議せり、

八月

一日、吉村寅太郎を第四高等学校に訪ひ、学校を一覧す、尋いで県庁に赴き、知事村上義雄と会見す、事務官長野幹、仝小浜松次郎等と兼六公園に到り、図書館に入り、成巽閣に遊ぶ、○午后、瀬尾雅太郎旅館に来訪す、○「東亜の光」第四号出づ、

二日、午前五、二○発、仝八、一二福井市着、直に中学校に赴き、「戦後の教育問題」を演説す、羽佐間栄次郎（検事正）松崎覚本等と会見す、○午后一二、一二発、仝四、三六富山市着、富山ホテルに投ず、○夜、富山市の有志者に招燕せらる、川上親晴（知事）山村弁之助（事務官）堀口助治（事務官）安藤季雄（師範学校長）戸村定楠（魚津中学校長）菅池岩吉（県会議員）小杉熙、黒河内与四郎、石黒準太郎、新田芳、藤井務（郡長）糟谷宗資（教諭）、漆間民夫、小泉清政、山本重義（中佐）等と会見す、

三日、午前教育展覧会を観、尋いで「教育上の三大問題」を演説す、○午后富山市の景況を観、三、○○発、仝三、三一高岡市着、景望楼に投ず、○瑞龍寺に赴き、宝物を観る、小杉熙、小泉清政、篠島久太郎等亦随行し来る、○夜、高岡市の有志者に木津楼に招燕せらる、篠島久太郎（高等小学校長）中村安太郎（中学校長）前川喜左衛門（尋常小学校長）元田龍佐、間片信之、野尻栄吉（尋常小学校長）米林健造（中学教員）木津太郎平（中尉）馬場正太郎（教員）佐伯有平（女子高等小学校長）南西一郎（尋常小学校長）龍山義亮、志甫三良平（市会議長）菅野庄太郎、金部為秋等と会見す、

四日、午前高等小学校に於て「日本の社会組織」を演説す、○午后二、○五発、仝二、二二伏木着、直に古国府に赴き、宝物を観る、篠島久太郎、米林健造二人随行し来る、○四、三○頃汽船に乗る、吉田淳吉と邂逅す、

五日、午前五時頃直江津に上陸し、松葉館に休憩す、○八、五○発、午后一○、○○頃上野着（牟礼豊野間汽車不通）、○一○、三○頃帰宅、

六日、小林一郎、浦谷熊吉、辻本卯蔵、黒田家の使者及び清水満之助の手代来訪す、○佐伯利麿暑気見舞の為めに来る、○終日新聞及び雑誌を読む、○暑気見舞の書状を送来る者、加藤玄智、桑原

隠蔵、塩谷温、補永茂助、藤原直亮、市川万平、
七日、波多野精一、矢野利喜蔵、小清水金蔵、松永の妻来訪す、○弘文館より菓子を送来る、○夜、宮本正貫来訪す、○終日新聞及び雑誌を読む、
八日、桑木厳翼、坂本太一郎来訪す、○「東亜の光」を松村正一、佐伯俊二、古川勝隆、木山熊次郎、青木倉蔵に送る、○金港堂より反物を送来る、○夜、浦谷熊吉、桜井時太郎来訪す、○雑誌類を読む、○届書を帝国大学に送る、
九日、福来友吉、伊東尾四郎、曽根松太郎来訪す、○濱尾新を訪ふ、○大塚昱来訪す、有レ故不レ遇、○井上健児来る、
十日、午前一〇、〇〇新橋発、午后三、三〇鈴川着、直に大宮に赴き、大宮亭に宿す、雪子、清子、及び宣光を拉し来る、○此日出発前矢野利喜蔵来訪す、
十一日、午前八時馬に乗りて出発し、妙ヶ岳に赴き、茲に一宿す、是れを二合目とす、
十二日、午前五時出発、晴天なり、三合目に到る比に北点に富士峯影の映出せるを観る、真に壮観なり、午后六時絶頂に達す、乃ち此に一宿す、
十三日、下山す、途上元良勇次郎及び其家族に逢ふ、午后三時御殿場に着し、松屋に休憩す、○午后五、一八発、仝一九、三〇新橋着、一〇、〇〇頃帰宅、
十四日、終日新聞を読む、○浦谷熊吉来訪す、○赤木通弘逝く、
十五日、相良益次郎、服部宇之吉、松本文三郎来訪す、○夜、牧野文相の招燕に官邸に赴く、
十六日、白石正邦、井上成美来訪す、○書状を富山県教育会長川上親晴、高岡市教育会長菅野伝右衛門、福井県教育会長高橋磯八郎、隈本繁吉に送る、○真崎誠暑気見舞の為めに来訪す、
十七日、暑中見舞の為めに書状を送来る者、広江万次郎、小野藤太、佐々木信綱、佐藤金造、上岡市太郎、若守義孝、野田礼雄、石田織右衛門、蠣瀬彦蔵、○書状を川端及び小林一郎に送る、
十八日、妻女及び小児三人鎌倉に赴く、○小川義堂、曽根松太郎、保々清音来訪す、○書状を朝報社及び松村正一、田中濃、青木倉蔵に送る、
十九日、梶山彬、塩谷温来訪す、○妻女及び小児三人帰来る、時に夜の十時頃なり、○健児より書状を送来る、阿兄食道癌を疾んで漸く危篤に赴く、○浦谷熊吉来訪す、
二十日、「民族的の花」の略文を曽根松太郎に送る、○長谷川福平、高瀬武次郎来訪す、○「東亜の光」を高田定太郎、永井万太郎、田中濃、林進、青木常蔵、北畠竹之助、千賀鶴太郎、三好愛吉、大江文城、北里闌に送る、○書状を井上健児、三好愛吉、赤木通大、小川喜代蔵、中島五平に送る、
廿一日、白石正邦、三宅少太郎来訪す、○福原鐐三郎を文部省に訪ひ、尋いで文部大臣官邸に到る、○書状を富田貞松、姉崎正治、野置(アミ)松太郎、花田頓成に送る、○夜、土岐黄の邸に赴く、岡田良平、留岡幸助、白石正邦等来会す、三宅少太郎荘子の斉物論を講ず、
廿二日、浦谷熊吉、加瀬駒太郎来訪す、○「東亜の光」を粒良市三

郎に送る、○書状を松本順吉、姉崎正治に送る、○修身科検定予備試験を行ふ、○夜、姉崎袖子来訪す、

廿三日、濱尾総長を大学に訪ひ、尋いで坪井学長を弥生町に訪ふ、○間端吾、秋山悟庵、保々清音来訪す、○書状を冨田春山、宇野哲人、塩谷温に送る、○検定試験答案を読む、

廿四日、小笠原実成、塩谷温来訪す、○書状を三宅少太郎、小杉熙、秋山悟庵、山田長治郎、森友蔵に送る、○「東亜の光」を山田長治郎及び森友蔵に送る、○午后、小杉熙来訪す、○夜、検定試験答案を読む、○此大風雨、

廿五日、書状を秋山悟庵、小柴勉一郎に送る、○太田英隆、葉山万次郎、赤津正親来訪す、○夜、検定試験答案を読む、

廿六日、小杉熙、蜷川龍夫、補永茂助、坂本嘉治馬、桂有文来訪す、○夜、検定試験答案を読む、

廿七日、長谷川福平、川田鉄弥、原平吉来訪す、○福原鐐三郎及び松本順吉を文部省に訪ふ、○根本通明の論語講義及び諸雑誌を読む、

廿八日、矢野利喜蔵、松本亦太郎、桂有文、平川泉吉来訪す、○書状を井上健児、冨田順吉、仝貞松、及び姉崎正治に送る、○夜、小林一郎、井上成美来訪す、

廿九日、壱円五拾銭の為換を野置松太郎に送る、○夜、提学使黄紹箕、姚文倬、劉廷琛、呉慶坻、陳伯陶、呉魯、李翰芬、支恒栄、陳曽佑、錫嘏、杜彤、張建勲、礼部衙門員林灝深、曹廣権、王儀通、彭紹宗、彭祖齢、楊熊祥、学生監督喜源、通訳馮閲模、委員江庸、梁志宸、蹇益念を大学構内御殿に招燕す、岡田朝太郎、芳賀矢一、古城貞吉亦来る、

三十日、新井田某をして速記せしむ、○小豆沢英男、蠣瀬彦蔵、安倍徳太郎、原重太郎、浦谷熊吉来訪す、○午后六、三〇出発、博多に向ふ、○黒川真頼逝く、

三十一日、

九月

一日、午前九時頃博多に到着し、栄屋に投宿す、○入沢京太郎（福岡日々）矢田義勝（九州日報）来訪す、

二日、牧野富太郎、斎田耕陽、福井嘉納、熊谷玄旦、村上茂登子来訪す、

三日、福井嘉納、中村清次郎、深沢伊三郎、原田種一等来訪す、○市小路に赴く、

四日、古川勝隆、深沢伊三郎、谷理蔵来訪す、○電報を姉崎正治に送る、○夜、矢野義勝、磯野貞子来訪す、

五日、末松偕一郎（事務官）、斎藤儀八等来訪す、○不在中梅野駿二、松田孫四郎等来訪す、○此日博多の市街を漫遊す、○川端の隠居及び相続成る、

六日、松田孫四郎、福井嘉納、原田種一、村上茂登子来訪す、○姉崎正治、井上勃児従二東京一来、○磯野七平宅に至る、○蠣瀬彦蔵米国に赴く、

七日、谷慶祐、福井嘉納、冨田春山、斎藤庸一郎、仝寿七、座親玄山、熊谷玄旦来訪す、○警固村字柳原に至る、

八日、電報を東京留守宅に送る、○兄病気益危篤、
九日、午前七時四十五分兄侃斎死去す、享年六十二、○書状を東京留守宅及び学習院に送る、○吉嗣拝山及び聖福寺の和尚等と会見す、
十日、兄の屍体を解剖に付す、○晩に火葬場に赴く、
十一日、兄の記念物を分配す、○夜、姉崎正治来訪す、○「農業修身」一百枚の奥附を金港堂に付与す、
十二日、斎藤儀八、福井嘉納等来訪す、○榎本与七郎、田中喜代次、聖福寺の和尚等と会見す、○兄の葬式を執行す、
十三日、午前一一、○三博多を出発す、深沢伊三郎、福井嘉納送来る、○堀尾彦六郎、中江信彦と会見す、
十四日、夜九時四十分新橋着、十時半頃帰宅、○汽車中鈴木三重吉と会見す、
十五日、浦谷熊吉、辻本卯蔵、川田鉄弥、有馬祐政、高瀬武次郎来訪す、○林高美亦来訪す、
十六日、遠藤隆吉、小川恂蔵、深作安文、小谷重、井上相如、川上生八、船田三郎、大島正徳、原平吉、井上成美、瀧精一、外に女学生三名来訪す、○佐藤吉次、高橋正熊来訪す、以レ無二時間一不レ遇、〔頁下部に新聞記事切抜貼付「帝国学士会員勅任」〕
十七日、菊池大麓、友枝高彦、森良三郎来訪す、○「東亜の光」(第五号)を小杉熙、高田定太郎、永井万太郎、青木倉蔵、青木常蔵、森友蔵、佐伯俊二、木山熊次郎、山田長次郎、村上茂登子に送る、○此日大掃除をなす、
十八日、姉崎袖子、塩谷温、清水金右衛門来訪す、○「学生の風紀問題に就いて」を博文館に付与す、○独逸人Grassmannと電話にて会見の日を約す、
十九日、坂本嘉治馬来訪す、○此日学習院の修身講話を始む、○教授会に赴く、○不在中安藤健太郎来訪す、
二十日、野上俊夫、補永茂助、川田鉄弥、安藤健太郎、保々清音、浦谷熊吉、小笠原敬三、秋山悟庵、中井宗太郎、鈴木周作、堀田相爾来訪す、
廿一日、「中学修身」(一)参百枚の奥附を金港堂に付与す、○小林一郎、森良三郎、桑田芳蔵来訪す、○国語調査会に赴く、○「中学修身」七十枚の奥附を文学社に付与す、○屋根を修復す、
廿二日、浦谷熊吉、森良三郎来訪す、○患二風邪一、○終日細雨濛々、
廿三日、吉田賢龍、久保嘉久三、川上生八、船田三郎、補永茂助、石井浪平来訪す、○「訂正女子修身」第一巻を金港堂に送る、○雲南提学使葉爾愷より武梁祠像を贈り来る、○磯辺弥一郎亦来訪す、○夜、検定試験答案を読む、
廿四日、小林一郎、村上俊江、大塚保治来訪す、○検定試験の答案を読む、
廿五日、矢野仁一、浦谷熊吉、中井宗太郎来訪す、○検定試験の答案を読む、○京都大学文科大学開講式を行ふ、学生十四名、選科生十五名、
廿六日、教授会に赴く、○柳谷謙太郎、山鹿素行の法会を営む、○書状を清水金右衛門に送る、○夜、松岡寿を訪ふ、

廿七日、始めて大学の講堂に赴く、○検定試験の答案を読む、
廿八日、巣鴨、池袋、雑司ヶ谷、高田、早稲田等の状況を視察して還る、○浦谷熊吉、桂有文来訪す、○夜、松岡寿を訪ふ、不レ在、尋いで土屋鳳洲を訪ふ、○Wundt, System der Philosophie を読む、○植木屋来る、○佐々友房逝く、
廿九日、谷慶祐、松岡寿来訪す、○文科大学委員会に大学集会所に赴く、○Oswald külpe, Die Philosophie der Gegenwart in Deutschland を読む、
三十日、北村教厳、加藤玄智、島田蕃根、松岡寿、豊原清作来訪す、○日野三郎来訪す、有レ故不レ遇、

十月

一日、友枝高彦、田中永昌来訪す、○松岡寿を訪ふ、○「女子修身」を訂正す、○「学生の風紀問題」太陽に出づ、
二日、「訂正女子修身」(巻二)を金港堂に付与す、○洋服店大河内来る、○検定試験の答案を読む、○森良三郎、葉山万次郎来訪す、
三日、始めて学習院女学部に赴く、大東重善、佐野安等と会見す、○不在中渋谷愛夫来訪す、○工藤茂三郎来訪す、有レ故不レ遇、○教授会に赴く、○Masoeur Enphrosnie を訪ふ、○検定試験の答案を読む、○根本通明逝く、享年八十五、〔頁下部に新聞記事切抜貼付、「根本博士の死去」〕
四日、奥田立実、金仙宗諄、塩谷温、安田旭軒、浦谷熊吉、工藤茂三郎、間千代、伊藤六蔵、高等学校生徒三名来訪す、○検定試験の成績を文部省に送る、○「東亜の光」(六)を北里闌、村上茂登子、青木倉蔵、吉田淳吉、井芹経平、冨田順吉、川田鉄弥、小野藤太、吉田豊に送る、○中院冨有(中央新聞記者)来訪す、○ロイドの論文を読む、
五日、川上生八、藤原喜一来訪す、○吉田熊次当の書状を倫敦巴里の二ヶ所に送る、○「女子修身」百枚及び「倫理教科書」二百枚を金港堂に付与す、○「東亜の光」を小杉熈、石橋臥波、林捨蔵、倉成久米吉、松平直亮、飯田御世吉郎、永井万太郎に送る、○Külpe, Die Philosophie der Gegenwart in Deutschland を読む、
六日、雪子を拉して鍋島家を訪ふ、鍋島直大、仝栄子、仝信子、大塚琢蔵、田中永昌等と会見す、帰途鞆屋に立寄る、○妻子の誕生を考察するに左の如し、

縫子…文久元年五月十二日
雪子…明治十五年六月十一日
清子…明治二十五年九月二十九日
宣光…明治二十八年二月八日
春枝…明治三十一年二月十二日
正勝…明治三十三年八月二十四日
益之進…明治三十七年九月二日

○夜、「女子修身」を訂正す、○ロイドの論文を送返す、
七日、日野三郎、田中義能、森良三郎来訪す、○柳生をして根本通明の葬式に赴かしむ、○鞆屋より「カバン」二箇を送来る、○午后西沢之助来訪す、○渋谷愛夫来訪す、有レ故不レ遇、
八日、「中学修身」百枚の奥附を文学社に付与す、○書状を山形県

東置賜郡中川村々役場に送る、○「訂正女子修身」(巻三)を金港堂に付与す、○友枝高彦来訪す、○夜、実際教育社の為めに速記者をして速記せしむ、○吉田熊次より書状来る、○「女子修身」を訂正す、

九日、「朱子哲学」百五十枚、「倫理と宗教との関係」五十枚の奥附を冨山房に付与す、○保々清音、浦谷熊吉、松本愛重来訪す、○書状を嘉納治五郎、中村安太郎に送る、○重野安繹の「武士道論」を読む、

十日、池田夏苗、川田鉄弥、小野藤太、姉崎袖子、樋山秀雄妻来訪す、○Tourane乗船の切符を鍋島家より受取る、価五百九拾七円九拾五銭、○柳生をして東京府に至らしむ、旅行免状を請ふが為めなり、○重野安繹の「武士道論」を読む、

十一日、書状を井上健児、仝淳、佐伯俊二に送る、○浦谷熊吉、渋谷愛夫来訪す、○書状を吉田熊次に仏国に送る、○夜、浦谷熊吉再び来訪す、○夜、「女子修身」を訂正す、

十二日、「中学修身」百二十八枚の奥附を文学社に付与す、○「女子修身」第四巻を金港堂に付与す、○「普通教育に於ける徳育」を安田旭軒に送る、○大塚楠緒子、町田芳次郎来訪す、○帝国学士院に赴く、○不在中深作安文妻来訪す、○柳生を東京府庁に遣はす、○夜、早稲田文学を読む、

十三日、小谷重、速水滉来訪す、○Külpe, Die Philosophie Gegenwart in Deutschlandを読む、○帰朝以来満十六年、

十四日、大島正徳、波多野精一、亀田次郎、浦谷熊吉、豊原清作来訪す、○Külpe, Die Philosophie Gegenwart in Deutschlandを読む、○仕立原大河内来る、○夜、井上健児より電報来る、

十五日、葉山万次郎、小清水金蔵、西村支店手代并に桂有文来訪す、○書状を佐藤誠実、中村安太郎に送る、○演説筆記を訂正す、○西田政造より書状及び松茸壱籠并に井上円了より端書来る、

十六日、「修身科の授業法に就て」を安藤健太郎の使者に付与す、○塩谷温、深作安文、紀平正美、笹川貞子、元良米子来訪す、○書状を三好愛吉、西田政造、石川松渓に送る、○岩佐重一為二「日本婦人」一、○夜、斎藤基次郎与レ母倶来訪、○日本書紀及び国史眼を読む、

十七日、秋山悟庵、川田鉄弥、石幡冨子来訪す、○雪子を拉して家族会に精養軒に赴く、来会者は元良勇次郎及び妻、姉崎正治、大塚保治及び妻、朝永三十郎及び妻、紀平正美、田中喜一、増野悦興、樋口秀雄及び妻、吉田賢龍及び妻、藤井健次郎妻、千葉鉱蔵、吉田静致、友枝高彦、中島徳蔵及び妻、波多野精一、得能文、深作安文及び妻、下田次郎、溝淵進馬、○日本書紀及び国史眼を読む、○冨田貞松より書状来る、

十八日、堀内尚同、有馬祐政、姉崎増子、石川幸吉、浦谷熊吉来訪す、○雪子の荷物四箇を西村に付与す、○佐藤誠実の履歴書を帝国学士院に送る、○日本女学校に赴き、「国体の話」をなす、土方久元、下田次郎と会見す、○佐藤誠実、江口進三、黒金泰信より書状来る、○松田湛堂、佐藤実道来訪す、以二多忙一故不レ遇、○山口志げ来る、

十九日、午后六時雪子新橋出発、仏国に赴く、因りて児輩を拉して之を送る、新橋迄の見送人は、元良夫妻、大塚楠緒子、藤井健次郎妻、友枝高彦、姉崎袖子、仝正治、笹川貞子、間端吾、波多野精一、中島徳蔵妻、樋口秀雄及び妻、葉山照子、松永武雄、中井宗太郎、辻本卯蔵、岡田女史及び村井、并に井上成美、斎藤基次郎、鍋島家老女等、其中特に横浜迄赴く者、紀平正美、深作安文、○夜、西村旅館に宿す、田中永昌と共にTourane を訪ひ、内部を一覧す、大塚琢造に逢ふ、

二十日、午前九時Tourane 解纜す、鍋島一家と同じく見送をなす、石橋友次郎及び妻、浦谷熊吉亦来る、○午前十一時二十分の汽車にて還る、○山根勇蔵、森岡栄来訪す、○井上健児、小谷重より書状来る、

廿一日、午前七時五分飯田町出発、午后十二時三十二分甲府着、直に談露館に投ず、○共進会を一覧して後、県会議事堂に赴き、一府八県連合教育会大会に莅み、「国体と教育」を演説す、聴衆一千数百人、○夜、懇親会に望仙閣に赴く、武田千代三郎（知事）、真中直道（第二部長）、添田敬一郎（第一部長兼第三部長）、森山辰之助（師範学校長）、山本宗太郎（師範教諭）、西本徳蔵（東京府北豊島郡視学）、大島正健（第一中学校長）、中川太郎（第二中学校長）、林光徳（高等女学校長）、田崎要（商業学校長）、堀口兼三郎、多田房之輔、赤津正親、真野文二、辻新次、井口あぐり子等と会見す、

廿二日、午前八、○四辻新次と共に甲府を出発す、汽車中河上肇と会見す、○午后三時帰宅す、○葉山万次郎来訪す、○夜、金港堂の招燕に帝国ホテルに赴く、支那の提学使黄紹箕等と会見す、加藤弘之、上田万年、芳賀矢一、市村瓚次郎等も亦来会す、○小林一郎、井上淳、石川松渓より書状来る、○川面凡児より著書二冊を送来る、

廿三日、午前秋山悟庵来訪す、○小杉熙、高山栄一より書状来る、○午后電報を大倉喜八郎に送りて其古稀の齢を祝す、○「陽明哲学」一百枚の奥附を富山房に付与す、○夜、月江雋英をして速記せしむ、○小谷重より書状来る、○「現今の宗教問題序」を秀英舎に送る、○此頃桑港排日問題喧し、

廿四日、宮崎真、保々清音、渡辺良法来訪す、○午后、宇野哲人及び福岡興風会等より書状来る、○日本書紀及び国史眼を読む、○夜、端書を深作安文、秋山悟庵に送る、○万葉集を読む、

廿五日、講義に大学に赴く、○史料原稿及び花園院御記等を史料編纂掛に返す、○午后、浦谷熊吉、深作安文、石川幸吉来訪す、○書状を嘉納治五郎に送る、夜、検定試験問題を松本順吉に送る、○此日平岡浩太郎逝く、

廿六日、午前、日本書紀、仏説百喩経等を読む、○午后、国語調査会に赴く、○端書を尾上柴舟に送る、○夜、書状を吉田熊次及び清水金右衛門に送る、○教育時論及び新仏教を読む、○廻間武三逝く、

廿七日、午前、嘉納治五郎及び支那提学使より書状来る、○長岡氏の「ラヂウムと電気物質観」を読む、○葉山万次郎来訪す、○書

状を吉田熊次に独逸に送る、○午后、佐伯俊二来訪す、○委員会に大学集会所に赴く、○夜、尾上八郎来訪す、○長岡氏の「ラヂオム」を読む、

廿八日、木村鷹太郎、手塚光貴、徳谷豊之助、船田三郎、浦谷熊吉、桂有文、遠藤隆吉来訪す、○午后、柳生をして石橋政一の葬式に赴かしむ、○小林一郎来訪す、○冨山房及び尾形正弥等より書状来る、○夜、塩谷温、大村欣一来訪す、

廿九日、午前、講義に大学に赴く、○徳谷豊之助、塩谷温来訪す、○午后、臨時教授会に大学集会所に赴く、○夜、各省提学使、学部右参議、学部委員の招待に上野精養軒に赴く、鍋島侯爵、細川侯爵、高田早苗、伊沢修二、辻新次等と会見す、

三十日、塩谷温の独逸に赴くを新橋に送る、帰途鍋島侯爵を訪ふ、○建部遯吾、江口進三より書状来る、○午后、評議会に赴く、○不在中塩谷時敏、境野哲、寺田慧眼来訪す、○夜、「女子修身」の出版届を金港堂に送る、○夜、日本書紀を読む、○足羽黙莽より書状来る、○此日、日米事件に関する意見、電報新聞に出づ、

卅一日、午前、学習院に赴く、○日本書紀を読む、○午后、「女子修身」二百枚を金港堂に付与す、○保々清音来訪す、○松本愛重及び細川潤次郎の武士道論を読む、○夜、研究に従事す、

十一月

一日、午前、講義に大学に赴く、○午后、桑田芳蔵、浦谷熊吉、古城貞吉、岩佐重一、佐藤吉次、志田惣三郎、松浦一、鈴木吉三郎来訪す、○有賀長雄逝く、

二日、午后、鈴木吉三郎来訪す、乃ち家屋図書衣服夜具蒲団凡そ壱万弐千円の火災保険をなす、○夜、雪子の書状、上海より来る、○丁酉倫理を読む、○此日浦谷熊吉来訪す、

三日、「東亜の光」第七号を冨田春山、仝順吉、斎藤庸一郎、飯田御世吉郎、青木倉蔵、村上茂登子、大江文城、木山熊次郎、小杉熙、千賀鶴太郎に送る、○須藤求馬、保々清音来訪す、○冨田春山より書状、吉田熊次より原稿送来る、○「修身科の授業法に就きて」教育の実際に出づ、○丁酉倫理を読む、○午后、浦谷熊吉、保々清音、中井宗太郎、堀田相爾来訪す、乃ち之を饗応す、○丁酉倫理を読む、○夜、丁酉倫理、弘道会叢記等を読む、

四日、鷲尾順敬、木山熊次郎、市村瓚次郎、龍谿観興来訪す、○午后、丁酉倫理会の研究会に赴き、「倫理と宗教」を講述す、夜、九時頃に及んで帰宅す、

五日、午前、講義に大学に赴く、○午后、柳生をして有賀長雄の葬式に会せしむ、○薄井秀一、浦谷熊吉、高等学校生一名来訪す、○夜、教育界、教育の実際、及び東亜の光等を読む、○此日、「普通教育に於ける徳育」教育界に出づ、○佐藤吉次より書状来る、

六日、午前、修身科検定本試験を文部省に行ふ、○書状を朝報社に送る、○時田益子来談す、○午后、弘道館より現今の宗教問題、育児日誌、農業振興策、予の半面、の四部を送来る、○「中学修身」第四を文学社に付与す、○夜、辻本卯蔵来談す、

七日、午前、学習院に赴く、更に転じて女学部に赴く、野矢丈夫と

会見す、○不在中八太徳三郎（政教社員）来訪す、○午后、日本書紀を読む、○不在中秋山悟庵、筑前の一書生来訪す、○夜、宇野哲人より書状を送来る、

八日、午前、森良三郎来訪す、○講義に大学に赴く、○「訂正女子修身」百八十枚の奥附を金港堂に付与す、○日本書紀を読む、○午后、八太徳三郎、小野藤太、松田湛堂、紀平正美、鷹野某、桂有文来訪す、○夜、筑前学友会に於ける講演筆記を訂正す、○此日より二六新聞を送来る、

九日、森良三郎来訪す、○E.H.Bradley, Appearance and Realityを読む、○清水商会の手代来る、○午后、三井銀行に赴き、尋いで国語調査会に赴く、○夜、吉田熊次の論文を博文館に送る、○又Bradleyの書を読む、○「文章の要素」てふ談話筆記を鷹野勇雄に送る、○此日、学友会に於ける講演筆記を筑前の一書生に付与す、

十日、藤原喜一来訪す、○所得税弐拾円六拾壱銭、市税所得税附加、区費所得税割弐円弐拾四銭家屋税五円七拾九銭、地租七拾銭、合計弐拾九円四拾四銭を区役所に納む、○家庭講話の序を作る、○午后、家庭講話序を松栄堂に送る、○Bradley, Appearance and Realityを読む、○夜、長岡氏の「ラヂウムと電気物質観」を読む、○検定試験の答案を読む、○此日、続蔵の第一輯第拾九套を受取る、○姉崎益子出産、

十一日、浦谷熊吉来訪す、○戸谷一雄、豊原清作来訪す、有「故不」遇、○検定試験の答案を読む、○午后、柳生をして斯波淳六郎の妻の葬式に会せしむ、○夜、患二腸加答児一、

十二日、午前、岩佐重一来訪す、○検定試験の答案を読む、○書状を帝国学士院に送る、○午后、政教社員八太徳三郎来訪す、乃ち談話を筆記せしむ、○夜、日本紀を読む、○牧野文相より招待状来る、

十三日、午前、日本紀を読む、○午后、安藤健太郎来訪す、○書状を牧野伸顕に送る、○「日本国の将来如何」を八太徳三郎に送る、○日本紀を読む、○夜、国史眼を読む、

十四日、午前、学習院に赴く、○「新編倫理」（下）二百枚の奥附を金港堂に付与す、○国史眼を読む、○中島力造来訪す、○谷本冨より書状来る、○史料編纂より「締盟各国条約彙纂」桑木厳翼より「性格と哲学」を送来る、○夜、研究、

十五日、午前、講義に大学に赴く、○午后、浦谷熊吉、若守義孝、佐藤吉次来訪す、○富山房より日本家庭百科字彙を送来る、○夜、書状を浦谷熊吉に送る、○Ethische kultur及びBradley, Appearance and Realityを読む、

十六日、午前八時より午后七時に至る迄修身科検定本試験の口述試験を文部省修文館に行ふ、○深作安文原稿を送来る、○長屋順耳欧洲に向って出発す、

十七日、午前、引続いて検定試験を行ふ、○午后、熊谷直一来訪す、○夜、牧野文相の招待を受けて官邸に赴く、

十八日、「女子修身」五百枚の奥附を金港堂に付与す、○原田秀泰、加藤玄智、小林義則、広池千九郎、桂有文来訪す、○午后、研究、

○夜、研究、
十九日、午前、講義に大学に赴く、○午后、徳風会に西教寺に赴き、「青年の煩悶に就いて」一場の演説をなす、○深作安文来訪す、○不在中坂上忠之介来訪す、○夜、日本紀を読む、
二十日、午前、群書一覧を読む、○午后、岩佐重一来訪す、○国史眼及び承陽大師御伝記を読む、
廿一日、午前、六時四十五分女子出産、高子と名づく、○講義に学習院女学部に赴く、○倉田清、森政直来訪す、有レ故不レ遇、○午后、曹洞宗大学林に赴き、「禅の日本文明に及ぼせる影響」を講演す、釈宗演、梶川乾堂等と会見す、○夜、深作安文来訪す、○雪子より西貢発の絵端書来る、○研究、
廿二日、講義に大学に赴く、○「日本国字の将来如何」日本人に出づ、○午后、村上寛、石川幸吉、松田湛堂、坂上忠之介、浦谷熊吉、山口志げ来訪す、○夜、東亜協会の評議員会を富士見軒に催す、○宮崎ゆう来る、○辻本卯蔵より書状来る、○「文章の要素」作文叢話に出づ、○此頃青山延寿逝く、享年八十七、
廿三日、午前「学生宝鑑」二百枚の奥附を大倉書店に付与す、○保々清音来訪す、○午后、冨尾木知佳、間千代来訪す、○荒浪市平をして同文館の為めに速記せしむ、○坂上忠之介より書状来る、○夜、国史眼を読む、
廿四日、午前、清水金右衛門来訪す、○大村欣一より書状来る、○深作安文より原稿を送来る、○午后、時田益子来訪す、○Bradley, Appearance and Realityを読む、○西尾実資来訪す、○長岡氏の「ラヂウムと電気物質観」を読む、
廿五日、金仙宗諄、松平治郎吉、織田祐萌、浦谷熊吉、森良三郎、大村欣一来訪す、○「中学修身」五拾枚の奥附を文学社に付与す、○午后、辻本卯蔵、清水金右衛門、前川亦三郎来訪す、○「釈迦牟尼伝」五百部の奥附を文栄閣に付与す、○深作安文、山根勇蔵、宮崎大太郎来訪す、宮崎氏は有レ故不レ遇、○夜、長岡氏の「ラヂウムと電気物質観」を読む、
廿六日、午前、講義に大学に赴く、○午后、浦谷熊吉、小清水金蔵来訪す、○夜、深作安文来訪す、○倫理学の原稿を富山房に送る、
廿七日、午前、研究、○時田益子来訪す、○雪子、仏国馬耳塞港に着す、○午后、浦谷熊吉、森山章之丞来訪す、○夜、研究、○此日、出産届をなす、
廿八日、午前、学習院に赴く、○稲垣満次郎、浦谷熊吉来訪す、○午后、大学に赴く、○書状を松平治郎吉に送る、○夜、国史眼を読む、○佐伯俊二より書状来る、
廿九日、午前、講義に大学に赴く、○午后、村上寛、堀内尚同、融道玄、松平治郎吉、秋山悟庵、紀平正美、岩佐重一来訪す、○釈宗演より降魔日史を送来る、○夜、長岡氏の「ラヂウムと電気物質観」を読む、
三十日、午前、書状を大村欣一、安河内健次および釈宗演等に送る、○午后、国語調査会に赴く、○浦谷熊吉来訪す、○立山又四郎より写真を送来る、○辻本卯蔵より計算明細書を送来る、○夜、羅馬拡会脱会の事を羅馬字雑誌発行所に申送る、○「ラヂウムと電

気物質観」を読む、○此日、畠山健に追悼状を送る、

十二月

一日、桑田芳蔵来訪す、○「ラヂウムと電気物質観」を読む、○稲垣満次郎及び若守義孝等より書状来る、○徳冨猪一郎より「七十八日遊記」松栄堂より「家庭講話」を送来る、○午后、Bradley, Appearance and Reality を読む、○大村欣一より来状、

二日、午前、補永茂助、大原保、浦谷熊吉、秋山悟庵、原平吉、遠藤隆吉、佐伯俊二来訪す、○午后、麻生正蔵、保々清音来訪す、○夜、哲学大会に大学の集会所に赴く、Ladd と会見す、○James Crall, Stellar Evolution を読む、

三日、午前、講義に大学に赴く、○午后、書状を中村勝麿に送る、○新時代、心の花、活動の日本等を読む、○夜、往復端書を井上健児に送る、

四日、午前、大庭雄貴、時田益子来訪す、○国史眼を読む、○午后、大学の評議会に赴く、○夜、研究、

五日、午前、大村欣一より来状、○学習院に赴き、尋いで女学部に赴く、乃木大将に学習院に会見す、○岩佐重一来訪す、○午后、町田芳次郎来訪す、○鍋島侯爵邸に還暦の祝に赴く、大隈重信、寺内正毅、金子堅太郎、牧野伸顕、稲垣満次郎、細川潤次郎、肝付兼行、林董、山座円次郎、田中光顕、末松謙澄、柳沢保恵、石黒忠悳、三浦安等と会見す、○夜、研究、

六日、午前、講義に大学に赴く、○帝国学士院及び筑前学友会より来状、○午后、保々清音、足立栗園、桂有文、有馬祐政、浦谷熊吉来訪す、○夜、速記者をして速記せしむ、

七日、午前、阿部維巌、志知善友来訪す、○午后、「女子の道徳」(速記)を岩佐重一に送る、○「中学修身」六百四拾七枚の奥附を文学社に付与す、○三井銀行に赴き、尋いで国語調査会に赴く、○安河内健児より来状、○夜、小谷重来訪す、

八日、午前、中村勝麿より来状、○午后、牧野文相の招燕に官邸に赴く、末松謙澄、金子堅太郎、新渡戸稲造、菊池大麓等と会見す、○夜、野村靖邸に赴く、○吉田熊次より来状、

九日、午前、田中義能、松平治郎吉、浦谷熊吉、成田衡夫、安田旭軒、石橋哲爾来訪す、○午后、秋山悟庵来訪す、○原田秀泰より来状、○夜、研究、○此日、井上健児より来状、

十日、午前、講義に大学に赴く、○吉田熊次より絵端書来る、○午后、国史眼及び日本政記を読む、○夜、「武士道の精神」を足立栗園に送る、○帝国学士院より来状、

十一日、午前、坂本嘉治馬、浦谷熊吉来訪す、○新渡戸稲造より来状、○午后、安田旭軒をして速記せしむ、○興風会より来状、○亀谷馨より大自観を送来る、○夜、明治文学史の序を作る、

十二日、午前、学習院に赴く、○大学の教授会に赴く、○午后、学士院に赴く、○夜、九時半頃帰宅、○此日、井上健児より来状、○不在中西本徳蔵来訪す、

十三日、午前、講義に大学に赴く、○松村正一より来状、○文学社より「中学修身」八冊を送来る、○午后、浦谷熊吉、成田衡夫、石川幸吉来訪す、○夜、文部大臣の官邸に赴く、金子堅太郎、末

松謙澄、神田乃武、新渡戸稲造、菊池大麓等と会見す、○此日、「明治文学史」の序を育英舎に付与す、
十四日、午前、有馬祐政、井上円了来訪す、○午后、前田晁、安田旭軒来訪す、○夜、新渡戸稲造の招燕に小石川台町に赴く、Ladd, De Forest及びグリーン、マクドナルド、ハーツソン諸氏と会見す、○狩野良知逝く、享年七十八、
十五日、午前、磯江潤より反物を送来る、○午后、石川岩吉をして速記せしむ、○夜、「禅の日本文明に及ぼせる影響」の訂正を和融誌編輯局に送る、○安田旭軒の速記を訂正す、○此日、教員検定委員会臨時委員被免、
十六日、午前、松平治郎吉、島貫彦次郎来訪す、○午后、文学士廻間武三の追弔会に麟祥院に赴く、三宅雄次郎と会見す、○不在中有賀長雄、間千代来訪す、○大内青巒より碧巌集講話を送来る、○夜、安田旭軒の速記を訂正す、
十七日、午前、講義に大学に赴く、此日を以て年内の講義を終結す、○安田旭軒の速記を金港堂に付与す、○柳生を文部省と学習院に遣はす、○続蔵経第一輯第二十套を受取る、○佐伯俊二より来状、○雷雨、○午后、荒浪市平の速記を訂正す、○夜、菊池大麓の送別会に植物園に赴く、ケーベル、フローレンツ、ラッド、ローレンス、ロイド諸氏と会見す、
十八日、午前、荒浪市平の速記を同文館に付与す、○三井銀行に赴く、○午后、「女子修身」一百枚の奥附を金港堂に付与す、○浦谷熊吉、田山録弥来訪す、○夜、ラッドの慰労会に大学集会所に赴く、○吉田熊次、佐藤吉次、田中義能より来状、○土屋弘より近世大戦紀略、桑木彧雄より絶対運動論を送来る、○此日、柳生をして狩野良知の葬式に赴かしむ、
十九日、午前、学習院に赴き、尋いで女学部に赴く、○黒田家より来状、○午后、「農業修身」二百枚の奥附を金港堂に付与す、○丁酉倫理の速記を訂正す、○夜、書状を三宅雄次郎、町田則文に送る、
二十日、午前、丁酉倫理の速記を訂正す、○午后、浦谷熊吉、大村欣一、深谷善三郎、森良三郎来訪す、○深作安文より原稿を送来る、○帝国学士院より来状、○夜、丁酉倫理の速記を訂正す、
廿一日、午前、中島徳蔵、小林一郎、浦谷熊吉来訪す、○佐伯俊二より来状、○午后、浦谷熊吉来訪す、○辻本卯蔵及び武徳誌発行所より来状、○書状を佐伯俊二に送る、○丁酉倫理の速記を訂正す、○夜、宮内省より来状、○書状を黒田家に送る、
廿二日、午前、宮内省に赴く、賜物あり、佐藤正、三宅秀、有賀長雄と会見す、○丁酉倫理の速記を訂正す、○岩城準太郎の明治文学史出づ、○午后、丁酉倫理の速記を訂正す、○夜、日本学会に赴く、来会者は、萩野由之、前田慧雲、遠藤隆吉、吉田静致、深作安文、友枝高彦、有馬祐政、田中義能、阿部維巌、補永茂助、白石正邦、樫尾治、垣内松三、加藤玄智、佐伯常麿、浦谷熊吉、吉田賢龍、
廿三日、午前、田中義能、桂有文、船田三郎来訪す、○丁酉倫理の速記を訂正す、○鳥海宝子より歳暮二品を送来る、○午后、石橋

臥波、菓子箱を携へて来訪す、○中島徳蔵来訪す、乃ち之に「倫理と宗教」の原稿を付与す、○豊原清作、松田湛堂、荒木礒夫、山口志げ来訪す、○夜、安田旭軒来訪す、○石川岩吉の筆記を訂正す、

廿四日、午前、斎藤木来訪す、○石川岩吉の筆記を開発社に付与す、○不在中中村勝麿来訪す、○午后、研究、○夜、漢字統一会に富士見軒に赴く、重野安繹、三島毅、南摩綱紀、肝付兼行、金子堅太郎等と会見す、○春枝インフルエンザに罹る、○此日、畳屋及び経師屋来る、

廿五日、午前、風邪を患ふ、○研究、

廿六日、臥病、○浦谷来訪す、○和田垣謙三より来状、○水戸に於て大日本史報告祭を挙行す、

廿七日、午前、少しく軽快、○午后、保々清音、高橋正熊来訪す、○保険会社員真壁逸来る、乃ち之に既定の保険金を付与す、○金仙宗諄、田中経一郎、松平治郎吉、立木鶴子来訪す、以臥病故不遇○浦谷熊吉、岩城準太郎より来状、

廿八日、午前、三好愛吉及び帝国学士院より来状、○夜、風邪未全癒、体温三七、六、夜半後復二平温一、○賜本俸二級俸、

廿九日、午前、深作安文来訪す、○午后、菓子箱を元良氏に、鴨二羽を佐々木氏に、烟草及び柿羊羹を姉崎氏に、鴨二羽を真浄寺に、玉子箱を笹川氏に送る、○小谷重来訪す、○夜、平川泉吉来訪す、○此日、村田五郎より鰹魚節手形、野田書店及び文学社より砂糖を送来る、○清子患風邪、春枝平癒、

三十日、午前、秋山悟庵、森良三郎来訪す、○林檎を両隣に送る、○林平次郎よりビール壱箱、高瀬武次郎より鰹魚節手形を送来る、○冨尾木知佳より雉子を送来る、○午后、乾柿と香竄葡萄二罎を間端吾に、林檎を渡辺真に送る、○夜、雉子を松岡寿に送る、○文部省の辞令書を送来る、

卅一日、午前、玉子箱を秋山悟庵に、菓子箱を山口志げに送る、○午后、海苔二箱を井上道喜及び冨田春山に、壱箱を斎藤儀八及び弥吉為三郎に送る、○妻罹脳溢血、○夜、赴南明館、○到来物如左、

鰹魚節	村田五郎	菓子箱及松づくし	佐々木信綱
玉子箱	元良	巻煙草入レ	育成会
乾柿	森良三郎	反物一反	磯江潤
玉子箱及シャツ一ツ	清水商会	鴨二羽	磯辺弥一郎
ビール壱箱	ビール会社	仝上	福島元次郎
縮緬一反	富山房	玉子箱	三省堂
文房具一箱	同文館	ワッフル一箱	浅倉
蜜柑一箱	姉崎	玉子箱	伊藤六蔵
玉子箱及半襟	鳥海	柿羊羹	野田義夫
魚卵漬	小杉熙	雉子	冨尾木
書束箋	長江藤次郎	鰹魚節	高瀬武次郎
ビール一箱	林平次郎	林檎大箱	平川泉吉
菓子箱	秋山悟庵	銘酒	政教社
漬物	港堂	昆布巻	蜷川

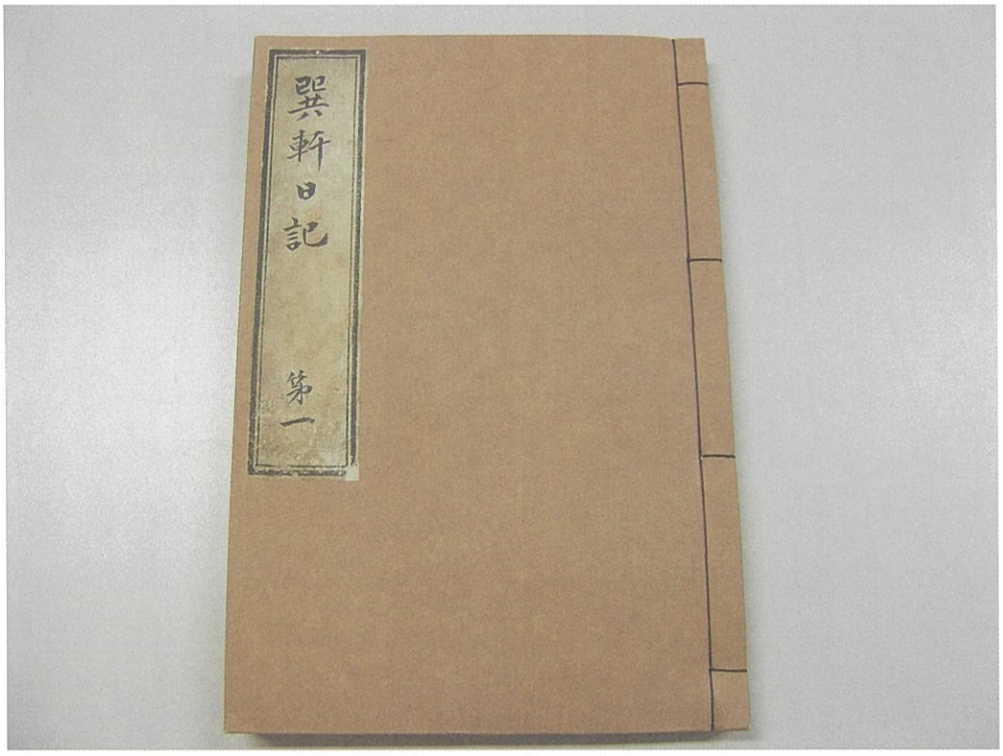
香嶺葡萄二本　田中義能　ビスクキット一箱　笹川

支那政府以孔子祭為国定祭日、

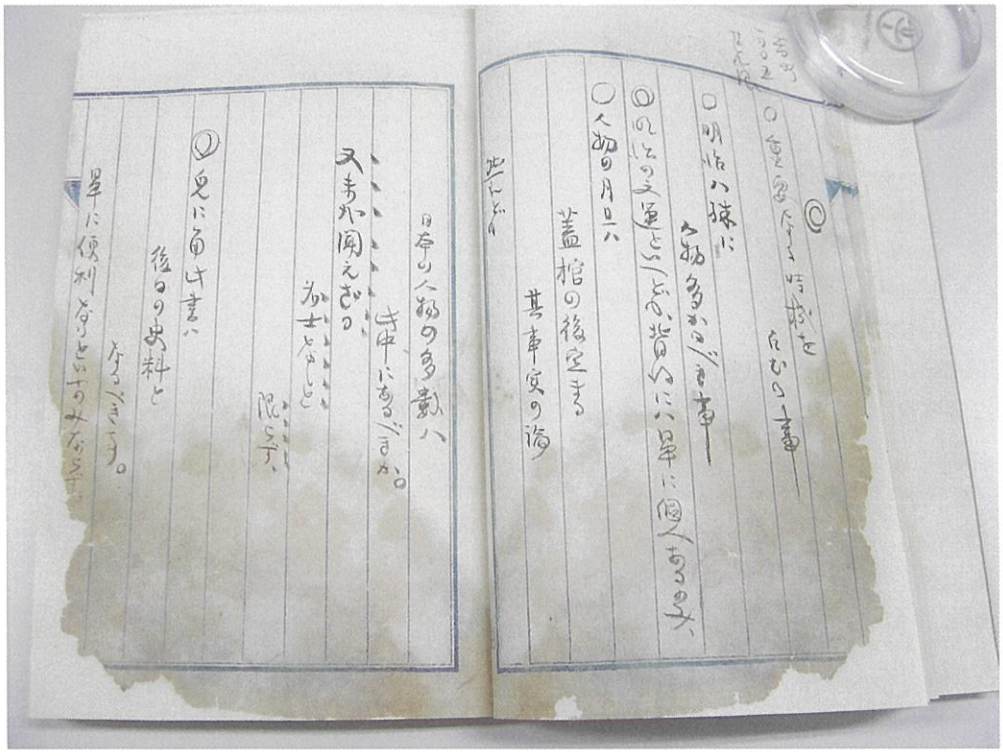
写真

1．巽軒日記全景

2．今回翻刻分（明治 33 ～ 39 年）

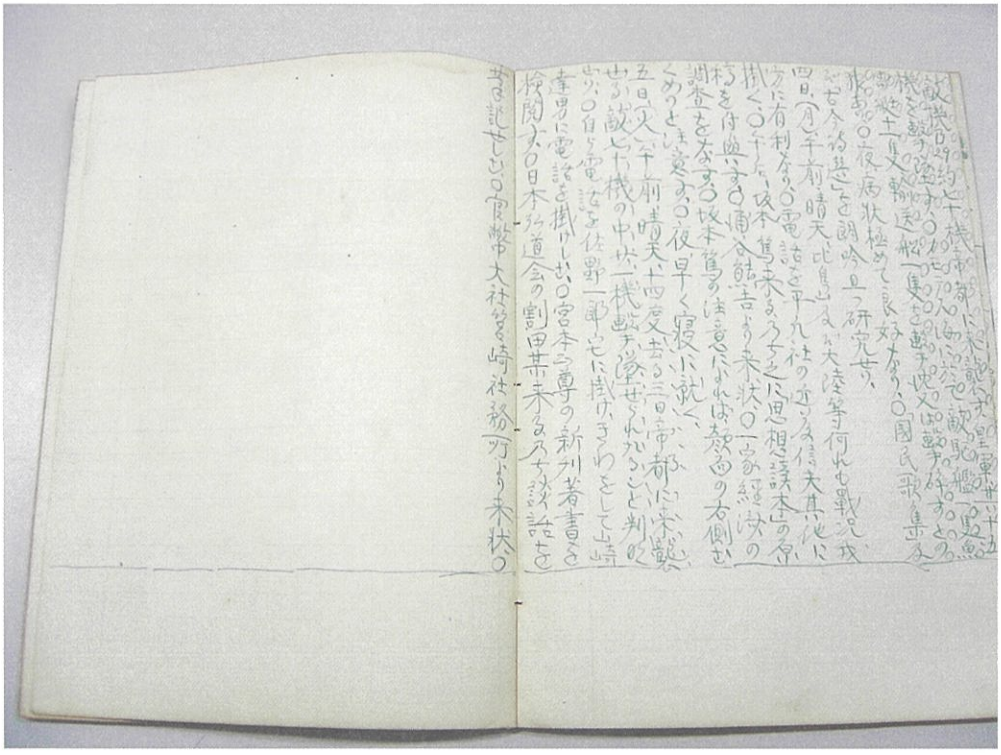


3.「巽軒日記第一」表紙



4.「巽軒日記第一」中、雑記部分

5．ノートに変わった昭和８年７月以降の日記



6．「巽軒日記」最後の記述（昭和 19 年 12 月 5 日）

巽軒日記

二〇一二年三月発行
編集・発行　東京大学史史料室
〒113-8654　東京都文京区本郷七丁目三―一
電話　〇三（五八四一）二〇七七
印　　刷　株式会社　ワーナー
〒263-0004　千葉県千葉市稲毛区六方町13番2号
電話　〇四三（四二一）二九三六（代表）